

Osaka Medical College Faculty of Nursing

大阪医科大学看護学部

年報 2018年度

Annual Report 2018

大阪医科大学 看護学部 2018 年度年報 目次

はじめに

I.	沿革	1
II.	看護学部教員組織	
1.	教員構成および教員数	2
III.	年間事業	
1.	年間事業活動内容	4
2.	2018 年度看護学部予算執行額	9
3.	学事一覧	9
4.	学生在籍数	14
IV.	運営と教育活動	
1.	運営組織	15
2.	看護学部センター	
	看護実践研究センター	16
	教育センター	21
	学生生活支援センター	31
3.	看護学部委員会	
	予算委員会	36
	実習委員会	37
	ウェブサイト委員会	40
	看護研究雑誌編集委員会	41
	物品管理委員会	42
	就職支援委員会	43
	国家試験対策委員会	46
	年報編集委員会	48
	広報委員会	49
	カリキュラム委員会	50
4.	大学院運営委員会	53
5.	看護学部教育活動	
1)	授業科目一覧	55
2)	各領域の教育活動	61
6.	大学院教育活動	
1)	授業科目一覧	71
2)	博士課程修了者学位論文タイトル一覧	77

V. 研究活動	
1. 研究実績	
1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況	78
2) 各自の業績（外部資金獲得除く）	82
VI. 社会活動	102
VII. 地域・社会貢献	109
VIII. その他	111

はじめに

2018年度看護学部年報は8回目の発行となります。各センターや委員会、各領域ではPDCAを実行し、当該年度の活動の振り返りを年報としてまとめてきました。また、各教員は、個々の研究活動、社会貢献等について振り返り、他の教員の活動を知り、目標を立てることができます。これらの活動は、教育の質向上に寄与しています。

本学は、2006年と2013年に大学基準協会の評価を受けています。今回は、2020年であり、2018年度から全学的に準備が始まっています。看護学部は開学10年目を迎えていることから、前回に比べ、特に教育課程・学修成果に関する評価が重視されることが推測されます。

また、平成25(2013)年第2期教育振興基本計画では、高度専門人材の育成に向けて、分野別質保証の構築・充実に向けて取り組みを促進することが閣議決定されました。看護学教育分野では、急増する看護系大学の観点と看護専門職の育成という社会的責務の観点から、「卒業生の具える能力は社会の期待に沿う水準に達しているか」、「カリキュラムは社会の変化に連動するニーズに対応したものとなっているか」が問われ、看護専門職教育に携わる看護系大学自らの責任として、質保証に取り組む必要があり、平成30(2018)年に日本看護学教育評価機構(Japan Accreditation Board for Nursing Education : JABNE)が設立され、2021年から評価が開始されます。

本学では、現学長の指揮のもと、定期的に教育・研究戦略会議が開催され、組織的にPDCAが行なわれ改革が進められてきました。私立大学等改革総合支援事業補助金の継続した獲得、科学研究費助成金獲得者の増加等の成果があがっています。

PDCAの手法について、「Plan(計画)、Delay(遅延)、Cancel(中止)、Apology(謝罪)と揶揄する向きもある。設定された計画が真に十全なものか、よく吟味せずにそれを始点とすれば、前例主義や上位下達、減点主義といった<畏縮>の慣習になってしまうだろう」というコラムが新聞に掲載されていました。

看護学部の委員会、領域、そして各自が、年報を有効に活用され、PDCAが適切に機能し、教育・研究の質が担保されることを願っています。

看護学部長
道重文子

I. 沿革

沿革

1927（昭和 2）年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927（昭和 2）年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929（昭和 4）年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946（昭和 21）年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946（昭和 21）年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948（昭和 23）年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951（昭和 26）年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更に依る）
1952（昭和 27）年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952（昭和 27）年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959（昭和 34）年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965（昭和 40）年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978（昭和 53）年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982（昭和 57）年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009（平成 21）年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010（平成 22）年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012（平成 24）年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013（平成 25）年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014（平成 26）年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設

II. 看護学部教員組織

1. 教員構成及び教員数

領域の教育構成と教育数は、下記の通りである。看護職 33 名、医師 3 名、教養 1 名であり、教員定数は 41 名である。

2019 年 3 月 31 日現在

【看護系教員】

領 域	教員構成 () 内は定員数					現在の欠員 (職位)
	教授	准教授	講師	助教	定員数	
基礎看護学	1 (1)	1(2)	2(0)	1(2)	5(5)	
急性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0(0)	0(1)	2(3)	1 (助教)
慢性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0(0)	1(1)	3(3)	
精神看護学	1 (1)	1 (1)	0(0)	1(1)	3(3)	
老年看護学	0 (1)	1 (1)	1(0)	1(1)	3(3)	
小児看護学	1 (1)	1 (1)	0(0)	1(1)	3(3)	
母性看護学・助産学 (コース選択6名)	1 (1)	0 (3)	1(0)	1(1)	3(5)	2(准教授)
在宅看護学	1 (1)	0 (1)	1(0)	1(1)	3(3)	
公衆衛生看護学 (コース選択40名)	1 (1)	2 (3)	0(0)	1(1)	4(5)	1(准教授)
看護実践発展	2 (2)	1 (1)	0(0)	1(1)	4(4)	
計	9 (11)	6 (15)	8(0)	5(11)	33(37)	4

【医学系・人文社会系教員】

領 域	教員構成 () 内は定員数					現在の欠員 (職位)
	教授	准教授	講師	助教	定員数	
精神医学	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
公衆衛生学	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
内科学	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
哲学	0 (1)	1 (0)	0	0	1 (1)	
計	3 (4)	1 (0)	0	0	4 (4)	

2018 年度の教員の異動は下記の通りである。

【昇任】

2018 年 4 月 1 日付で准教授 3 名（基礎看護学、急性期成人看護学、看護実践発展）が講師から昇任した。

【採用】

2018 年 4 月 1 日付で、教授 1 名（看護実践発展）、助教 4 名（慢性期成人看護学、精神看護学、

母性看護学・助産学，看護実践）を採用した。

2018年7月1日付で、講師2名（老年看護学、基礎看護学）、助教1名（小児看護学）を採用した。

【退職】

2019年3月31日付で、助教2名（老年看護学，小児看護学）が退職した。

【非常勤教員の採用】

2019年4月1日付で，3名（急性期成人看護学，基礎看護学，公衆衛生看護学）を採用した。

【実習補助員の採用】

小児看護学（1名），老年看護学（2名），母性看護学・助産学（2名），成人保健（1名）の各実習期間内で不定期雇用した。

2. 教員の補充について

教員の欠員に対しては、非常勤教員3名と実習補助員6名を採用した。

教員の定員数が充足している領域においても，実習施設が，附属病院以外の外部施設を使用した老年看護学，小児看護学では実習補助員を雇用した。

本年度は，障害のある学生に対する支援として，3年生の領域実習において，1名の学生から支援の申し出があり領域内で指導体制を整えた。小児看護学領域では実習補助員，急性期成人看護学領域ではTAを雇用し，人員補充を行った。

Ⅲ. 年間事業

1. 年間事業活動内容

看護学部および看護学研究科では、表に示すように各センターや委員会に年間計画を立案し、教育の質転換を目指し事業を実施している。2018年度（平成30年度）に実施した主な事業を報告する。

1) 教育活動について

教育活動に関しては、教育センターが主となり、学生の授業評価、教育の質向上のためのFD活動や教育講演の企画、教育機器の整備等を実施している。詳細は教育センターが報告している。

学生への対応では、障がいのある学生に対する実習中の合理的配慮について、実習委員会と学生生活支援センターが主となり対応マニュアル案を作成し、看護学部と附属病院看護部の合同会議である看護教育調整会議で検討を進めた。2018年度は、第3学年から1名申し出があり、障がい学生支援委員会、実習委員会が各領域実習担当者および実習施設責任者と調整や配慮を行い、全ての実習を修了することができた。

入試制度に関してより良好な学生を受け入れ、附属病院に勤務する看護師を養成する目的にて2012年度（平成24年）より特別奨学金貸与推薦入試制度（専願制）を導入した。しかし、入学した学生の学業成績が芳しくなく留年者や附属病院の採用試験の不合格者が出るなど当初の目的が十分に果たせていないことから、特別奨学金貸与推薦入試制度は、2019年度入学生までとし、2020年度からの入試は廃止となった。そして、2020年度からは、様々な潜在的能力を有し、入学後の学修に対する強い意欲を持つ学生（社会人を経て学び直しを志す者、地域医療に貢献したい者、科学や芸術などで優れた能力を持つ者などの多様な人材）を育成するために総合型選抜入試（AO入試）である「建学の精神入試」（専願制）を導入することになった。

学生のグローバル化の意識や英語会話能力の向上を目指し、2017年度からPA会の資金援助のもと、看護学実践研究センターが企画し、正課の英語の授業外に英会話教室を定期的に開催した。しかし、クラブ活動等の都合により学生の参加者が少なく、主体的参加者を増やすことが課題である。また、国際交流校として、これまで交流してきた台北医学大学に加え、ミネソタ州立大学マンケート校との交流準備を進めた。

2) 研究活動

文部科学省科学研究費に関しては、多くの教員が申請し、採択率も高く活発に研究活動を実施している。

また、文部科学省平成29年度『私立大学研究ブランディング事業』が採択され、「オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出」の事業に看護学部も参画している。2018年10月からは、健康啓蒙活動として「comekamuサロン」を開設し、毎週火曜日の午後1:30~3:00にミニレクチャーと血圧測定や口腔内細菌数の測定などの様々な測定を行っている。

3) 社会貢献

看護学部の事業としては、看護学実践研究センターが主となり、市民看護講座、人材育成講座を開催している。各教員の活動および詳細は、それぞれが報告している。

4) 管理・運営全般

(1) 教員の質担保について

准教授及び講師候補者の選考に関して、准教授及び講師候補者審査運営要領を定め、教員の質

を担保するために評価基準を制定した。

(2) カリキュラム委員会とカリキュラム評価委員会について

教育センターは、教育全般についての活動をおこない、多くの課題に取り組んでいる。時代の変化にあわせたカリキュラムの構築が課題となることから、将来構想を検討するカリキュラム委員会の設立が必要と考え、その運営要領を制定した。さらに、看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするためにカリキュラム評価委員会運営要領を検討した。

(3) 教育環境整備

能動的な学習を促進するため教室の環境整備として講義室の改修が行われ、ノート型PC95台とサーバを利用した授業支援システムが導入された。

また、演習室の不足により、学生が自習できる個室が少なく、教員が学生に指導する場もホールを使うなどの問題があり、プライバシーの確保からも講堂下に多目的室を2部屋増設した。

2018年度看護学部／看護学研究科年間計画

看護学部／ 看護学研究科	<p>【学部教育と大学院教育の質的転換】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の質向上（教育の質的転換：タイプ1の実施、高大接続の取り組み、カリキュラム評価等）の推進 2. FDの推進 3. 大学病院、三島南病院、地域包括医療センターとの連携・協働の推進 4. 看護学研究科の活性化（学位審査基準の見直し、カリキュラム評価等） <p>【国際交流】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 山西医科大学看護学部との協定締結 6. 中山国際医学医療交流センターとの連携 7. アジア圏留学生受け入れの推進(台北医科大学、山西医科大学) 8. 米国の看護学部との国際交流の推進 <p>【研究拠点形成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 科研費等公的外部資金獲得の推進（基盤B） 10. 海外との共同研究の推進 11. 産官学連携サステナビリティ事業およびブランディング事業への参画
看護学実践研究センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究支援・情報発信（第3回大阪医科大学看護研究会の開催、看護学部教員の研究助成金申請の促進と支援、教員の研究情報の海外への発信のための英語版HPの作成） 2. 生涯学習・研修支援（看護専門職に向けての研修企画・支援、市民看護講座の開催等） 3. 国際交流の促進（海外留学生との相互研修、海外からの看護職者の研修受け入れ、海外との共同研究支援、学生の語学力向上支援、英語版看護学部・看護学研究科パンフレットの作成） 4. ホームページの充実（センター活動の情報発信）

看護学教育センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程に関すること（新カリキュラムの運用等、授業・実習評価に関する事項、カリキュラム評価に関する事項（カリキュラム委員会と連携）、2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策、共通事例の評価、実習ポートフォリオ検討（実習委員会と連携）、追試験・追実習の上限の見直し） 2. 卒業時到達目標に関すること（学位授与基準、卒業生評価への継続調査） 3. 4年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜） 4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPAの活用） 5. 教育環境整備の充実（機器活用評価、セルフトレーニング室） 6. FD企画と実施 7. 公開授業（授業見学）に関する事項 8. 医看融合教育の運営と充実（医療人マインド、ゼミ、カンファレンス、地域医療実習、大阪薬科大学学生の参画に関する検討） 9. アクティブラーニングの推進に関する事項 10. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み（タイプ1）
看護学学生生活支援センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習環境の整備（整理整頓の支援、学生実態調査の分析と課題の検討、学生生活指導に関するFDの開催） 2. 公共性のある奨学金の開示の促進 3. 保健管理室との連携の緊密化による感染予防対策の充実 4. 学生からの要望に対する適切な対応 5. 学生自治に向けた支援（学生との緊密な連携） 6. 学外合宿の目的が達成できる組織づくり 7. ホームページの充実
予算委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学部年間予算の適正化 2. 平成29年度予算執行報告 3. 平成30年度予算案作成（10月）
実習委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習連絡協議会の企画、運営（6月） 2. 実習連絡会議のあり方の検討と調整（アンケート調査の実施等） 3. 看護学実習要綱（共通事項）、各領域実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取り纏め 4. 実習ポートフォリオの検討（教育センターと連携） 5. 看護学実習の「再履修」「追実習」の表記、評価等の検討（教育センターと連携） 6. 領域別実習のグループ編成、実習オリエンテーションの企画・運営、実習全般（ワクチン接種状況、感染予防等）に関わる調整 7. 実習評価 8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント等の分析と今後の対策の検討

Web site 委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学部 学部長あいさつ・教員の一覧とメッセージ・各領域・センター・委員会・トップページ写真等に関する情報更新・充実 2. 学生の在籍者数等・時間割 3. 国試結果・就職状況 4. 看護学部年報、看護研究雑誌の最新号 5. 全学サイトリニューアル後の看護学部サイトのコンテンツ等の見直し・検討の更新
看護研究雑誌 編集委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第9巻発行と投稿への働きかけ 2. 2名の査読体制の維持 3. 査読のシステムに関する評価と今後のあり方の検討
国家試験対策 委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 平成30年度国家試験対策の模試及び対策講座の実施 3. 平成31年度国家試験対策の企画及び予算案の作成 4. 国家試験対策活動の保護者への周知 5. 模試成績不良者の対策：講座への出席率を向上させる方策の検討、チューターとの情報共有及びさらなる協働方法の検討 6. 国家試験対策（模試および対策講座）の評価
就職支援委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポート 4. 就職活動及び内定状況の把握 5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け、情報提供の充実をはかる 6. 来校人事担当者との対応による情報収集 7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 8. HPの更新と内容充実
看護学部年報 編集委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度年報の編集および冊子での発行 2. 平成28年度年報のHP上での公開 3. 平成29年度年報の取り纏め
物品管理委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教務関係備品・消耗品の在庫管理と点検 2. 平成30年度教務関係物品購入予算案の作成 3. 教務関係備品の貸し出し管理
看護学部広報 委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. オープンキャンパスの企画・運営 2. 看護学部案内書の企画・作成 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施 4. 看護学部の教育・研究活動の学内外への紹介 5. 看護学部案内書サブツールの企画・作成 6. 学校訪問の調整・実施

カリキュラム 委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメント・ポリシー 2. 教育課程の運営に関すること <ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラム評価に関する事項 2) 卒業時到達目標の自己評価との関連 3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施 3. ティーチングポートフォリオ作成に関すること 4. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 非常勤、兼任教員へのメール調査
看護学研究科 大学院委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学研究科学位規程施行細則の作成 2. 入学試験での合否基準の更なる検討と受験者増に向けた対策 3. 学位授与基準の検討を反映した学位論文指導の充実 4. 入試相談会の開催やHPの充実等による広報活動の推進 5. 教育活動に関する自己点検と改善への取り組み 6. 教員と事務が一体となった大学院の運営力の強化 7. 学習環境の整備、交流会の開催など学生サービスの充実

2. 2018年度看護学部（看護研究科を含む）予算執行額

予算執行額	75,444,926円
「内訳」	
看護学部教育経費	48,384,338円
看護学部奨学金経費	27,000,000円
看護学部研究活動経費	60,588円

3. 学事一覧

1) 看護学部の学事一覧

表1参照

2) 看護学研究科の学事一覧

表2参照

表1 看護学部 2018年度行事一覧

変更箇所: 4/7(最終時間) 5/12(最終時間) 2018.1.11

平成30年度学事予定表 教職員用 vol.7

日	曜	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	日	祝日	祝日	祝日	祝日	祝日	祝日
2	月	看護学部臨時教授会14~ オリエンテーション	金創立記念日	土	月⑫ 4年医看護融合教育ゼミ 看護学部学業Ⅰ①	水	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
3	火	憲法記念日	日	日	火③	木	助産学実習 24年度1.23日・24年度1.24日(オリエンテーション)退学 3年学校実習特別講義(看護中)学校日程開校 3年学校実習特別講義(看護中)学校日程開校 3年学校実習特別講義(看護中)学校日程開校 3年学校実習特別講義(看護中)学校日程開校
4	水	みどりの日	月⑨	月⑨	水③	金	3年後期授業開始 3年看護学実習Ⅰ
5	木	こどもの日	火⑥	火⑥	木③	土	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
6	金	新入生学外合宿 金①(2~4年のみ)	水⑨	水⑨	金④	日	看護学実習Ⅰ
7	土	新入生学外合宿 健康診断: 2年 8:30~ / 4年 11:00~	木⑦	木⑦	土	月	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
8	日		金⑤	金⑤	日	火	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
9	月	1年前期授業開始	土	土	月⑩	水	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
10	火	看護学部教授会15~	日	日	火④	木	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
11	水	看護学部教授会15~	月⑤	月⑤	水④	金	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
12	木	健康診断: 1年 8:30~ / 3年 11:00~	火⑥	火⑥	木④	土	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
13	金		水⑦	水⑦	金⑤	日	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
14	土		木⑧	木⑧	土	月	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
15	日		金⑥	金⑥	日	火	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
16	月	夏期修業期間 前期試験 前期試験 前期試験	土	土	月⑪	水	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
17	火		日	日	火⑦	木	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
18	水	看護学部学業Ⅰ①	月⑫	月⑫	水⑤	金	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
19	木		火⑧	火⑧	木⑥	土	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
20	金		水⑨	水⑨	金⑦	日	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
21	土		木⑩	木⑩	土	月	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
22	日		金⑧	金⑧	日	火	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
23	月		土	土	月⑬	水	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
24	火		日	日	火⑧	木	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
25	水	看護学部臨時教授会15~	月⑭	月⑭	水⑥	金	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
26	木		火⑨	火⑨	木⑦	土	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
27	金		水⑩	水⑩	金⑧	日	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
28	土		木⑪	木⑪	土	月	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
29	日		金⑨	金⑨	日	火	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
30	月		土	土	月⑮	水	公衆衛生看護学実習Ⅱ③
31	火		日	日	火⑨	木	公衆衛生看護学実習Ⅱ③

備考: 広域統合看護学実習は各領域で6月~12月までに実施予定

平成30年度学事予定表 教職員用 vol.7

変更箇所: 4/7 繰替時間
5/12 繰替時間

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日曜	曜										
1月①	木⑤	1火①	火①								
2火①	金⑤	2水	水								
3水①	土⑤	3木	木								
4木①	日	4金②	金②								
5金①	月⑤	5土	土								
6土	火⑥	6日	日								
7日	水⑥	7月③	月③								
8月	木⑥	8火③	火③								
9火②	金⑥	9水	水								
10水②	土⑥	10木	木								
11木②	日	11金③	金③								
12金②	月⑥	12土	土								
13土	火⑦	13日	日								
14日	水⑦	14月④	月④								
15月②	木⑦	15火④	火④								
16火③	金⑦	16水	水								
17水③	土⑦	17木	木								
18木③	日	18金④	金④								
19金③	月⑦	19土	土								
20土	火⑧	20日	日								
21日	水⑧	21月④	月④								
22月③	木⑧	22火⑥	火⑥								
23火④	金⑧	23水	水								
24水④	土⑧	24木	木								
25木④	日	25金⑤	金⑤								
26金④	月⑧	26土	土								
27土	火⑨	27日	日								
28日	水⑨	28月⑤	月⑤								
29月④	木⑨	29火	火								
30火⑤	金⑨	30水	水								
31水	土⑨	31木	木								

備考: 基礎看護学実習Ⅰについては10月4日～12月6日の期間、毎週木曜日に行う

表2 看護学研究科 2018年度学期一覽

平成30年度看護学研究科科学事予定表

平成30年度看護学研究科科学事予定表

日	曜	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1日	火			金 創立記念日	日	水	土
2日	水			土 土曜日の入試説明会	月	木	日
3日	木			日 創立記念日	火	金	月
4日	金			月 みどりの日	水	土	火
5日	土			火 子供の日	木	日	水
6日	日			水	金	月	火
7日	月			木	土	日	金
8日	火			金	日	水	土
9日	水			土	月	木	日
10日	木			日	火	金	月
11日	金			月	水	土	火
12日	土			火	木	日	水
13日	日			水	金	月	木
14日	月			木	土	日	金
15日	火			金	日	水	土
16日	水			土	月	木	日
17日	木			日	火	金	月
18日	金			月	水	土	火
19日	土			火	木	日	水
20日	日			水	金	月	木
21日	月			木	土	日	金
22日	火			金	日	水	土
23日	水			土	月	木	日
24日	木			日	火	金	月
25日	金			月	水	土	火
26日	土			火	木	日	水
27日	日			水	金	月	木
28日	月			木	土	日	金
29日	火			金	日	水	土
30日	水			土	月	木	日
31日	木			日	火	金	月

授業日程表の見方

- 数字は、各曜日授業の回数を示します。
- ※各授業、特別研究・課題研究については、指導教授と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。
- ※月曜日・火曜日・本曜日・金曜日。
- ※各授業科目については、時間割表を参照してください。

夏季閉校期間
夏季閉校期間

平成30年度看護学研究科学事予定表

日曜	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜	日	曜
1	月	木	月	土	月	日	1	火	金	1	金	金
2	火	金	火	日	火	月	2	水	土	2	土	土
3	水	土	水	月	水	火	3	木	日	3	日	日
4	木	日	木	火	木	水	4	金	月	4	月	月
5	金	月	金	火	金	木	5	土	火	5	火	火
6	土	火	土	水	土	金	6	日	水	6	水	水
7	日	水	日	木	日	土	7	月	木	7	木	木
8	月	木	月	金	月	日	8	火	金	8	金	金
9	火	金	火	土	火	月	9	水	土	9	土	土
10	水	土	水	日	水	火	10	木	日	10	日	日
11	木	日	木	月	木	水	11	金	月	11	月	月
12	金	月	金	火	金	木	12	土	火	12	火	火
13	土	火	土	水	土	金	13	日	水	13	水	水
14	日	水	日	木	日	土	14	月	木	14	木	木
15	月	木	月	金	月	日	15	火	金	15	金	金
16	火	金	火	土	火	月	16	水	土	16	土	土
17	水	土	水	日	水	火	17	木	日	17	日	日
18	木	日	木	月	木	水	18	金	月	18	月	月
19	金	月	金	火	金	木	19	土	火	19	火	火
20	土	火	土	水	土	金	20	日	水	20	水	水
21	日	水	日	木	日	土	21	月	木	21	木	木
22	月	木	月	金	月	日	22	火	金	22	金	金
23	火	金	火	土	火	月	23	水	土	23	土	土
24	水	土	水	日	水	火	24	木	日	24	日	日
25	木	日	木	月	木	水	25	金	月	25	月	月
26	金	月	金	火	金	木	26	土	火	26	火	火
27	土	火	土	水	土	金	27	日	水	27	水	水
28	日	水	日	木	日	土	28	月	木	28	木	木
29	月	木	月	金	月	日	29	火	金	29	金	金
30	火	金	火	土	火	月	30	水	土	30	土	土
31	水	土	水	日	水	火	31	木	日	31	日	日

4. 学学生在籍数

1) 看護学部

(2018年5月1日現在)

学年 (入学定員)	1年 (85)	2年 (85)	3年 (85)	4年 (85)	合計 (340)
男	3	3	0	3	9
女	84	89	86	83	342
計	87	92	86	86	351

*2018.5以降6名退学者有

2019.3現在1年生 女82名、2年生 男2名、3年生 女84名、4年生 女82名

2) 看護学研究科

【博士前期課程】

2018年5月末現在

コース	専門分野	1年	2年	長期履修他	合計
教育研究コース	看護技術開発学	0	1	0	1
	移植・再生医療看護学	2	0	1	3
	がん看護学	0	0	1	1
	慢性看護学	0	0	0	0
	精神看護学	1	1	0	2
	母性看護学	0	1	0	1
	小児看護学	0	0	0	0
	地域看護学	0	1	0	1
	在宅看護学	2	0	0	2
高度実践コース	慢性看護学	0	1	1	2
	精神看護学	0	0	0	0
	母性看護学	0	0	0	0
	小児看護学	0	0	1	1

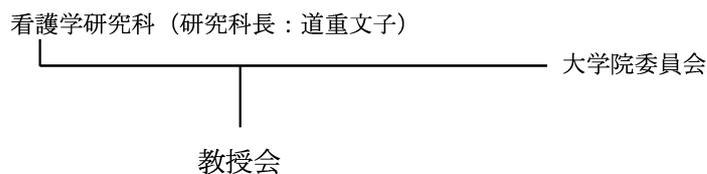
【博士後期課程】

2018年5月末現在

領域名	1年	2年	3年	長期履修他	合計
療養生活支援看護学	5	3	4	1	13
地域家族看護学	3	2	1	2	8

IV. 運営と教育活動

1. 運営組織（センター及び委員会組織図）



2. 看護学部センター

センター名	看護学実践研究センター
目的	本センターは、本学部内、大学内をはじめ、外部機関及び地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに、その成果を発信することを使命とする。
構成員	鈴木久美（委員長） 真継和子（副委員長） 府川晃子 小林道太郎 竹明美 原明子 山埜ふみ恵 上山ゆりか 藤井智子（学部長室付事務）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3回看護研究会の開催 2. 情報発信として英語版パンフレットの作成およびHPの更新 3. 人材教育セミナーの企画・開催、附属病院及び三島南病院研修会への講師派遣 4. 市民看護講座の企画・開催、高槻フェスタへの参加 5. 国際交流講演会及びFD講演会の企画・開催 6. 台北医学大学より研修生の受入れと学生の派遣 7. 山西医科大学研修生の受け入れ
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催 15回の委員会を開催した。 2. 研究支援・情報発信 <ol style="list-style-type: none"> 1) 第3回大阪医科大学看護研究会開催 日時：2019年3月2日（土）13:00～16:00 内容：看護実践研究センター活動報告 研究活動報告 口演5題，示説13題 講演テーマ：「健康増進のための運動・身体活動・スポーツ」 講師：田畑 泉（立命館大学スポーツ健康科学部） 参加者は58名（学内30名、学外28名）、大阪医科大学附属病院をはじめ近隣の病院等のスタッフのほか、京都や大分からの参加もあった。講演では、研究成果をもとに身体活動および運動による生活習慣病発症予防について具体的に説明があった。また、健康づくりのための身体活動指針（厚生労働省）の具体的な実施方法についてデモンストレーションを取り入れ説明され、盛会に終了した。アンケート結果では（回収率51.7%）、参加者の大半が「大変わかりやすかった」「わかりやすかった」と回答した。また、研究報告では「興味深い研究発表で勉強になった」「研究発表を聞き、日々の実践のなかで課題を見つけながら仕事をしたいと思う」など、プログラム全体としても「大変よかった」「よかった」であった。 2) 英語版パンフレットの作成 本学看護学部及び看護学研究科の教育目標や教育内容の特徴、及び教員の研究テーマなどを含んだ英語版パンフレットを作成し、海外研修生へのオリエンテーションなどの際に使用した。 3) HP更新

看護学部サイト内、当センターのページは従来1枚のみであったが、ニュース、活動状況、過去の実績に関する情報をより充実させ、複数の下位ページへのリンクを含む形にリニューアルした。

4) 教員の発表済ポスターの常設掲示を行った。計3題のポスターを掲示した。

3. 生涯学習・研修支援

1) 人材育成教育セミナー

日時：2018年10月13日(土) 参加人数：38名

テーマ：「すぐにでもできる！ナースのためのコーチング活用術」

講師：清野 健太郎 (ピュアフィールド)

後輩育成時の自身の接し方をリフレクションする機会を得るとともに、事例を含めた話の聞き方や声のかけ方など、コーチングスキルが教授された。附属病院および8カ所の地域関連施設から参加者の来場があった。アンケートでは、「自分自身のコミュニケーションを見直す機会となった」「後輩が成長できる関わり方を学べた」「演習を通して理解が深められた」などの評価を得た。

2) 大阪医科大学三島南病院 中堅看護師研修

2018年10月20日(土)・2018年11月17日(土) 参加人数：延18名

中堅看護師を対象に、アクティブラーニングにより事例の解釈・検証を行った。参加看護師からは自身の思考の傾向や思い込みによるアセスメントの偏りの気づきが得られた。

3) 大阪医科大学附属病院 看護研究セミナー (各参加人数30名程度)

(1) 看護研究の意義と方法、研究倫理 2018年7月

(2) 量的研究の方法(質問紙・統計処理) 2018年9月

(3) 質的研究の方法(インタビューと分析) 2018年10月

看護ラダーⅢの看護師を主に対象とし、上記テーマに関する看護研究セミナーをそれぞれ各2回実施した。

4) 第7回市民看護公開講座の開催

日時：2018年11月3日(土) 10:00~13:00 参加者数：33名

テーマ：子どもの安全、地域で見守り～誰でも子育てでサポーター～

講演Ⅰ：「子どもの世界 子どもにはこう見える」

講師：赤松 志麻 (大阪医科大学附属病院)

講演Ⅱ：「子どものトラブル～病気・ケガ 災害時の対処法～」

講師：新田 雅彦 (大阪医科大学医学部救急医学教室)

講演Ⅰでは、子どもの成長・発達と日常生活におけるリスク管理について、子どもの目線に立ちながら具体的な事例をもとに説明があった。講演Ⅱでは、一般的な病気やトラブルと対処についてデータや事例をもとに説明があった。また、大阪医科大学ライフサポート部の協力を得て乳幼児の心肺蘇生法について実技演習を実施し、参加者の興味・関心を高めた。アンケート結果では(回収率81.8%)、参加者は20歳代~70歳代、全員が「大変よかった」「よかった」と回答し、「予

測した安全管理が重要性を再認識できた」「具体的な処置がわかった」や「職場全体の取り組みを考えていきたい」などの意見があった。実技を取り入れ参加型にしたことは参加者の関心を高めた。子育て世代から子守世代まで幅広い年齢層の参加がみられたが、連休の合間であり集客数には課題が残る。開催時期等の検討を重ねていくことが必要である。

5) 高槻フェスタ 参加

日時：2018年10月7日（日）10:00～15:00 参加者数：120名

市民を対象に、健康チェック（血圧測定、体脂肪測定）、足指力測定と転倒予防指導、健康相談を実施した。また、感染症予防に関する情報提供コーナーを設け、ポスター掲示と手洗いチェックを行った。多くの方々の参加があり、健康への関心を高める機会となっていた。

4. 国際交流の促進

1) 国際交流講演会及びFD講演会の開催

2018年11月5日（月）～7日（水）、アメリカのミネソタ州立大学マンケート看護学部教授 Hans-Peter de Ruiter 先生が来訪した。両大学看護学部間の学生交流、研究交流について意見交換を行った他、学部生向け特別講義、教員・大学院生・附属病院スタッフ向けFD講演を行った。

(1) 国際交流講演会：11月5日（月）”Roles of Nurses in US and the Benefits of Partnering with International Students”、学部生169名参加。アンケートでは、国際交流に対する関心が高まったとの回答が多くみられた。

(2) FD講演会：11月7日（水）”The Ethics of Geritechnology: New Perspectives on Nursing Ethics Education”、教職員・大学院生・病院スタッフ約40名参加。FD講演会の後に懇親会を行った。

2) 中山国際センター主催国際交流シンポジウム

2018年7月6日（金）に2017年度台北医学大学派遣学生1名（4年生）が発表する予定だったが、大雨のため中止となった。

3) 台北医学大学より研修の受入れ

日時：2018年7月17日（火）～7月27日（金）

学生数：10名（看護学専攻、高齢健康管理学専攻）

研修プログラムの内容は、本学学部生との交流、学内での研修・講義、高齢者施設や実習病院の見学、高槻市出張講義等であり、その計画と実施には、各領域とその関連施設、大阪医科大附属病院看護学部の協力を得た。最終日に成果発表を行い、全員に中山国際医学医療交流センターより修了証を授与した。プログラム終了後、研修生にアンケートを行った結果、プログラムの内容、教員・関係者の対応等に対して高い評価が得られた。

4) 台北医学大学への学生派遣関連

看護学部3年生2名を選抜し、2019年3月4日～15日に派遣した。

5) 山西医科大学研修生の受け入れ

	<p>日時：2018年9月10日（月）～11月28日（水）</p> <p>研修生：2名</p> <p>研修場所は本学と大阪医科大学医学附属病院，三島南病院，神戸市北須磨訪問看護・リハビリセンター，高槻けやきの郷，高槻赤十字病院，いわくら病院で，慢性疾患を持つ患者への継続看護について臨床講義と同行見学研修を行った。</p> <p>5. 国際交流協定及び覚書の締結の準備</p> <p>本学看護学部と山西医科大学看護学部との協定および米国ミネソタ州立大学マンケート看護学部との覚書の締結を検討した。ミネソタ州立大学マンケート看護学部との覚書の締結については現在進行中である。</p> <p>6. 英会話教室の開催</p> <p>看護学部の学生を対象に、ネイティブの英会話講師を招き、2018年6月から2019年2月までの間に合計17回（各回60分）の英会話教室を開催した。内容は日常会話や医療英語など多岐に渡り、延べ、54名の学生が参加した。2019年1～2月にかけて看護学生全体を対象に、英会話教室に関するアンケートを実施した。参加した学生からは「楽しかった」、「勉強になった」などの意見が聞かれた一方で英語に興味がない学生もいた。看護学部内における英会話教室への需要は一定数あるが、日程調整が課題である。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1)台北医学大学からの研修生10名について、猛暑の中無事研修を行うことができた。研修生へのアンケートでは、研修全体に対して高い評価を得た。山西医科大学からの研修生も昨年から引き続きの受け入れができた。</p> <p>2)ミネソタ州立大学マンケート看護学部との間で交流に関する交渉を行った結果、2019年度9月の学生派遣開始について合意ができ、準備を進めている。</p> <p>3)学部生向け国際交流講演会は初の試みであったが、多くの学生の国際交流への関心を高めるよい機会となった。またこのとき実施した海外研修等に関する学生アンケートからは、今後の進め方について多くの示唆が得られた。</p> <p>4)市民看護講座は例年30名以上の参加者数の確保ができており、アンケート結果からも参加者より好評を得ている。</p> <p>5)市民看護講座の運営にあたって看護学事務課および大学保安課との連携により円滑に進められ、参加者の安全確保につながった。</p> <p>6)大阪医科大学看護研究会を発足し3年目を迎え、演題数も参加者数も増加している。</p> <p>7)英語版パンフレットを作成し、台北医学大学や山西医科大学病院の研修生、ミネソタ州立大学マンケートの教員が来訪の際に使用し、本学部の教育や教員の研究に関する情報共有が効果的に行えた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1)大阪医科大学看護研究会への卒業生や修了生の参加が少ないため、多数参加で</p>

	<p>きるような工夫が必要である。</p> <p>2)市民看護講座の開催時期やテーマは、市内における講演会情報を入手し、可能な限り重複しない内容で検討していく。さらに、会場（看護学部講堂）の確保が難しくなっているため、日程だけでも押さえておく必要がある。</p> <p>3)海外の大学との国際交流を活発化するために、中山国際医学医療交流センターとの連携をさらに円滑にする。</p> <p>4)TMU 派遣については、2018 年度の応募者は 3 年生 3 名であり、そのうち 1 名の辞退者があった。今後は応募時に保護者の同意も含めて書類提出するような改善策が必要である。</p> <p>5)学部生の英語力向上のため、2018 年度も英会話教室を企画したが参加者が少なかった。今後、学生が参加しやすい日程調整が課題である。</p> <p>6)学部生の国際交流への関心を高めるため、新入生オリエンテーションプログラムに国際交流の紹介をする機会を設けてもらえるように調整したり、海外研修報告会は多学年が参加できるような工夫をする必要がある。また、海外研修を既存科目の単位認定することも検討する。</p>
<p>将来に向けた発展方策・課題</p>	<p>看護学実践研究センターは、地域周辺の医療機関・施設における看護の質の向上のために活動をし続けていくことが重要である。したがって、地域の特色を十分に考慮し、大小の施設に限らず多くの施設へ、研修支援や実践研究に関する支援を継続していく。</p> <p>また、次年度はミネソタ州立大学マンケート看護学部との交流プログラムを作成・実施するとともに、本学の大学間協定校との国際交流を検討していく予定である。</p>

センター名	教育センター
目的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画、教育環境整備、医看融合教育、授業評価、FD (Faculty Development) 等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする。
構成員	佐々木綾子 (センター長) 池西悦子 瓜崎貴雄 久保田正和 寺口佐與子 土肥美子 仲下祐美子 佐野かおり 北尾里江 星加圭子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程に関すること (①新カリキュラムの運用等、②授業・実習評価に関する事項、③カリキュラム評価に関する事項 (カリキュラム委員会と連携)、④⑤2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策、⑥共通事例の評価、⑦実習ポートフォリオ検討 (実習委員会と連携)、⑧追試験・追実習の上限の見直し) 2. 卒業時到達目標に関すること (学位授与基準、卒業生評価への継続調査) 3. 4年次選択の方法の検討 (卒業研究、保健師及び助産師国家試験受験資格希望の選抜) 4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導 (GPA の活用) 5. 教育環境整備の充実 (機器活用評価、セルフトレーニング室) 6. FD 企画と実施 7. 公開授業 (授業見学) に関する事項 8. 医看融合教育の運営と充実 (医療人マインド、専門職連携医療論、医看融合ゼミ、医看融合カンファレンス、地域医療実習、大阪薬科大学学生の参画に関する検討) 9. アクティブ・ラーニングの推進に関する事項 10. ベストティーチャー賞選出方法の決定 11. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み (タイプ 1) 12. その他
活動概要	<p>会議の回数は全 12 回 (うち臨時 1 回) (4/5、4/16、5/2、6/5、7/4、9/5、10/9、11/2、11/16、12/19、1/23、2/28、3/20) であった。</p> <p>今年度新たに出た議題は、①2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策 (総合試験の企画)、②共通事例の提供、その後の評価、③実習ポートフォリオについて、実習委員会との協働、④追試験・追実習の上限の見直し、⑤GPA の活用、⑥カリキュラム委員会との連携、⑦タイプ1獲得のための要件整備、⑧その他：講義室3の双方向システムの整備と活用、試験監督時の不正行為防止、前期と後期科目再試験率の高い科目への対応などであった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育課程に関すること：学習上の新たな課題への取り組み <ol style="list-style-type: none"> 1) 新カリキュラムの運用等 <p>1.2 年生が新カリキュラム、3.4 年生が旧カリキュラムを運用した。</p> 2) 授業・実習評価に関する事項 <p>学生は授業を作る主体であり、授業や実習をより良いものにするためには、学</p>

生による評価が重要であることを明記し、評価記入時に学生に伝えた。また、後期より紙媒体からスマートフォンによる評価に変更した。その結果平均回収率は33%→67%へと大幅に上昇した。さらに評価をもとに教員が改善報告書を作成し、学生に向けて公開を行った。回収率の増加という結果が得られ、それをもとに教員が学生に改善報告をする流れはできた。まだ定着はしていないため、教員や学生に頻繁にアナウンスをして促す必要はある。また、来年度以降、改善報告書に記述されたことが実際に履行されているか各領域での自己点検は必要である。

3) カリキュラム評価に関する事項（カリキュラム委員会と連携）

1-4 年カリキュラムに関するアンケートは、学生生活支援センターによる学勢調査へ統合した。結果報告は6月頃予定である。

4) 2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策

科目担当者と、授業見学のFDシートの結果も参考に具体的な改善策について検討できた。次年度中間・終了時まとめ、中間テストなど導入予定である。

5) 共事事例の評価

6月活用状況調査の結果、使用事例に重複が見られず使用効果が不明であった。共事事例を活用した領域の担当教員に調査、共事事例を活用した援助方法を受講した学生5-6名にグループインタビューを実施：多くの領域では本年度は共事事例の提示のみで、活用方法や活用状況が教員間で共有されておらず教育効果が得られていなかった。

6) 実習ポートフォリオ検討（実習委員会と連携）

実習委員会から引き継ぎ、Webシステムであるユニパのマイステップを活用した運用方法と書式を検討した。12月のFDを経て、実習ポートフォリオと看護基本技術経験チェックリストを作成した。次年度、2年、3年、4年で試行する予定となった。次年度の課題は、実習ポートフォリオと看護基本技術経験チェックリストの評価方法の検討、評価の実施である。

7) 追試験・追実習の上限の見直し

看護学部規定の見直しを行った。本来受験すべき本試験が受験できない事由により、設定された試験であることから、受験者より学習時間が確保できる追試験においては上限を低く設定している。しかし、インフルエンザ等の感染症で出席停止となった学生も該当することから、現行の30点では全体の成績評価への影響が考えられる。そのため、第6条2における成績表示の優の最低点から秀の最低点に変更する。追実習は、学習内容が状況に依存するため、実習条件は通常の実習と変わらないことから上限は100点満点とし、看護学実習要綱に追加した。

2. 卒業時到達目標に関すること

4年次4月と1月に卒業時到達目標の自己評価を実施し、最終学年における年間の到達度について比較検討を行った。4月の評価への参加者は74名であったが、1月では33名であったため比較可能な学生のみ検討した。その結果、4月の学生の到達度はやや低いものの翌年の1月では例年の自己評価と同レベルまで上

昇していた。9月より、カリキュラム委員会にて卒業時到達目標の評価方法に替わる本学ディプロマポリシー（DP）に基づく卒業時到達目標の自己評価30項目を作成した。2月に4年生83名を対象にプレテストを実施した結果、DP1～5において90%以上の学生が、“ほぼ到達している”、“到達している”と回答していた。細目を見ると、DP2の「諸外国の看護保健ニーズや多様な文化背景を持つ人々への支援」など、多面的かつグローバルな視点に関しては、“あまり到達していない”と回答した割合が多かった。また、30項目の回答のしやすさ、理解のしやすさ、各DPとの一致度について学生に尋ねた結果、90%の学生から、“答えやすかった”、“わかりやすかった”、“概ね一致している”との回答が得られた。

3. 4年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜）

1) 卒業演習学生配置

卒演および広域統合実習配置関連、配置評価（学生対象）、卒演発表会関連、評価（教員と学生対象）、次年度の卒演要項を作成した。

卒演配置方法について、くじ引き機能のあるターニングポイントを利用したことへの現4年生の総代および副総代への聞き取りを行った。聞き取り日時までに総代・副総代から4年生全員に卒演領域決定に関する意見を募る連絡をしてもらい、意見集約した内容を聞いたところ、この方法で希望領域に決まったのは全体の7～8割であり、希望領域でなかった学生からはジャンケンで決める方がよいという意見があった。また、現3年生には決定方法に関する希望を聞いてはどうかとの意見が挙がった。この意見をうけ、3年生に決定方法に関する説明と希望調査を実施したところ94%が昨年度と同様の決定方法を希望した。卒業演習オリエンテーションで決定方法を詳細に説明し、デモ演習を取り入れ、決定方法について最終確認を行った。卒演領域決定はスムーズであり、学生の反応は良好であった。

卒演発表会は、教育センター主導の報告会から領域別報告会に変更して3年目である。今年度は他領域との合同開催や実習指導者の参加があった領域など、各領域の裁量に幅が出た。卒演発表会終了後、学生と教員の意見や感想を聴取した。学生から「他の人の発表を聞き、自分の興味や知識の幅が広がった」「今後のためになった」「他学年も参加できる日時に設定しておくとうよかったのでは」などの意見があった。教員からは、他領域との合同開催では学びが広がったなどの意見があった。次年度は合同発表の実施の検討や下級生が参加しやすい日時の設定の検討が必要である。

卒演要項は、学生や教員から質問や確認があった提出方法等について、具体的な表記に修正した。また、卒演オリ時には丁寧に説明した。

2) 保健師及び助産師受験資格コースの選抜

(1) 保健師選抜

9月上旬に選抜要件を満たす学生を対象にオリエンテーションを実施した。39名の出願者があり、助産師選抜の併願者4名からは辞退があった。3月に公衆衛生看護学実習Ⅱの履修条件を満たしているか確認し、選抜学生35名を最終確定した。

(2) 助産師選抜

12月中旬に選抜要件を満たす学生を対象にオリエンテーションを実施した。9名の出願者があり1月末に面接と選抜判定会議を行い、6名を選抜した。

4. 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPAの導入・活用）

学生の学修状況をより明確にし、学修を一層有益にすることを目的として、昨年度より準備したGPA制度を導入した。GPAは学業成績通知書に記載するように医学部と統一した。GPAの低い学生に対する指導に用いるように教員にアナウンスした。また今後の進級判定に利用するように検討し教授会に提案した。

5. 教育環境整備の充実

1) クリッカーおよび講義室3キャラボシステム活用推進

双方向授業を効果的に進めるために講義室3にキャラボシステムを搭載したICT教室が設置され、初年度である本年は機器やルール等の環境整備をまずは行った。また、クリッカーおよびキャラボシステム活用教室PCの学生名簿の更新、学生評価、教員サポートを行った。同時間では1科目しか活用できない現状ではあるが、活用され始めており、次年度以降は活用状況など評価を行う必要がある。

一方、運用上のトラブルとして、パソコン影響画面破損があったため、マウスの撤去、破損防止イラストの設置、学生への注意を行った。

2) 自主学習促進のセルフトレーニングコーナー（セルトレコーナー）の活用

2・3・4年生：セルトレ企画の提案・支援、1年生：セルトレオリエンテーション、企画の提案、・支援、セルトレコーナーに関する環境整備・備品管理等を行った。

セルトレ企画は、全4回実施し、4年生52名、3年生7名、2年生10名の参加があった。企画外の利用者は3年生1名、2年生8名であった。

参加状況から、4年生の学習内容・時期に沿った内容であった。一方で、3年生以下の学年の参加数が少ないことや時期についての課題が残った。

6. 教員および院生の教育実践力を高めるFD企画と実施

1) 教育方法に関する学内交流会

(1) テーマは「2019年度シラバス記載のポイントと実習ポートフォリオ（案）に関する意見交換」である。開催日時は平成30年12月19日（水）16:00～17:00、参加者は36名（教授13名、准教授10名、講師5名、助教8名）であった。

(2) テーマは「看護学部におけるアクティブ・ラーニングの推進－教育実践例の共有と今後のあり方－」として、看護学部全体として学生の能動的な学修を促進する教育実践力を高める内容となるよう企画した。開催日時は平成31年3月13日（水）15:50～17:20、参加者は35名（教授13名、准教授10名、講師5名、助教7名）であった。まず「アクティブ・ラーニングの教育実践の報告-ICTを活用した双方型授業を中心に-」として3名の教員から報告があり、次にグループワークで「学生の能動的学修を促進するために教育実践にどのような工夫をしていきたいか」

を議論した後、グループ発表を行って共有した。方法論はどうであれいかに興味を持たせるかが重要、探求心がかきたてられる動機づけを行う、アセスメントや思考過程をどう学生に能動的に学ばせるかが課題などの意見が出された。出席者全員から「今後の教育などに役立つ機会となった」との回答があり、今後も看護学部内での実際の教育方法の共有や教員同士のディスカッションの場を設け、教育に役立てる機会としていく。

2) 教育講演会

(1) 昨年度の続編として「アクティブ・ラーニングの評価法」をテーマに FD 講演会を実施した。昨年度は、アクティブ・ラーニングとは何かを正しく理解し、講義等で取り入れるための具体的な実践方法を学ぶことを目的とした講演会を行い、アンケートの自由記載では「複数回開催してほしい」「続編で評価の講演を聞きたい」などの意見があった。そのため、今年度は教育効果の測定方法を学ぶことを目的とした講演会とし、医学教育センターとの相談により大阪医科大学 FD 講演会とした。講演会の講師は、昨年度に引き続き、大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部講師 家島明彦氏、開催日時は平成 30 年 9 月 6 日 (木) 17:00~18:30、参加者は 234 名 (看護学部および医学部教職員、大学院生、附属病院医師、事務職員等) であった。講演会後のアンケート (回収率 76%) では、94%が「今後の教育等に役に立つ機会となった」、71%が「講演時間は適切であった」との回答であった。

(2) 「アセスメント・ポリシーの基本」と題して、大阪医科大学 FD 講演会として実施した。アセスメント・ポリシーとは学生の学習成果の評価についての目的、達成すべき質的水準および具体的実施方法などについて定めた学内の方針である。講師は、大学における教育・人材育成の分野の第一人者である関西国際大学学長 濱名篤 氏、開催日時は平成 31 年 3 月 19 日 (火) 17:00~18:30、参加者は 135 名 (看護学部および医学部教職員、大学院生、附属病院医師、事務職員等) であった。講演会後のアンケート (回収率 75%) では、94%が「今後の教育等に役に立つ機会となった」、62%が「講演時間は適切であった」との回答であった。

7. 公開授業 (授業見学)

実施期間：2018 年度前期・後期授業期間。授業見学を希望する教員は、講義の 3 日前までに科目担当者にメールで了解を得て、了解があった授業日に参加。授業見学に参加した教員は、1 週間以内をめどにシェアフォルダにある“「授業見学」FD シート”に記入後、看護学事務課と授業担当教員にメール送信した。

8. 多職種連携 (融合) 教育

「医療人マインド」及び「専門職連携医療論」について、GW のファシリテーター担当、レポート評価できた。多専門職連携医療論最終回の合同発表会は停電により休講 (代替なし) となった。「医看融合カンファレンス」では、看護学部 3 年生が母性領域、精神領域のいずれかの領域別実習において、同時期に臨床ル・クラークシップ実習に参加している医学部 5 年生とともにケースの検討を行

った。各領域がそれぞれ8回実施した。参加した学生からは肯定的な意見が多く、職種同士が連携・協働していく必要性を認識できていると評価され、次年度も継続して実施することを決定した。次年度は、1月に中間評価と、2月末にまとめと評価を行い、多職種融合（連携）カリキュラム小委員会で報告・検討を行う。

「医看融合ゼミ」は、医学部6年生全員と看護学部4年生全員を対象とし、大阪薬科大学（以下、「薬学部」と略す）5.6年生から50名の学生も参加して、7月2日（月）に開催された。あらかじめ医看融合カリキュラム小委員会で作成した医療安全等に関する5事例を資料として、三学部数名で構成する25の小グループを編成し、資料について共同討議し、医師、看護師の連携のあり方等について話し合った。ゼミの後、発表会を行い、グループで話し合われた内容を紹介した。

「地域医療実習」は、高知県への医師派遣協定がある関係から、2016年度より高知県本山町での「地域医療実習」を企画・開始した。医学部・看護学部の学生に加え薬学部の学生も参加し、医看薬の多職種連携教育に広がった。10月25日（木）に学生の報告会が行われ、3学部の学生、教員が参加し実習成果の共通理解の機会となった。

9. アクティブ・ラーニングの推進に関する事項

クリッカーおよび10月より新たに整備された講義室3キャラボシステム活用を推進した。

10. ベストティーチャー賞選出方法の決定

ベストティーチャー賞対象教員候補選定と選定方法の見直しを行った。平成30年度より、授業評価を紙媒からUNIPAでの実施に変更した。そのため授業評価の回収率が向上し、選考基準を満たす科目の増加が見込まれることから、従来の選考方法で実施し、2021年4月の大学統合にむけて、大学全体で選考方法を整備することとした。結果、回収率が25%以上の科目を対象に授業評価の数値を基に、ベストティーチャー賞候補科目を選出した。

11. 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ1)

タイプ1獲得のための要件を各委員会と連携し整備した。具体的取り組みは、卒業生へのアンケート（就職支援委員会と連携）、アセスメントテスト（カリキュラム委員会でジェネリックスキルテスト試行）、アセスメント・ポリシーの作成（カリキュラム委員会で作成）、各FD実施と参加を促す、学修ポートフォリオ（実習ポートフォリオ作成）、学生生活ポートフォリオ作成（学生生活支援センター）などであった。

12. その他

試験監督時の不正行為防止対策、前期と後期科目再試験率の高い科目への対応を行った。

<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 教育課程に関すること</p> <p>(1) 新カリキュラムの運用等</p> <p>事務課と連携し、休学、留年学生の振替科目履修が滞りなく行われた。</p> <p>(2) 授業・実習評価に関する事項</p> <p>学生は授業を作る主体であり、授業や実習をより良いものにするためには、学生による評価が重要であることを明記し、評価記入時に学生に伝えた。また、後期より紙媒体からスマホによる評価に変更した。その結果平均回収率33%→67%へと大幅に上昇した。さらに評価をもとに教員が改善報告書を作成し、学生に向けて公開を行った。</p> <p>(3) カリキュラム評価に関する事項（カリキュラム委員会と連携）</p> <p>6月評価予定。</p> <p>(4) 2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策</p> <p>授業見学のFDシートの結果も参考に具体的な改善策について検討できた。「病気の診断・治療Ⅰ」（2年生前期）の平均点は79.1（2017年度）から81.5（2018年度）に上昇、「病気の診断・治療Ⅱ」（2年生後期）後期に関しては横ばいであった。</p> <p>(5) 共通事例の評価</p> <p>各領域が別の事例を使用することによる学生への負担軽減と、対象理解を深めることが目的であったが、各領域の使用事例が共有されず、学生にも共通事例であると伝えられていない領域が殆どであった。一部教員が関連性を意識し、学生にも説明をしていた領域では、アセスメントが深まり効果が見られていた。このことから、他領域の使用事例（変更点）を共有できる仕組みを作り、学生へも共通事例であることを説明し、他領域の学びが活用できるようにする必要がある。</p> <p>(6) 実習ポートフォリオ検討（実習委員会と連携）</p> <p>12月のFDを経て、実習ポートフォリオと看護基本技術経験チェックリストを作成した。次年度、2年、3年、4年で試行する予定となった。</p> <p>(7) 追試験・追実習の上限の見直し</p> <p>成績評価に新たに秀が設定されたことに伴う変更であり、他の看護系大学においても同様の評価を行っているところが多いことから妥当な見直しであると考えている。</p> <p>2) 卒業時到達目標に関すること（学位授与基準、卒業生評価への継続調査）</p> <p>4年次4月と1月に卒業時到達目標の自己評価を実施し、最終学年における年間の到達度について比較検討を行った。4月の評価への参加者は74名であったが、1月では33名であったため比較可能な学生のみ検討した。その結果、4月の学生の到達度はやや低いものの1月では例年の自己評価と同レベルまで上昇していた。</p> <p>3) 4年次選択の方法の検討（卒業研究、保健師及び助産師の選抜）</p> <p>卒業演習終了後に学生・教員の意見を具体的に聴取し共有した。配置方法については、前年度の学生への意見聴取を実施した。また、今年度の学生に希望調査を行い、配置の決定方法に反映させた。実施においては、説明回数を増やし、デ</p>
------------	---

モ演習を取り入れるなどの工夫を行った。卒演要項は、学生や教員から質問や確認があった提出方法等について、具体的な表記に修正した。

4) 適正な成績評価・進級判定と学生指導 (GPA の活用)

学修指導の基準として活用するだけでなく、学生自身が主体的に学修管理に活用できるようにすることが重要であるため、意識づけを行うなど対策の検討も必要である。

5) 教育環境整備の充実(機器活用評価、セルフトレーニング室)

全4回実施した。4回生52名、3回生7名、2回生10名の参加があった。企画外の利用者は3回生1名、2回生8名であった。4年生の学習内容・時期に沿った内容であった。

6) FD 企画と実施

(1) 昨年度の続編として、教授法のレベルアップを図る講演を企画した。今年度は教育効果の測定方法を学ぶことを目的とした講演会とし、医学教育センターとの相談により大阪医科大学 FD 講演会とした。講演会後のアンケート(回収率76%)では、94%が「今後の教育等に役に立つ機会となった」と回答した。

(2) アセスメントポリシーに関して、大阪医科大学 FD 講演会として実施した。講演会後のアンケート(回収率75%)では、94%が「今後の教育等に役に立つ機会となった」と回答した。

7) 公開授業(授業見学)に関する事項

参加状況：前期11名、後期8名のべ19名であった。評価では、①目的：教員相互の授業見学を通して、具体的な授業の進め方や講義技術について学び、自己の授業に生かすことで、よりよい授業づくりを推進するために役立てるという目的は、参加者のFDシートの内容から達成できたと考える。②対象授業：「病気の診断と治療I」が8名と最も多かった。また講義室3のパソコンシステムが稼働した後期は、「保健医療福祉概論」「統計学」各2名であった。見学者の関連科目や、講義室3の授業支援システムのスキルアップに役立つことから参加者が多かった。③実施要領：参加方法は円滑に運営された。期間中少なくとも1回は参加することが望ましいについては、40%の見学率であったため、さらなる増加が課題である。2018年度前期は開始が6月後半であったが、次年度は4月年度初めから開始可能となる。このため、4月から参加を促していく。また准教授以下の若手教員の参加率が高かったため、ニーズもあることがうかがえる。

8) 医看融合教育の運営と充実

医療人マインド、専門職連携医療論、医看融合ゼミ、GWのファシリテーター担当、レポート評価を行った。医看融合カンファレンスでは各領域が其々8回実施した。医看融合ゼミについて、GWのファシリテーター、レポート評価を行った。地域医療実習では1回の会議、報告会に出席した。

9) アクティブ・ラーニングの推進に関する事項

双方向授業を効果的に進めるための機器等の環境の整備を行い活用されている。クリッカーおよびキャラボシステム活用教室PCの学生名簿の更新、学生評価、

教員サポートを行った。パソコン影響画面破損があったため、マウスの撤去、破損防止イラストの設置、学生への注意を行った。

10) ベストティーチャー賞選出方法の決定

ベストティーチャー賞は、教育内容や授業運営を含めた表彰であるため、授業評価と同時に実施することが望ましい。授業評価の回収率が情報したため現行の方法が妥当だと考える。

11) 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ1)

タイプ1獲得した。

12) その他

後期科目から試験監督時の不正行為防止に関するアナウンス内容のファイルを各教室に設置した。不正行為はなかった。前期と後期科目再試験率の高い科目を教授会、学科会議時報告し、分析と対応を依頼した。

2. 改善すべき事項

1) 教育課程に関すること

(1) 新カリキュラムの運用等

(2) 授業・実習評価に関する事項

回収率の向上という結果が得られ、それをもとに教員が学生に改善報告をする流れはできた。まだ定着はしていないため、教員や学生に頻繁にアナウンスをして促す必要はある。また、来年度以降、改善報告書に記述されたことが実際に履行されているか各領域での自己点検は必要である。

(3) カリキュラム評価に関する事項 (カリキュラム委員会と連携)

6月の学勢調査の結果報告を受け、継続検討する。

(4) 2年次までの基礎医学の知識の活用に対する課題と対策

次年度中間・終了時まとめ、中間テストなど導入予定で引き続き改善効果を検討する。

(5) 共通事例の評価

シェアフォルダに各領域の使用事例および変更点を入力できるシートを作成する。各領域が看護過程の展開で使用する事例および変更点を入力し、共有する。

共通事例を使用していることを学生に説明し、意識化させ、相互に学びを活用するように促す。

(6) 実習ポートフォリオ検討 (実習委員会と連携)

実習ポートフォリオと看護基本技術経験チェックリストの評価方法の検討、評価の実施。

(7) 追試験・追実習の上限の見直し

(8) 今後もGPA制度と併せて適切な評価制度となっているかを確認し、必要に応じた見直しを行っていく。

2) 卒業時到達目標に関すること (学位授与基準、卒業生評価への継続調査)

次年度は卒業時到達目標の評価方法について見直したうえで実施予定である。

3) 4年次選択の方法の検討 (卒業研究、保健師及び助産師の選抜)

	<p>卒業演習発表については、合同発表の実施の検討や、下級生が参加しやすい日時の設定が必要。次年度も学事予定等をふまえたスケジュールをたて、実施する。</p> <p>4) 適正な成績評価・進級判定と学生指導（GPA の活用） 次年度以降、科目間の平準化を進め、進級や卒業判定にも活用できるようにしていく。</p> <p>5) 教育環境整備の充実(機器活用評価、セルフトレーニング室) 3 回生以下の学年の参加数が少ないことや時期の検討が必要。</p> <p>6) FD 企画と実施 講演会のテーマは、出席対象者のニーズや大学に求められていること等から検討していく。</p> <p>7) 公開授業（授業見学）に関する事項 学部全体として、若手教員が授業見学に参加できるよう引き続き配慮する。 次年度非常勤の講義も了解が得られた場合拡大していく。</p> <p>8) 医看融合教育の運営と充実 学生の授業評価、委員会での振り返りをもとに運営方法、GW の方法（毎回ミニGW の時間を設ける）などについて改善。1 月に中間評価と、2 月末に精神・母性領域でまとめと評価を行い、多職種融合（連携）カリキュラム小員会で報告・検討する。実習を体験するのは 2 名の学生のため、共通理解の機会である報告会に多くの学生の参加を促す。</p> <p>9) アクティブ・ラーニングの推進に関する事項 後期からの運用となったため、次年度は活用の状況等の評価を行う。</p> <p>10) ベストティーチャー賞選出方法の決定 大学統合に向けて、大学全体で選考方法の整備を実施する。</p> <p>11) 私立大学等改革総合支援事業の取り組み(タイプ 1) 継続しタイプ1獲得をめざす</p> <p>12) その他 試験監督時の不正行為防止：次年度もアナウンスすることにより学生の自覚を促す。次年度も同様に再試験率の高い科目を確認し、前年度との再試験率の比較などを行う。</p>
<p>将来に向けた 発展方 策・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3 つのポリシーに基づくアセスメントの概要、各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿って各委員会と連携する。 2. GPA2 未満の学生への学修指導の強化。 3. 2 年生の GPA 落ち込みに対する対応の強化。 4. 2020 年機関別認証評価をふまえた、PDCA の推進。 5. タイプ 1 関連事項の推進。 6. 2021 年 4 月の大学統合をふまえた多職種連携（融合）教育の推進。 7. 2022 年看護基礎教育のカリキュラム改正を見すえた教育の実施。

センター名	学生生活支援センター
目的	本センターは、看護学部における円滑な学生生活の提供をめざし、学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学、大学生活への悩み、経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。
構成員	田中克子（センター長） 津田泰宏 山崎歩 川北敏美 大橋尚弘 山内彩香 土井智生
活動計画	2018年度の年間計画 1. 総代・副総代の連絡会 2. （チューター制度）チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境づくり（継続） 3. （学勢調査）医学部看護学部合同の調査内容の見直し 4. （奨学金）特別奨学金貸与規定変更に伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正 5. （健康管理）保健管理室との連携の一層の緊密化（継続） 6. （学生からの要望に対する対応）意見箱の運用 7. （学生自治）学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援 8. （学外合宿）在校生参加への取り組み、 9. ホームページの内容の充実 10. 学習環境の整備
活動概要	1. 各月の活動概要 月1回の定例会議を開催し、必要事項の確認と検討を行った。各回の会議については議事録を作成し保存している。また、医学部および看護学部両センター長及び、両学部事務員による連絡会議を月1回定例に開催している。学生支援上の課題を両学部で共有し、大学としての統一方針に則った対応を行うよう努めている。以下、各月の主な活動である。 4月：センター委員の役割分担、新年度チューターグループへの移行、新入生学外合宿実施、新年度各学年総代・副総代の決定、総代連絡会実施 5月：奨学金応募者選考面談審査、看護学部給付奨学金の選考審査、保健管理室との連携の一層の緊密化、ホームページ更新 6月：看護学部給付奨学金の選考審査、学友会役員選考、学勢調査内容の見直し 7月：次年度予算作成、講義室更衣室の整理整頓、学内盗難事件の対応 9月：障がいをもつ学生への対応に関する教員のFD研修会への派遣、学校保健安全法による出席停止の場合の追試験料の免除について検討、勤労学生奨学金募集 10月：医・看合同新入生学外合宿の検討、本年度の学生生活実態調査内容検討、学生生活ガイドの見直し、学園祭支援 11月：新入生オリエンテーション内容の検討

12月：学生・教員懇談会の実施

1月：学生・教員懇談会での学生意見の集約・回答検討、卒業記念品に対する助言、学生生活ガイドの検討、学生生活実態調査の実施（1～4年生）

2月：チューター制度のアンケート実施検討、大阪医科大学看護学部特別奨学金適格審査運用の作成、年報作成準備

3月：年報の報告

2. 担当ごとの活動内容

1) 奨学金関連

2018年度奨学金希望学生に対して、募集説明会を開催した。本学入学後の奨学金申込学生に対しては、応募書類を記載し提出させた。その後、センター教員による面接を行い、家庭の経済状況、奨学金の必要性の度合いや、受給後返済の重要性の理解度等について面接を実施し、センター教員による選考を行った。

2018年度日本学生支援機構奨学金の新規採用者は次の通りである。家族所得が一定水準以下の方が対象になる第一種（無利子）は、1年生20名、2年生1名であった。家族所得に関わらず申請可能である第二種（有利子）は、1年生19名、2年生1名、3年生1名であった。本学看護学部独自の奨学金は、次のものが準備されている。大阪医科大学看護学部入学時特待生規程として、1年生の入学時成績優秀者上位4名に給付奨学金、大阪医科大学看護学部奨学金給付規程として2～4年生の成績優秀者上位4名に給付奨学金がある。大阪医科大学看護学部特別奨学金貸与規程として、専願入学者（本学入職希望者）に貸与奨学金があり、2015・2016・2017年度入学生5名、2018年度入学生4名であった。その他、大阪医科大学総務部人事企画研修課が窓口になる、大阪医科大学看護奨学金がある。大阪医科大学入職希望者が対象であり、看護学部2～4年生の希望者が申請手続きする事により、窓口担当部門で採否を決定する貸与奨学金である。一定期間就労する事により返済が免除される制度がある。

外部資金の奨学金として、本年度受給実績の奨学金は、次の4組織である。小野奨学会は、1年生2名、2年生2名、3年生3名、4年生2名の合計9名で、奥村奨学会は、1年生1名、4年生1名で、勤労学生奨学金は2年生1名で、滋賀県看護職員修学資金は、1年生1名であった。その他、外部資金の奨学金については、募集の都度掲示板等に周知したが希望者や該当者が無く申請していない。

2) チューター制度の実施：教員の組み合わせは下記の通りであった。

表1. 2018年度チューターグループ（1～3年生担当）

No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員
1	久保田、川北、柴田	6	元村、原	11	佐々木、山埜
2	田中、竹	7	赤澤、上山	12	鈴木、仲下
3	泊、大橋	8	津田、近澤	13	山崎、土肥
4	荒木、佐野	9	小林、府川	14	真継、土井
5	土手、寺口	10	吉田、山内	15	池西、瓜崎
				16	カルデナス、草野

4年生は例年通り卒業演習担当教員とした。

教員2～3名で1～3学年の学生17～18名を担当した。面談は集団面談、個人面談を含め、各担当教員の判断による実施とした。

3) 学生意見箱の設置

月1回の開箱とした。今年度の投書は0件であった。

4) ホームページ

センター長の変更に伴い、ホームページの改変を行った。また、学習環境の整備、奨学金、健康管理、チューター等の活動の具体的内容を掲載するように修正を行った。

5) 学生と教員との懇談会の開催

12月13日(木) 昼休みの時間帯を利用してランチオン交流会を開催した。参加者は、学生6名(1～2年生各2名、4年生2名)、教員20名(学部長、教育センター長、学生生活支援センター長・委員、有志教員)、学務部2名であった。事前に、学生からの意見・要望を集約したものを学年総代・副総代から提出してもらい、センター委員間で検討した結果を当日説明し、意見交換を行った。学生からは重複するものも含めて46件の要望が出された。意見交換の結果に関しては『学生からの要望に対する回答書』として、後日学生に掲示した(1月)。以下に関しては、今後の検討や対策が必要である。

(1) ユニバーサルパスポートについて

時間割変更や休講連絡が遅かったこと(授業開始予定時間を過ぎてからの連絡)、表示されている情報が確実でなかったこと(ユニバーサルパスポートに表示されている時間割と実際の時間割が異なっていた)については、事実確認を行い、対策を検討するが、学生のスマートホンの設定条件によって対応できない場合もあるので、情報処理室のパソコンや学生間の情報網でも対応してほしい。

(2) 授業に関して

授業中の態度が悪い学生もいるため、授業に集中できない科目がある、配布された資料に関しても文字がつぶれている場合もあるので考慮してほしい、授業中の講師の声が聞き取りにくいなどの意見があった。これらに対しては学生自身の授業に臨む態度に関しても再確認してもらうよう指導する、資料などは印刷の方法の工夫、講師の声に関してはマイクの音量の工夫、機器の整備や担当教員との話し合いなどの対策をとる。

(3) 講義室3にパソコンを整備して情報処理できるようにしたため自主勉強する場所や昼食できる場所が少なくなった。このことに関しては構内のフリースペースに飲食できる場所(机・椅子)を増やし、さらに本年度の予算の関係で2階だけではあるが照明を明るくするように整備した。次年度の予算化もおこなった。

6) 健康管理について

今年度も保健管理室と連携して学生の健康管理を行った。昨年比し、インフルエンザの期限内の予防接種率は高かったが、周知しても健康管理室への感染抗体結果を期限内に報告できない学生が数名いた。保健管理センターに報告のあつ

	<p>たインフルエンザ罹患者は 15 名（1 月末）であった。看護学部生の保健管理室の年間利用件数は 59 件であり、理由は感冒様症状、打撲・捻挫、頭痛、消化器症状等（多かった順に記載）であった。健康面やメンタル面で実習の出席が心配された学生が数名存在した。本年度もメンタル面に課題をもつ学生が増加している傾向にあり、それらの学生に対して新たに作成したシステムで実習委員会、保健管理センターなどと連携・協働して対応した。また、注意が必要な学生はセンター会議で報告され、委員で情報を共有するとともに必要があればチューターに連絡して面接等の対応をお願いした。実習前の予防接種や健康診断の状況も保健管理室と情報を共有して不備のある学生に対してチューターを通して連絡し、指導した。また北キャンパスの休養室に関して、今年度から SaO₂ モニターを設置した。年間利用数は 30 件であった。</p> <p>7) 学生自治支援について</p> <p>各学年の総代・副総代も交えて学生が学生生活の様々な課題に主体的に取りくむことができるように、学生の相談の窓口となって対応していきたいと考える。講義室内および個人ロッカー内に私物が散見されることについて、総代・副総代と相談し、担当教員とともに私物の放置の状況を定期的にチェックし、注意喚起および私物の回収を実施した。</p> <p>4 年生の謝恩会担当委員とともに準備の進め方などに関して一緒に検討した。また、このような最終学年次に必要な事柄の準備等の内容の継承ができるように、4 年生が 1～3 年生に協力を募れるようにアドバイスした。</p> <p>8) 「学生生活ガイド」作成</p> <p>低学年から意識を高めてもらえるように、国家試験対策、就職支援対策を目次に加えた。講義室 3 にパソコン使用の授業ができるように整備したため、講義室使用に関して留意点について加筆した。その他、災害時の避難ルート、安否確認システムも加筆した。</p> <p>9) 医学部・看護学部合同新入生学外合宿</p> <p>淡路夢舞台にて、4 月 6 日～7 日の 1 泊 2 日で行った。看護学部は、学生 86 名教員 8 名が参加した。グループワークでは、将来どんな医療者になりたいか、そのために学生生活をどう過ごすかを主題にし、発表討論会を行った。合宿後のアンケートでは、医療人を目指す学生としての自覚が湧いた、グループ討論が有意義だった、両学部で友達ができたといった意見がみられた。医学部は在校生 10 名が学生スタッフとして参加した。また、調査では、すべての学生が次年度以降も継続したほうが良いと合宿を肯定的に捉え、グループ討議課題に対しても 38%が非常に良かった、61%がまあまあ良かったとの回答がみられていた。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>奨学金関連では、公共性のある日本学生支援機構ならびに各種財団、その他、各地の病院等施設からの奨学生募集の情報開示が促進されている。また、面接を行うことで奨学金の内容について学生に理解を促している。</p> <p>特別奨学金制度（貸与）の規定を見直し、基準を満たす項目である懲戒処分の</p>

	<p>有無、GPA2.0以上、看護師国家試験の合格、学校法人大阪医科薬科大学附属病院の就職について毎年度、所定の適格認定の面接を行い学生の奨学金継続への学業、態度に関する、基準を満たすようにサポートする。</p> <p>各学年の総代・副総代が学友会に参加するようになり、学友会の参集や懇談会を開催し、学年の枠を超えて関係が築ける場を設け連携を促進している。</p> <p>保健管理室とのタイムリーな情報共有と対応により、早期に関係委員会や学生に関わることができるようになった。特に、メンタル面に障がいをもつ学生の対応について、作成したシステムを活用し必要に応じて修正していきたい。</p> <p>医学部・看護学部の連絡会議の定例化によって、両学部の学生生活支援に関する情報共有と新入生合同学外合宿や学友会の運営を円滑に行うことができ、大学の学生生活支援の連携が図られている。</p> <p>教員と事務職員とが連携し、学生生活支援に関する4つの研修会に参加した。研修内容については学科会議でも報告し、学生支援についての情報を共有することができている。新入生学外合宿への医学部学生の参加は新入生にとって、上級生との関係づくりや大学生活への理解を深めるうえでもよかった。</p> <p>環境改善に関しては、椅子・机の再配置を行い、照明を明るくしたことによってフリースペースへの学生の利用率も上がった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>外部各種団体の奨学金に関して選考基準が厳しいため、選考時の審査内容の検討が必要である。インフルエンザ予防接種、健康管理に関して、保健管理室と連携し、積極的勧奨を図る。</p> <p>障がいをもつ学生に対して、学校医や保健管理室を中心として附属病院等との連携調整を図り、学生生活が円滑に行われる現支援システムの洗練が必要である。同様に問題をもつ学生に対してチューターや保健室との連携し、早期から対応が必要と考える。新入生学外合宿への看護学部学生の参加を勧める。</p> <p>学生との懇談会等を活用した意見交換が行われているが、縦断的な学年間の交流が不十分であり、学友会活動への参加も含め、学生が主体的に勉強し、快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が重要な課題となる。</p>
<p>将来に向けた発展方策・課題</p>	<p>外部各種団体の奨学金の推薦者の選考に関して、獲得を目指して吟味する。</p> <p>保健管理室と情報共有を図り、学生の感染症等予防対策を強化する。</p> <p>障がいをもつ学生の支援システムの構築が重要な課題であり、そのための相談室の設置が必要となる。</p> <p>学生の自治活動推進のため、学友会活動への参加、新入生学外合宿への在校生の参加や懇親会への参加者の増加を図る運営ができるように支援する。</p> <p>学生が主体的に勉強し、安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う。</p>

3. 看護学部委員会

委員会名	予算委員会
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする。
構成員	道重文子（学部長） 佐々木綾子（教育センター長） 真継和子（実習委員会委員長） 土手友太郎（教授） 北尾里江 中野恵梨子（看護学事務課）
活動計画	各部署等より提出された予算案を基に作成された2019年度看護学部予算案の審議を行い、教授会で承認を得た。 1. 学生の教育、学生の実習に係る備品等 2. 各センター及び各委員会に係る活動費 3. 教員の研修等に係る活動費 4. 教員の交通費 5. 実習補助員に係る諸経費 6. 看護学事務課に係る諸経費 7. その他、学部長が必要と認めたもの
活動概要	予算案を作成するために、看護学部消耗品等できるだけ削減するように努め、2019年度には看護学部として以下の新規購入を要望し、一部購入および承認。 1. 看護学部棟 講義室 AV 機器デジタル化（看護学部） 2. 自動体外式除細動器（AED）購入（看護学部）→購入済 3. 北キャンパス研究棟ロールスクリーン増設工事（看護学部） 4. デスクセット等の一式購入（教員）（看護学部） 5. 北キャンパス1階学生ホール照明器具交換（学生生活支援センター） 6. 血圧測定トレーナ「あつ姫Ⅱ」（基礎看護学）→承認 7. 口腔ケアモデル アドバンスド（老年看護学）→購入済 8. 幼児用パルスオキシメーター（小児看護学）→購入済 9. ステソ サウンドスピーカー 3S 「聴くゾウ」（在宅看護学）→承認 10. 講義室3 定員増加に伴う授業支援システム一式（看護学部） 11. 非接触性 静脈可視化装置 Stat Vein（基礎看護学） 12. 看護学部棟 講堂 AV 機器デジタル化（看護学部） 13. 看護学部棟 実習室1 AV 機器デジタル化（看護学部）→承認
評価	1. 効果が上がっている事項 予算委員会で審議し、教授会で最終確認することによって適正な予算要望を推進することができた。 2. 改善すべき事項 予算委員会では予算案作成のみでなく、年度の予算決定の確認と執行状況をチェックしていく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	2019年度予算の執行状況を確認しながら、看護学部にとって適正な予算要望を検討することが重要である。

委員会名	実習委員会
目的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案、実習要綱の作成、実習連絡協議会の企画・運営、予算案作成、インシデント等に関する検討など）の調整をする。
構成員	真継和子（委員長） 瓜崎貴雄 カルデナス暁東 草野恵美子 寺口佐與子 土肥美子 府川晃子 山崎歩 竹明美 樋上容子（7月から） 上山ゆりか（7月まで） 塚本文代（事務 11月まで） 吉田美津子（事務 12月から）
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習連絡協議会・実習オリエンテーションの企画、運営 2. 実習連絡協議会のあり方に関する検討と調整 3. 看護学実習要綱（共通事項）、各領域別実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正と取り纏め 4. 実習ポートフォリオの検討（教育センター等の連携） 5. 看護学実習の「再履修」「追実習」の表記、評価等の検討 6. 領域別実習のグループ編成、看護学実習に関する調整、年間計画の立案 7. 感染症対策（ワクチン接種状況、感染予防等）に関わる調整 8. 実習状況に関する情報共有 9. 実習中のヒヤリハット／インシデント／アクシデント分析と今後の対策の検討
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催：13回の委員会を開催した。 2. 実習連絡協議会・実習オリエンテーションの企画、運営： 6月6日に実習連絡協議会を開催し、各領域より本年度の実習概要に関する説明等を行った。参加者は計49名（看護部29名、外部施設20名）であった。3年次領域実習オリエンテーションでは、今年度から接遇に関する研修会を組み入れ開催した。 3. 実習連絡協議会のあり方に関する検討： 年1回の開催に変更したことから、協議会の内容、時間配分について検討した。 4. 実習要綱等の作成： 2018・2019年度各領域別実習要項と、2019年度看護学実習要綱（共通事項）、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等を作成した。共通事項には、災害時の対応、健康上の理由で支援を必要とする場合の対応などを加えた。 5. 実習ポートフォリオの検討： 実習ポートフォリオの素案を作成後、看護学教育センターに検討の場を移した。 6. 「再履修」「追実習」の表記、評価等の検討： 再履修および追実習の定義を明示し、看護学教育センターと連携し実習評価について検討、実習要綱に記載した。 7. 実習グループの編成等： 2018年度領域実習グループの編成および看護実践と理論の統合の部屋割り、2019年度実習計画表および看護実践と理論の統合の部屋割り、2020年度実習計画表（案）を作成した。 8. 感染症対策に関する調整：

	<p>ワクチン接種状況に関して保健管理室と連携し、状況把握を行うとともに未接種の学生に対する指導を行った。また、自己の健康管理をより一層徹底するとともに、実習開始時の体調確認の重要性と徹底を全領域で共有した。</p> <p>9. 実習状況に関する情報共有： 9月以降の委員会にて、学生の実習状況と課題を確認し、領域間での連携を図った。</p> <p>10. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と対策： アクシデントおよびインシデントの報告が計18件あった。実習記録の置き忘れが最も多く、また電子カルテの誤閲覧等もみられた。また3年生に対しては昨年度に引き続き、領域実習開始前に個人情報保護も含む倫理に関するグループワークを具体的事例をもとに行い、振り返りができる資料を作成し学生に配布した。実習2クール終了時に実習倫理GWの評価を行い、学生の自覚や行動に良い効果をもたらしていると評価できた。</p> <p>11. 実習中の災害における学生への対応に関するマニュアル作成： 地震対策を中心に災害時の対応マニュアル（学生用・教員用）、避難場所一覧を作成し、学生、教員、実習施設で共有した。</p> <p>12. 障がいのある学生への支援： 実習における合理的配慮を必要とする学生の相談窓口を設けるとともに対応に関する申し合わせ事項を作成、学生への周知を図った。申し出のあった学生の5名のうち2名は看護学部障がい学生支援委員会にて支援の検討を行った。3名は当該実習においてのみの対応とした。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 学生の実習状況に関する情報交換を定期的実施したことにより、個々の学生やグループがかかえる課題に応じた指導、対応がしやすくなった。</p> <p>2) 接遇研修や領域別実習前に実施した倫理事例検討などの効果もあり、インシデントに対する学生の意識が高まってきた。自ら報告するとともに振り返りが深まっている。さらに、教員間での課題の共有、対応が円滑にできた。</p> <p>3) 災害時の対応マニュアルを整備することによって危機管理に対する課題が整理されるとともに、教員間での危機管理意識が高まった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデントへの意識は高まったものの、分析では実習記録や電子カルテの取り扱い等個人情報保護に関する件が多い。学年による特徴もみられ、より一層の具体的な分析と対策の検討が必要である。</p> <p>2) 次年度から開講する新カリキュラムによる実習計画では、領域によって実習配置期間が3月までずれ込んでいたり、グループによって全体の実習期間に大きな差が生じたりしている。学習への影響を考慮しながら、実習施設との調整とともに実習展開について検討する必要がある。</p> <p>3) 学生の健康管理意識を高めるとともに、実習施設との調整をとりながら、患者家族とともに学生への不利益が生じないよう実習を進めていく必要がある。</p>

将来に向けた 発展方 策・課題	<ol style="list-style-type: none">1. 実習に関する情報開示の内容と範囲の検討（特に実習施設との間において）。2. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデントに関する分析と対策。3. 健康障害のある学生への支援体制の検討。4. 実習配置に関する検討。
--------------------------------	--

委員会名	ウェブサイト委員会
目的	看護学部のウェブサイトを円滑に管理運用する。
構成員	土手友太郎（委員長） 小林道太郎 川上将弘 近澤幸
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新 2. 学部長あいさつ、トップページ写真等の更新 3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 4. 看護学部年報、看護研究雑誌の最新号掲載 5. その他必要な更新および情報公開（随時）
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員会の開催 委員会（10回）を開催し、サイト更新に関する検討・準備と確認を行った。 2. サイト更新 <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員一覧、各教員情報、教員からのメッセージ、領域ページの更新 新 HP は、直接外部業者へ改修依頼を行わなくても比較的簡単に各担当部署で改修が可能になっている。そのため更新依頼書様式について①看護学部ウェブサイトの手順、②ウェブサイト更新・ページ作成依頼書を作成した。 2) 学部長あいさつの更新、その他年次情報更新 3) 看護実践研究センター・教育センター・学生生活支援センター更新、国家試験合格情報、就職・進路状況の更新 就職状況が「学生生活」内「就職支援」からだけでなく「看護学部看護学科」「国家試験・進路・就職」からも見ることができるようリンクを作成した。 4) 2017年度看護学部年報、看護研究雑誌第9巻掲載 5) 各種告知事項、実施報告等の更新 看護専門学校へのアクセスのため新規に「附属看護専門学校」を新規作成した。 3. 全学サイト更新への協力 大学 HP 委員会・法人広報室を中心に行われた英文サイト全面更新に際して、看護学部関連部分等について確認し、必要と思われる点について意見を述べた。各教員の研究業績は今後 HP では掲載せず、各教員のページは各教員が入力した researchmap へのリンクに変更した。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 今年度必要な情報更新を行うことができた。大学サイト更新により、看護学部サイトもデザインが変わり、一部内容を調整した。看護実践研究センターのページを拡充することにより、外部に対して活動のさらなる周知が期待できるようになった。事業開催予定・開催報告、国際関連の活動などについての情報をあげる。 2. 改善すべき事項 教育内容に関するコンテンツの訪問者が多く、今後充実させる必要がある。看護学部の英語 HP を一層充実させる必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	<p>ニュースエリアを今まで以上に活用し、タイムリーな情報発信を拡充していくことが望ましい。</p> <p>学部サイトの構成・コンテンツを見直し、さらに充実させることが求められる。</p>

委員会名	看護研究雑誌編集委員会
目的	主に大阪医科大学看護学部の教員がその研究業績を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿・査読、編集、出版等に関わる業務を行う。
構成員	荒木孝治（委員長） 元村直靖 草野恵美子 カルデナス暁東
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第9巻発行と投稿への働きかけ 2. 必要により学外者も含めての2名の適正な査読体制の維持 3. 査読のシステムに関する評価と今後のあり方の検討
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「大阪医科大学看護研究雑誌」第9巻の発行に向けて、論文の募集、査読者の選出、査読結果を踏まえての採否の決定、修正論文の再査読を踏まえての採否の決定、採択論文の校正、雑誌全体の校正等の作業を行った。 2. 第9巻は総説1編、原著1編、研究報告2編、資料11編の計15編の論文を掲載した。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 投稿規定に沿って計画通りに編集業務を進めることができた。 2. 改善すべき事項 論文種では応募段階から資料の希望が多く、原著希望は少ない。これは論文作成に要する期間とも関連するので、論文の募集の呼びかけを早めることも必要である。
将来に向けた発展方策・課題	論文の内容に沿って適切と思われる査読者を選出する必要性があることから、査読体制については引き続き検討していく必要がある。

委員会名	物品管理委員会
目的	講義、演習等を円滑に進めるため、授業に関する物品の維持及び管理、物品に関する情報収集と学部内教員への発信、その他物品管理に関する事項を行う。
構成員	真継和子（委員長） 土肥美子 曾我浩美（6月まで） 近澤幸 山岡愛（7月から） 中野恵梨子（事務）
活動計画	1. 教務関係備品・消耗品の在庫管理と点検 2. 2019年度教務関係物品購入予算案の作成 3. 教務関係備品の貸出管理
活動概要	1. 委員会開催 2018年4月～2019年3月にあいだに計6回の委員会を開催した。 2. 教務関係備品・消耗品の在庫管理と点検 ラベル付き物品による定数化運用により、消耗費の適切な補充を行った。 実習室ベッド、車いす、洗髪車、モデル人形の点検を実施した。修理可能な備品は全て修理を完了し、車いす1台は耐用年数が過ぎており廃棄処分とした。大阪医科大学教育拠点事業より救急カート1台と外傷シュミレーションモデルの委託を受け実習室に設置、急性期成人看護学領域の管理とした。共通物品、領域管理責任の物品については3月に定数確認を実施した。 3. 2019年度教務関係物品購入予算案の作成 地震対策費と保守点検費の予算化、ストレッチャー保守点検は3年毎とした。 4. 教務関係備品の貸出管理 3件の借用申請があり、うち2件は全て返却された。1件は物品破損により修理を行い返却されることとなった。 5. 地震による実習室および準備室破損に関する点検と整備 6月の大阪府北部地震発生にともない実習室等の安全点検を実施した。破損備品等は修理または購入を完了した。また、剪刀類や金属製トレイといった物品の収納場所の変更、物品棚の落下防止用ゴムひもの設置など安全対策を強化した。 6. 固定資産管理 3月に固定資産管理台帳をもとに備品の点検を行った。
評価	1. 効果が上がっている事項 1)看護学事務課との連携により修繕、購入が円滑に行われるようになった。 2)実習室に安全対策強化が徐々に進められてきた。 2. 改善すべき事項 1)備品等の設置場所や管理領域がわかりにくい。配置や管理方法の検討が必要。 2)物品・備品の老朽化に伴う適正かつ計画的な購入が必要。
将来に向けた発展方策・課題	1. 物品管理台帳及び固定資産管理台帳の整備とわかりやすい配架方法の検討。 2. 物品及び備品の点検整備と長期的な購入計画の策定と購入。 3. 実習室の安全対策整備の強化。

委員会名	就職支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部の学生の就職や進路の支援
構成員	吉田久美子（委員長） 府川晃子 二宮早苗 大橋尚弘 柴田佳純 山内彩香 曾我浩美（6月まで） 川上将弘 大屋祐里恵 吉羽知子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 教員の就職活動支援力向上のためのサポート 4. 就職活動及び内定状況の把握 5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け、情報提供の充実をはかる 6. 卒業生に関するアンケート調査 7. 就職・キャリアサポートの支援について学生ガイドに掲載 8. 来校人事担当者との対応による情報収集 9. HPの更新、就職スケジュールの掲載
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生に対する就職情報提供 就職活動スケジュール等の情報や看護職員募集情報、パンフレットなどをキャリアサポートルーム内外に設置した。月1回定期的にパネルの掲示とユニパにて学生に就職活動スケジュール等の情報を配信した。 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 就職ガイダンスを3回と履歴書添削セミナーを実施した。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職ガイダンスの開催 第1回を2018年7月10日（火）に本学附属病院人事企画研修課担当者、就職支援業者による「看護学生のための就職活動講座～入門編」を開催した。看護学部3年生83名と2年生1名、1年生2名が参加した。第2回は、2019年1月26日（土）、午前中に本学附属病院担当者、第5期卒業生の看護師、保健師、助産師による講演および質疑応答を開催し、午後から就職支援業者による履歴書および面接対策の講演を実施した。参加者は、3年生83名であった。第3回は、今年から1.2年生を対象とした低学年向けガイダンスとして2018年12月20日（木）に就職支援業者による就職活動講座を行い、2年生70名、1年生4名の参加があった。 2) 履歴書添削セミナーの開催 2019年3月11日（月）、12日（火）の2日間業者により実施、参加者は3年生24名であった。 3. 新任教員向けの履歴書添削能力のためのセミナーの開催 2018年5月24日（木）「就職支援業者による履歴書および履歴書の書き方、就職試験・面接対策（担当マイナビ）」の講演を実施した。参加者は教員10名（内、就職支援委員5名）であった。 4. 就職活動及び内定状況の把握：就業調査票により内定状況把握し、2018年2月の学科会議で報告した。

	<p>5. 卒業生と在校生の交流会の開催、 2019年1月26日(土)に3年生と卒業生の昼食会を設け、就職活動について、情報共有をはかった。看護学部3年生83名、卒業生約28名(助産師1名、保健師1名、看護師26名)の参加があった。</p> <p>6. 卒業生に関するアンケート調査の実施 就職先の93施設の管理者を対象にアンケートを行った。42施設より回答があった(回収率45,2%)。今後も採用するが92%、また、82%が看護実践の向上を本学に期待していた。</p> <p>7. 2019年度学生ガイドに就職・キャリアサポートについて記載 1年生から4年生までの就職活動スケジュールや支援内容を具体的に掲載した。</p> <p>8. 来校人事担当者との対応 情報収集応接録は委員が記載し、閲覧用にキャリアサポートルームに保管した。来訪者は4施設であった。</p> <p>9. HPの更新 就職活動スケジュールと就職先を対象にしたアンケートと今年度の卒業生の就職状況(主な就職先)を掲載した。</p>
<p>評価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項 全国と比較すると関西地域の採用試験が年々早期になっていることから、今年度は就職活動について低学年向けのガイダンスや学生全体に就職情報を発信することで学生の意識の向上を図った。就職支援委員から、ユニパにて就職活動の情報を配信することで、キャリアサポートルームの利用者は2018年度57名と前年度より増加した。第1回就職ガイダンスは、学生が就職活動およびインターシップや実際の就職活動に臨む前の準備や心構えについて知ることのできる貴重な機会となった。また、低学年の参加があり、日頃からの情報発信の重要性を学んだ。第2回就職ガイダンスは、学生の主体的な参加をめざし、学生に対して事前に面接場面の情報を提供しロールプレイを実施した。現状把握や就職活動に必要な知識・技術・心構えを学ぶ有意義な機会となっていた。合同昼食会は在校生と卒業生との活発な交流の場となった。また、1,2年生を対象とした低学年向けのガイダンスでは、今後の具体的な就職活動の行動目標が明確になった。</p> <p>教員の就職活動支援力向上のためのサポートでは、「関西地域の就職状況がわかった」「履歴書添削のポイントがわかった」「具体的に履歴書・面接対策などの学生指導にいかせる」などの意見があったことからよい評価であった。</p> <p>学生を対象とした履歴書添削セミナーでは、3年生24名の希望者があり事前に履歴書を教員に提出することにより、より効果的な添削を受けることができた。</p> <p>卒業生の就職先に対して行った調査では、90%以上今後も採用したいと回答があった。就職先が何を望んでいるかアンケート結果は、キャリアサポートルームに掲載した。ガイダンス等でのアンケート結果を掲示し、学生や教員間での就職活動の情報共有を図った。</p> <p>2. 改善すべき事項</p>

	<p>就職活動について、学生の動向を調査したところユニパ受信による情報収集者が多かった。学生が主体的に就職活動に取り組むことができるようになるための支援が重要となる。また、低学年向けのガイダンスの開催時期と内容についてと学生同士のつながりを活用した模擬面接の体験など新たなサポート体制の検討が必要となる</p> <p>卒業生との交流は、在学生にとって有意義なものであるため、遠方から様々な場面で活躍している先輩を招聘することは、学生のキャリア形成には重要であると考え。</p>
<p>将来に向けた発展 方策・課題</p>	<p>採用試験の時期が早まっており低学年から学生の就活に対する意識を高め、キャリア形成について早期から取り組むことで、学生が主体的に活動できる力を形成することが必要である。ガイダンス等集団を対象にした取り組みと個別相談等の充実と、両面の支援ができる体制づくりが必要となる。</p>

委員会名	国家試験対策委員会
目的	大阪医科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す。
構成員	泊祐子（委員長） 津田泰弘 仲下祐美子 竹明美 佐野かおり 土井智生 原明子 橋本千恵子
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4年生全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 2018年度国家試験対策の模試や対策講座の実施 3. 2年生及び3年生を対象とした講座及び模試の実施 4. 成績不振者対策としての必修強化対策勉強会、直前勉強会の計画実施 5. チューターへの学習指導の依頼 6. 2018年度国家試験対策の評価 7. 2019年度国家試験対策の企画及び予算案の作成
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 役割分担 <ol style="list-style-type: none"> 1) 全体総括、教授会審議・学科会議協議・報告関係、予算関連：泊委員長 2) 看護師対策講座、東京アカデミー窓口：泊委員長 3) 看護師模試：佐野委員、土井委員、原委員 4) 保健師対策講座・模試：仲下委員 5) 助産師対策講座・模試：竹委員 6) 低学年対策講座：津田委員（2年生基礎実習Ⅱ前・3年生実習前の講義）・竹委員 2. 委員会の開催（計10回）と主要議題 国家試験対策のスケジュールと運営を確認し徹底を図った。 3. 模擬試験、対策講座等の年間実施状況 看護師対策としては、主として東京アカデミーに依頼して、模試4回、講座・傾向分析45コマを実施した。また、保健師対策としては、模試3回、講座18コマ、助産師対策としては、模試2回、セミナー2回を実施した。 4. 低学力者対策 模擬試験の結果が返却される度に成績の分析、要支援学生の選定をした。今年度は初めて11月下旬から「必修対策強化勉強会」を開設した。毎日の小テストと自己学習の場を提供した。11月の模試結果をもとに席替えと、1月中旬より5週間、直前勉強会を開催し、毎日の小テストと2回の模擬試験および質問コーナーを設け、学習の強化を徹底した。 5. 学生評価と教員の学習指導状況の把握 今年度から学生にWebアンケートを実施した。対策講座後は、講座内容の理解度や難易度、今後の自己の課題などを把握し、国試終了後は勉強内容や対策講座への意見を把握した。教員には前期と後期に学生指導した内容、タイミング、指導上の困難等のアンケートを実施した。集計結果は国試対策案の例として示すべく、教員全員にフィードバックした。

<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>今年は、模試結果を基に学生全員を座席指定し、要支援学生を前方に指定し、学習環境を整えた。座席の決め方を学生に公開していなかったが、前方に席替えにならないようにと励みがあったと学生からは好評価であった。</p> <p>11月からの早い段階での勉強会の開催は、勉強への自己コントロールがしやすかったと思われる。</p> <p>第108回看護師国家試験は受験者84名が全員合格した（全国平均89.3%）。第105回保健師国家試験は受験者27名が全員合格した（全国平均81.8%）。第102回助産師国家試験は受験者6名が全員合格した（全国平均99.6%）。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>次年度は対策講座費の上昇のために全体の講座コマ数が約3割減となるために少なくなった講座をより効果的に活用する必要があるので、学生の欠席を減らす必要がある。</p>
<p>将来に向けた発展方策・課題</p>	<p>対策講座全体への欠席率が高く特に成績不良学生に連絡なしの欠席率が高い結果が出ているので、対策が必要である。</p>

委員会名	年報編集委員会
目的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する。
構成員	赤澤千春（委員長） 津田泰宏 カルデナス暁東 樋上容子 上山ゆりか 曾我浩美（6月まで） 杉山恵美子（看護学事務課）（6月まで）
活動計画	1. 2017年度年報の取り纏め・発行 2. 2017年度年報のHP上での公開 3. 2018年度年報作成のための原稿依頼
活動概要	1. 委員会の開催 6回の委員会を開催した。 2. 2017年度年報の発行 1) 2018年7月22日に年報を発行した。 2) 冊子35部作成し関連部署に配布した。 3) 看護学部教員へはHP上でPDFを公開した。 3. 2018年度年報作成について 1) 原稿の目次や執筆要領の見直しを行い、見本を呈示した。 2) 2018年度年報作成のための原稿を依頼した。 3) 各センター・委員会・領域・部署および各教員から原稿を集めた。
評価	1. 効果が上がっている事項 年報のPDFをHPに掲載していることにより、本学看護学部および看護学研究科の教育研究活動について公開することができた。 2. 改善すべき事項 特になし
将来に向けた発展方策・課題	1. 2018年度年報の発行 2. 2019年度年報作成の準備 3. 2019年度年報の印刷部数および予算の見直し

委員会名	看護学部広報委員会
目的	大阪医科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら、大阪医科大学入試広報部、本学部各種委員会と連携を図り、本学部の受験者を募集する。
構成員	池西悦子（委員長） 真継和子 瓜崎貴雄 佐野かおり 山埜ふみ恵 近澤幸柴田佳純
活動計画	1. オープンキャンパス企画・運営 2. 進学ガイダンス出向の調整・実施 3. 看護学部案内書サブツールの企画
活動概要	1. 委員会の開催：定例会を8回開催した。 2. オープンキャンパス企画・運営： 今年度は2回のオープンキャンパスを企画・運営した。学部・入試説明、模擬講義、体験実習、対策ゼミ、個別相談、在学生交流、学生プレゼン（入試対策、学生生活）、看護キャンパスツアー、図書館を含む病院ツアー、さらに、今年は専門看護師、助産師、保健師で活躍する卒業生の講演と交流会を計画実施した。模擬授業・学生プレゼンは、昼食時間となるため、ランチョンとした。入試説明では、推薦入試（専願制）は2018年度で終了し、新たな制度を検討中であることを公表した。入試相談会を9月に1回企画したが、台風の影響により中止となった。 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施： 各種進学相談会には、35会場に参加。教員は14会場に出向し、ガイダンスおよび講演を実施した。 4. 看護学部案内書サブツール作製： 学生生活の紹介を主としたサブツールを作製にあたり、在校生、卒業生の紹介や実習場面の写真撮影への協力を行った。
評価	1. 効果が上がっている事項 オープンキャンパスを3回から2回へと変更したが、昨年同様1067名の参加者があった。開催回数を減らしたことで各回の教員配置数、学生ボランティア数、体験実習の回数を増やし、休憩時間を確保することができた。また、ランチョンを取り入れたことで、昼食時の模擬授業や学生プレゼンへの参加者が増加した。さらに、新企画の専門看護師や助産師、保健師として活躍する卒業生の講演も満足度が高く、卒業後のキャリアをイメージできたという意見が聞かれた。 2. 改善すべき事項 卒業生との交流会は教室に移動し交流が活発に行えるような環境整備を行う。また、ランチョンは1回でもプログラムの人数は確保できていたため、次年度からも1回のみでよい。
将来に向けた発展方策・課題	1. 学生からみた看護学部の魅力を伝えるため、看護学部の1～4年までの学生がオープンキャンパスの企画運営に、主体的に継続参加できるしくみづくり。 2. 本学の幅広く地域に根ざした医療人教育と研究活動を積極的に広報する。

委員会名	カリキュラム委員会
目的	本学部の教育目標の下、カリキュラムの改善のために科目の設定や統合、教育内容、教育評価などの事項についてPDCAを実施する。
構成員	佐々木綾子（委員長） 池西悦子 鈴木久美 田中克子 津田泰宏 土肥美子 山埜ふみ恵 北尾里江
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメント・ポリシー策定に関すること 2. 教育課程の運営に関すること <ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラム評価に関する事項（学勢調査に含む・外部委員・学生委員の会議参加） 2) 卒業時到達目標の自己評価との関連 3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施 4) ティーチングポートフォリオ作成に関すること 3. その他（非常勤、兼任教員への看護学部学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動に関する調査）
活動概要	<p>8回の会議を開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメント・ポリシー策定に関すること アセスメント・ポリシー案作成・公表、アセスメント・ポリシーに基づくフィードバックの流れ案作成、査定項目と管理部署一覧作成、ジェネリックスキルテストを試行した。 2. 教育課程の運営に関すること <ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラム評価に関する事項：1-4年カリキュラムに関するアンケート内容の検討と実施（学勢調査に含む）、学生（2年と4年生各2名）・外部委員（1名）の会議参加による意見を収集した。1-4年カリキュラムに関するアンケートは学勢調査に含むことになり、結果は2019年6月まとまる予定である。 2) 卒業時到達目標の自己評価との関連：新たな卒業時到達目標の自己評価 ディプロマポリシーに基づく卒業時到達目標の自己評価（案）を作成・4年生83名にプレテストを実施・評価した。 3) 教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施 常勤教員26名（回収率70.3%）から回答が得られた。 4) ティーチングポートフォリオに関する情報共有を行った。 3. その他 非常勤、兼任教員への「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動」に関する調査を行い、非常勤、兼任教員19名のうち10名より回答が得られた。
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果が上がっている事項 <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント・ポリシー策定に関すること 以下を策定、実施した。

	<p>(1)アセスメント・ポリシー案作成・公表</p> <p>(2)アセスメント・ポリシーに基づくフィードバックの流れ案作成</p> <p>(3)査定項目と管理部署一覧作成</p> <p>(4)ジェネリックスキルテスト試行</p> <p>2) 教育課程の運営に関すること</p> <p>(1)カリキュラム評価に関する事項（外部委員・学生委員の意見）</p> <p>① 学生委員（4年生）</p> <p>3年前期は後期の実習にむけて、病院や疾患への関心が高まっているため、病院における英語の具体例の紹介などがあると学生の関心が高まるのではないかと、就職支援が手厚いなどがあった。</p> <p>② 外部委員：英語を学ぶ必要性をそこまで感じていない様子に見受けられるなどがあった。</p> <p>③ 学生委員（2年生）：</p> <p>授業の種類に関して：授業内容の重複、講義終了後の試験時期を早くしてほしい、英語の授業に対する要望（力がついた実感があまりない）、演習と試験時期が近い、基礎看護学実習Ⅱが2回あり、同じ病棟の場合は前回と今回で自分の成長がわかってよかったなどがあった。</p> <p>時間割に関して：1日の試験科目の調整、実技試験の日程調整の要望があった。</p> <p>その他：スマートフォンでの授業評価は新しいシステムで問題なかった。英語授業のA、Bの公平性の要望があった。</p> <p>(2)卒業時到達目標の自己評価との関連</p> <p>DP1～5において90%以上の学生が、“ほぼ到達している”、“到達している”と回答していた。細目を見ると、DP2の「諸外国の看護保健ニーズや多様な文化背景を持つ人々への支援」など、多面的かつグローバルな視点に関しては、“あまり到達していない”と回答した割合が多かった。</p> <p>(3)教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施</p> <p>カリキュラム全体として、「科目の大分類」「科目の小分類」「科目配置」「科目の順序性」は、概ね適切であるという回答が得られたが、「科目間の重複」「不足科目」についてはあまり適切でないという回答が多くみられた。また、「教室の数や広さ」があまり適切でないという意見が多かった。</p> <p>(4)ティーチングポートフォリオ作成に関すること</p> <p>ティーチングポートフォリオに関する基本的な理解を得た。</p> <p>3) その他（非常勤、兼任教員への看護学部学生の学習に関する調査）</p> <p>(1)「学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動（課題提出を含む予習、復習状況、授業中の態度など）」については、良好が6名であった。一方、課題となる意見・要望は、「医療英語」と「英語Ⅲ／Ⅳ」でみられ、積極的な授業参加姿勢欠如があった。</p> <p>(2)「学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動の課題（問題）」に対する意見要望では、改善意見として、小テスト等積極的に導入したい、点数も開示を要</p>
--	---

	<p>望、「くらしと文学」を受講することの意義の専任教員からの支援要望、英語科目では、課題提出期限に追われるので英語含め他の科目がおろかになる、英語レベルや将来の目的別クラス分けの必要性などがあった。その他着席の課題、高等教育らしく答えのない問題を考えることや問いを自分で立てることの重要性などがあった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) アセスメント・ポリシー策定に関すること</p> <p>(1)全学DPの検討</p> <p>(2)カリキュラムの継続的改善にむけたPDCAを査定する組織の明確化</p> <p>(3)査定の実施、課題の明確化と改善計画策定</p> <p>(4)テスト結果の解析、応用方法の方針作成、2019年度以降の予算化（2学年分）</p> <p>2) 教育課程の運営に関すること</p> <p>(1)カリキュラム評価に関する事項（学勢調査・外部委員・学生委員の会議参加）</p> <p>6月の学勢調査報告結果をもとに改善策検討予定、学生・外部委員の意見収集の結果は教授会、教育センター、学科会議で共有し、各科目担当者に検討を依頼した。具体的には、英語担当者への依頼、試験時期、1日の試験数の調整、中間試験の実施による期末試験の負担軽減、重複内容の科目担当者への検討を依頼した。</p> <p>(2)卒業時到達目標の自己評価との関連</p> <p>多面的かつグローバルな視点をもてるようカリキュラム内容を検討する。国内外を問わず様々な地域の暮らしや文化背景が理解できるような体験的な学びの機会を検討する。</p> <p>(3)教員を対象としたカリキュラム評価に関するアンケートの立案と実施</p> <p>カリキュラム評価に基づいた検討を行い、結果を看護学部教員にフィードバックする。</p> <p>(4)ティーチングポートフォリオ作成に関すること</p> <p>ティーチングポートフォリオに関するFDの検討と実施</p> <p>3) その他（非常勤、兼任教員への看護学部学生の学習に関する調査）</p> <p>英語の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動に深刻な課題があることが明らかとなった。現在看護学部では、将来構想検討中であるが、2019年度は、こうした意見を学生へフィードバックすると同時に高等教育らしい自覚を促し、クラス分けについては科目担当者とも調整の上導入について検討が必要と考える。</p>
<p>将来に向けた発展方策・課題</p>	<p>1. 3つのポリシーに基づくアセスメントの概要、各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿って各委員会と連携する。</p> <p>2. 2020年機関別認証評価をふまえた、PDCAの推進。</p> <p>3. タイプ1関連事項の推進。</p> <p>4. 2022年看護基礎教育のカリキュラム改正を見すえた検討。</p>

4. 大学院委員会

委員会名	大学院委員会
目的	本委員会は、看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ、大学院生の教育、研究、学位審査、学生生活に関する事柄、また、入学試験等に関する協議を行い、必要事項を審議事項、報告事項として教授会に提議する。
構成員	赤澤千春（委員長） 佐々木綾子 鈴木久美 真継和子 久保田正和
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士前期課程の受験者数減への対策をする 2. 口頭試問の主査副査の選定基準を作成する 3. 開学5年目となりカリキュラム評価を行う 4. 高度実践コースの分野（老年）の準備を進める 5. ベストティチャー候補者の選定基準を作成する 6. 学位規程施行細則を作成する
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士前期課程の入試科目の英語と専門科目の配点比重の見直し 筆記試験において配点比重の見直しを行い、受験当日に受験方式を選択し、志願者自身で配点比重を選択できるようになった。 2. 博士前期課程入試科目の専門科目の作問基準を作成 公平性を担保するため、専門科目において作問基準を新たに設定した。 3. 入試説明・個別相談会の実施、大阪府看護協会フェスタにブースを出展 2018年3月3日、6月2日に入試説明・個別相談会を実施した。延べ35名（3月：8名、6月：27名）が来場し、個別相談ブースには32名（3月：8名、6月：24名）参加した。また、2018年12月8日に大阪府看護協会フェスタにブースを出展し、個別相談ブースには2名参加した。 4. 本研究科HPの改訂作業とHPのアップ、リーフレット・パンフレットの作成 HPの改訂を行い、2019年6月17日に大学院案内をHPに公開した。 5. カリキュラムの見直しのためにカリキュラムワーキンググループを選定 カリキュラムワーキンググループを選定し、大阪医科大学 大学院看護学研究科カリキュラムワーキンググループ運営細則（2018年7月25日施行）を制定、2018年6月27日看護学研究科教授会において承認された。 6. 修了生と在学生を対象にディプロマポリシーに基づいてアンケートの実施 授業評価アンケート（前期）を2018年8月3日～9月10日に実施し、博士前期課程16名中2名、博士後期課程23名中6名から回答があった。 授業評価アンケート（後期）を2019年2月1日～2月23日に実施し、博士前期課程17名中11名、博士後期課程21名中12名から回答があった。 7. 修了生・在学生及び教員を対象にカリキュラム評価のアンケートを実施 2018年12月12日～17日に実施し、修了生 博士前期課程21名中6名、博士後期課程10名中7名、在学生 博士前期課程14名中4名、博士後期課程21名中5名、教員 博士前期課程 教育研究コース担当21名中14名、博士前期課程 高度実践コース担当21名中10名、博士後期課程21名中11名から回答があった。

	<p>8. 2020 年度大学評価に向けての点検 自己点検・評価ワーキンググループからの依頼により、2018 年 12 月に点検を行った。</p> <p>9. 大学院生との交流会の実施 2018 年 5 月 19 日に実施し、博士前期課程 6 名と博士後期課程 5 名、教員 10 名が参加した。授業評価アンケートの報告や自由に意見交換を行い、学生間および学生と教員間の交流を深める機会となった。</p> <p>10. 主査副査の選定基準を含めた看護学研究科学位規程施行細則の作成 大阪医科大学 大学院看護学研究科博士前期課程学位規程施行細則、大阪医科大学 大学院看護学研究科博士後期課程学位規程施行細則（2019 年 6 月 12 日施行）を制定し、主査副査の選定基準について明示した。</p> <p>11. 各種発表会（計画発表、中間発表、論文発表）の実施 2018 年 4 月 28 日、10 月 24 日・26 日、2019 年 2 月 14 日・16 日、21 日～23 日に実施した。</p> <p>12. 平成 31 年度入学生に対する補習授業の実施 博士前期課程の入学予定者 6 名に対し、入学前教育を 2019 年 2 月 23 日（6 名参加）、3 月 16 日（4 名参加）に実施した。</p> <p>13. 本研究科主催のFDの開催（内容は「The Ethics of Geritechnology」） 2018 年 11 月 7 日に FD を開催した。</p> <p>14. 教育要項および学生生活ガイドの改訂 大学院委員担当で原案作成、大学院委員会及び研究科教授会確認して改訂を行った。学生ガイドについては、新たに奨学金制度や院生研究費等について記載した。</p>
<p>評 価</p>	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 今年初めて本学卒業生の受験があった</p> <p>2) 学生が優れた学位論文を作成するための環境を充実させつつあること</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1) 博士前期課程の受験者数が減少しているためさらなる対策が必要</p>
<p>将来に向けた発展 方策・課題</p>	<p>1. 本研究科の学位論文の水準を上げるための継続的な議論の必要性</p> <p>2. 新しい科目やカリキュラム等の見直しの必要性</p> <p>3. 社会のニーズを反映した新しい分野（高度実践コース等における）の増設</p>

5. 看護学部教育活動

1) 授業科目一覧

2017年度入学生（1年生）用

2017・2018年度入学生（1・2学年次）用

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 養 *	講 義 演 習 実 習	単 位 数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位 以上	
基礎 科目	心理学		講義	2	●								↑ 20単位以上 ○●必修科目13単位 ○選択科目7単位以上 （人間理解と異文化理解から5単位以上、 社会理解から2単位以上含まれていること） ↓	
	生物学		講義	2	○									
	化学		講義	2	○									
	物理学		講義	1		○								
	くらしの中の倫理		講義	1		○								
	大阪を学ぶ		講義	1		○								
	哲学		講義	1		○								
	くらしと文学		講義	2	○									
	教育学		講義	2	○									
	体育Ⅰ	*	演習	1	○									
	体育Ⅱ	*	演習	1		○								
	人間関係論		講義	1	●									
	キャリアマネジメント		講義	1	●									
	健康科学概論		講義	1	●									
	情報リテラシー		演習	1	●									
	データ処理演習	*	演習	1			○							
	統計学		講義	2		●								
	日本国憲法と法律	*	講義	2	○									
	くらしと社会・環境		講義	2	○									
	くらしと経済		講義	2	○									
	くらしと安全・危機管理		講義	2	○									
	異文化理解		講義	1	●									
	英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●								
	英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●							
	英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●						
	医療英語		演習	1					●					
	国際言語文化		講義	2	○									
	医工薬連携科学遠隔講座		講義	—	◇									
基礎科目必修単位数				13	7	3	1	1	1	0	0	0		
専門 基礎 科目	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●							↑ 28単位以上 ○●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上		
	からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●								
	感染と免疫		講義	1	●									
	からだと栄養		講義	2		●								
	こころの仕組みと働き		講義	1		●								
	フィジカルイグザミネーション		演習	1			●							
	リプロダクションと看護	☆	演習	1			○							
	セクシュアリティと看護	☆	講義	1			○							
	からだどくすりの働き		講義	2			●							
	病気の成り立ち		講義	2			●							
	病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●							
	病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●						
食生活論		講義	1					○						

区分	授業科目	助★ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業要件 単位数 127 単位以上	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門基礎科目	医学概論		講義	1		○							28 単位以上 ○●必修科目25単位 以上 ○●選択科目3単位 ↓	
	医療人マインド		講義	1	●									
	専門職連携医療論		講義	1			●							
	保健医療福祉概論		講義	2		●								
	公衆衛生学・疫学		講義	2			●							
	ヘルスプロモーション論		講義	1					○					
	医療倫理学		講義	1			●							
	リスクマネジメント		講義	1					●					
異文化看護入門		演習	1					○						
専門基礎科目必修単位数				25	4	7	9	4	1	0	0	0		
専門科目	看護の基礎盤	看護学概論	講義	2	●								↑ 79 単位以上 ○●必修科目74単位 以上 ○●選択科目5単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、 看護実践発展科目から2単位以上含まれていること)	
		日常生活援助技術	演習	3		●								
		基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		●								
		看護アセスメント	演習	1			●							
		治療過程に伴う援助技術	演習	2			●							
		基礎看護学実習Ⅱ	実習	2			●							
		看護管理	講義	1								●		
	看護教育	講義	1							●				
	療養生	成人看護学概論	講義	2		●								
		急性期成人看護学援助論	演習	1			●							
		急性期成人看護学援助方法	演習	1					●					
		急性期成人看護学実習	実習	3						●				
		慢性期成人看護学援助論	演習	1			●							
		慢性期成人看護学援助方法	演習	1				●						
		慢性期成人看護学実習	実習	3						●				
	活支	精神看護学概論	講義	2			●							
		精神看護学援助論	演習	1				●						
		精神看護学援助方法	演習	1					●					
		精神看護学実習	実習	2						●				
		老年看護学概論	講義	2			●							
老年看護学援助論		演習	1				●							
老年看護学援助方法		演習	1					●						
地域家族支援	老年看護学実習Ⅰ	実習	1				●							
	老年看護学実習Ⅱ	実習	3						●					
	母性看護学概論	講義	2		●									
	母性看護学援助論	演習	1				●							
	母性看護学援助方法	演習	1					●						
	母性看護学実習	実習	2						●					
	小児看護学概論	講義	2			●								
	小児看護学援助論	演習	1				●							
	小児看護学援助方法	演習	1					●						
	小児看護学実習	実習	2						●					
在宅看護学概論	講義	2			●									
在宅看護学援助論	演習	1				●								

区分	授業科目	助 ★ 保 ◎ 養 *	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127 単位 以上	
専 門 科 目	地域家族支援		演習	1				●				79 単位 以上 ○●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、 看護実践発展科目から2単位以上含まれていること) ↓		
			実習	2					●					
			講義	2		●								
			講義	2			●							
	発展看護 科目実践		講義	1				○						
			演習	1						○				
			演習	1							○			
			演習	1							○			
			実習	2							○			
	保健師科目	◎	講義	1					○					
		◎	講義	2					○					
		◎	演習	1							◇			
		◎	実習	1							○			
		◎	実習	4							◇			
	助産師科目	★	講義	2			○							
		★	演習	1				○						
		★	演習	3							◇			
		★	講義	1							◇			
		★	実習	8							◇			
統 合			講義	1			●							
			講義	1				●						
			講義	1				●						
			講義	1				○						
		★	講義	1							○			
			演習	3					●					
			講義	1							●			
			演習	1							●			
			演習	3							●			
			実習	2							●			
専門科目必修単位数				74	2	8	14	13	8	20	3	6		
必修単位数合計				112	13	18	24	18	10	20	3	6		
履修登録できる単位数の上限				167	48		47		39		33			
★助産師国家試験受験資格必修科目 ◎保健師国家試験受験資格必修科目 *養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目														

2015・2016年度入学生（3・4学年次）用

区分	授業科目	助 ☆ 保 ◎ 養 *	講 義 演 習 実 習	単 位 数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								単 位 数	卒 業 要 件
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	127単位 以上	
基 礎 科 目	心理学		講義	2	●								↑ 19単位 以上 ○●必修科目12単位 ○●選択科目7単位以上 (人間理解と異文化理解から5単位以上、 社会理解から2単位以上含まれていること) ↓	
	生物学		講義	2	○									
	化学		講義	2	○									
	物理学		講義	1		○								
	くらしの中の倫理と法律		講義	1	○									
	大阪を学ぶ		講義	1		○								
	哲学		講義	1		○								
	くらしと文学		講義	2	○									
	教育学		講義	2	○									
	体育Ⅰ	*	演習	1	○									
	体育Ⅱ	*	演習	1		○								
	セクシュアリティと看護	☆	講義	1			○							
	医学概論		講義	1		○								
	キャリアマネジメント		講義	1	●									
	健康科学概論		講義	2	●									
	情報リテラシー		演習	1	●									
	データ処理演習	*	演習	1			○							
	統計学		講義	2		●								
	日本国憲法	*	講義	2	○									
	くらしと社会・環境		講義	2	○									
	くらしと経済		講義	2	○									
	くらしと安全・危機管理		講義	2	○									
	異文化理解		講義	1	●									
	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1		●								
	英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1			●							
	英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1				●						
	英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1					●					
	国際言語文化		講義	2	○									
医工薬連携科学遠隔講座		講義	—	◇										
基礎科目必修単位数				12	7	3	1	1	0	0	0	0		
専 門 基 礎 科 目	人間関係論		講義	1	●							↑ 30単位 以上 ○●必修科目27単位 ○●選択科目3単位以上		
	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●									
	感染と免疫		講義	1	●									
	からだと栄養		講義	2		●								
	からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●								
	こころの仕組みと働き		講義	1		●								
	フィジカルエグザミネーション		演習	1		●								
	からだどくすりの働き		講義	2			●							
	病気の成り立ち		講義	2			●							
	病気の診断		講義	2			●							
	病気の治療		講義	2				●						
	食生活論		講義	1					○					
	遺伝とカウンセリング	☆	講義	1						○				
リプロダクションと看護	☆	演習	1			○								

区分	授業科目	助★ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								卒業要件 単位数 127 単位以上
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	社会理解		演習	1	●								30 単位以上 ○●必修科目27単位 ○●選択科目3単位以上 ↓
			講義	2		●							
			講義	2			●						
			講義	1					○				
			講義	1					○				
			講義	1					●				
	異文化理解		演習	1					●				
			演習	1							●		
			演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数				27	5	8	8	2	3	0	1	0	
専門科目	看護の基礎		講義	2	●								↑ 78 単位以上 ○●必修科目72単位 ○●選択科目6単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展実習2単位が含まれていること)
			演習	3		●							
			実習	1		●							
			演習	1			●						
			演習	2			●						
			実習	2			●						
			講義	1								●	
			講義	1							●		
	生活支援		講義	2			●						
			演習	1				●					
			演習	1					●				
			実習	2						●			
			実習	2							●		
			講義	2		●							
			演習	1				●					
			演習	1					●				
	療養		講義	2		●							
			演習	1				●					
			演習	1					●				
			実習	2						●			
			演習	1			●						
			演習	1				●					
			実習	2						●			
			実習	1							●		
	支援助		講義	2			●						
			演習	1				●					
			演習	1					●				
		実習	2						●				
		講義	2			●							
		演習	1				●						
		演習	1					●					
		実習	2						●				

区分	授業科目	助 ★ 保 ◎ 養 ★	講義 演習 実習	単 位 数	開講期 (必修● 選択○ 自由◇)								単 位 数	卒 業 要 件	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年				
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
専 門 科 目	地 域 支 援		講義	2			●						127 単位 以上 78 単位 以上 ○●必修科目72単位 以上 ○●選択科目6単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上と看護実践発展実習2単位が含まれていること) ↓		
			演習	1				●							
			演習	1						●					
			実習	2							●				
			講義	2			●								
			講義	2				●							
			◎講義	1						○					
			実習	1								●			
	発 展 科 目	看護 科 実 践		演習	1							○			
				演習	1							○			
				演習	1							○			
				演習	1							○			
	科 保 健 目 師	公衆衛生 看護学	◎	講義	2						○				
			◎	演習	1							◇			
			◎	実習	4							◇			
	助 産 師 科 目	助産学	★	講義	2				○						
			★	演習	1					○					
			★	演習	3							◇			
			★	講義	1							◇			
			★	実習	8							◇			
	統 合	家族看護学 チーム医療論 看護実践と理論の統合 看護研究法 卒業演習 災害看護論 広域統合看護学実習 看護実践発展実習		講義	2						●				
				講義	1									●	
				演習	2							●			
				講義	1									●	
				演習	3									●	
				講義	1						○				
				実習	2									●	
				実習	2									○	
専門科目必修単位数				72	2	8	14	11	8	19	4	6			
必修単位数合計				111	14	19	23	14	11	19	5	6			
履修登録できる単位数の上限				166	50	42	39	35							
☆助産師国家試験受験資格必修科目 ◎保健師国家試験受験資格必修科目 *養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目															

2) 各領域の教育活動

領域名	基礎看護学領域
担当教員	道重文子 小林道太郎 土肥美子 川北敬美 二宮早苗 原明子 穂迫真由美（非常勤教員）
担当科目	くらしの中の倫理、哲学、キャリアマネジメント、国際言語文化、情報リテラシー、原著講読、看護学概論、日常生活援助技術、看護アセスメント、治療過程に伴う援助技術、看護管理、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、卒業演習、広域統合看護学実習
現状の説明	<p>くらしの中の倫理、哲学では、基本的な事項を講義した。国際言語文化では、ドイツ語の入門と歴史・文化について論じた。原著講読では英語論文を読んだ。情報リテラシーは前半の大学で学ぶことに関する導入と PC 操作を担当した。</p> <p>看護学概論では、看護の歴史、看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」の関係性、看護活動の場、看護倫理等について教授した。看護アセスメントでは、腰椎椎間板ヘルニアの事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した。日常生活援助技術（1年）および治療過程に伴う援助技術（2年）では、附属病院看護部の教育指導者（各演習 1~2名の参加）の協力のもと演習を行った。基礎看護学実習Ⅰでは、附属病院外来、中央診療部、検査部門、病棟において見学実習を行った。6名の教員で指導を行った。基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）では、9月と2月に各1週間、前半・後半に分かれて附属病院8つの病棟において実習を行った。5名の教員で指導を行った。</p> <p>卒業演習では教員1名が2~3名の学生を担当し卒業論文を作成した。12月の発表会では、作成したポスターを用いて発表を行った。広域統合看護学実習では、彩都友絃会病院および東住吉森本病院の緩和ケア病棟にて、第二東和会病院では地域包括ケアおよび回復期リハ病棟にて実習を行った。実習終了後に各病院の特徴をふまえた事例を設定し OSCE を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>くらしの中の倫理、哲学、国際言語文化では、関連事項への学生の関心を喚起することができた。原著講読では英語論文を読むための基礎ができた。技術演習では、看護部の指導者の参加により学生の取り組みが熱心になった。広域看護学実習終了後の OSCE により、学生自らの臨床技術の習得度について確認できていた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>基礎看護学実習Ⅱではアセスメント力では個人差がみられた。アセスメントに対する指導内容の充実が必要である。</p>
将来に向けた発展方策・課題	ユニフィケーション体制のもとで教育指導者と共に学生の看護技術習得に尽力する。

領域名	急性期成人看護学領域
担当教員	赤澤千春 寺口佐與子
担当科目	成人看護学概論、急性期成人看護援助論、急性期成人看護学援助方法、急性期成人看護学実習、統合実習、卒業演習、災害看護論
現状の説明	<p>学生たちは1年生時に成人看護概論で成人看護一般の対象者と成人看護の特徴を学ぶ。急性期に関する内容は健康破綻をする対象、それに伴う心理社会的特徴を学び、2年生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の身体的心理社会的な看護問題とその介入について学ぶ。3年生前期に急性期成人看護学援助方法で、これまでの既習の知識を活用し、事例をもとに急性期にある患者(手術を受ける患者)の看護計画を立案し、周術期に沿ってロールプレイ演習を行いながら、具体的な看護介入方法を学ぶ。後期に急性期看護学実習で実際手術を受ける患者を通して、生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案し、実行し、評価するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。4年生の統合実習では1~3年生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て、超急性期看護について学ぶ。また、興味のあるテーマについて卒業演習で取り組み、まとめて論文とし、発表まで実施する。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について、講義、演習、実習と一貫した内容を教授することで、急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象、アセスメント、看護ケアを学ぶことができています。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>1, 2年生で「生命の危機的状況」ということが理解できなければ3年生以降の演習や実習での急性期の看護過程の展開は難しいと感じてしまい、やる気を出さなくなる可能性があるため、根気よく指導する必要がある。</p> <p>演習の看護問題抽出を多角的にとらえることができるように、必要な基礎知識とその応用ができるように指導していく必要がある。</p> <p>実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や、患者入院期間の短縮に伴い、心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ、早期から身体的心理社会的側面を統合することを指導する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>自ら考えるという姿勢を持つことが大事であるので、演習、実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭にに関わり、「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れる。</p>

領域名	慢性期成人看護学領域
担当教員	田中克子 カルデナス暁東 柴田佳純
担当科目	成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論、慢性期成人看護学援助方法、慢性期成人看護学実習、成人保健看護学実習、広域統合看護学実習、卒業演習、異文化看護学入門
現状の説明	<p>「概論」では、援助論、援助方法、実習に関連できるようにライフステージ、健康レベルにおける身体、社会、精神的特徴が理解できるように授業を展開した。</p> <p>「援助論」では、成人期の主な病気の成因・症状・治療と看護援助の関係が理解できるように中間に2回振り返りも行った。「援助方法」では、教員が作成した病気の進行に伴い健康レベルの変化のある事例展開と看護援助方法の演習資料を用い、講義、演習を行った。「領域実習」は代謝・内分泌系、消化器系、呼吸器疾患系、化学療法が主の4つの病棟で対象者とその家族に対する系統的な看護過程の展開を通じて、慢性期看護学の特質を考察できることを重視した実習を展開した。「広域統合実習」は、学生の各自の実習テーマに応じて、大阪医科大学附属病院、三島南病院、高槻赤十字病院（緩和ケア病棟）、徳洲会沖永良部島病院で行った。「卒業演習」は、教員が2～4名の学生を受け持ち、学生がテーマに応じて文献検索の論文を作成した。「成人保健看護学実習」は、地域に住む様々な健康レベルの人々とその家族に対する看護援助を学ぶことを目的に、外来部門やフィールドワークを中心に主体的に実習の展開を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>独自に作成した臨地実習でよく体験することを前提とした事例の演習資料に基づき、学習課題、講義、実技演習、実習と体系化したことは学習を創意工夫し、深める上で効果があったと考える。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「援助論」「援助方法」は、他の領域より先行しているため病気の理解が十分ではないが、再試験対象者は、援助論は約5%、援助方法は約13%であった。また、「実習」は、学生個々の学習の進度と学習の到達度に対応して指導を行うことも必要である。特に、体験を通じて学ぶことが多いので、受け持ち患者の選定や学習の個々の能力、指導体制に関して今後も工夫が必要と考える。倫理的課題に関しても理解を深めるようにカンファレンスを充実させていきたい。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>毎回の授業を大事にして、関連知識・技術を統合的に活用して、病気をもつ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め、その特質を理解できるように科目間、学習課題間を系統的に計画する。特に実技試験に関しては授業以外に、教員が積極的に指導する時間を設けたことが効果的であったと考える。今後、学生の体験を増やすような演習・実習展開方法の工夫が必要である。事例の倫理的課題、意思決定に関しても理解を深め、自己の意見が言えるようにカンファレンスなどで積極的に取り上げていきたい。</p>

領域名	老年看護学
担当教員	久保田正和 樋上容子 上山ゆりか
担当科目	老年看護学概論、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学援助論、老年看護学援助方法、老年保健看護学実習、老年看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	<p>「老年看護学概論」では、老年期を健やかにその人らしく生きることを健康と生活の視点から支援する老年看護の基盤を講義した。「老年看護学実習Ⅰ」は今年度より2回生後期に1単位の实習として導入した。老人福祉センターや通所介護・通所リハビリテーションを利用する様々な健康レベルにある高齢者と接し、コミュニケーションを図る中で老年期の発達の特徴や健康維持・向上を目指した看護援助への理解を深めた。「老年看護学援助論」では、老年期の基礎的な知識及び援助の根拠、看護過程の特徴について論じた。「老年看護学援助方法」では、実技演習に加え、事例を用い看護過程の展開を教授し、個別学習・グループ学習によって理解を深めた。「老年保健看護学実習」では、通所介護、及び介護予防事業にて教員や臨地実習指導者の指導のもと安全に実習を進めることができた。「老年看護学実習」では、介護老人保健施設において、受け持ち高齢者の看護展開をし、カンファレンスにて高齢者理解を深めた。「看護実践と理論の統合」では、実習事前に事例アセスメント演習と日常生活援助技術を確認した。事後に各実習での個々学びをグループディスカッションすることで、学びが充実した。「広域統合看護学実習」は、介護老人保健施設で実習をし、学生が立案した実習計画のもと主体的に実習を進めることができた。「卒業演習」では、学生の関心のあるテーマにそって計画的にすすめ、事例研究や文献研究などを行い、卒業論文としてまとめ、学内発表を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>老年看護学実習Ⅰを組み入れたことで、学生からは高齢者と接する機会を得、高齢者観が豊かになったと評価を得た。講義・演習では、実習体験から得た経験を基にしたグループディスカッションが行えていた。卒業演習、広域統合看護学実習では実習計画・研究計画の作成指導を行い、主体的な学習につながった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>実習現場で実際の高齢者から情報を収集していくことや、アセスメントすることに細やかな指導を要する学生も少なくない。次年度は附属病院での実習に変わるため、より健康状態に課題のある対象者の看護展開が必要となる。授業では事例の情報整理や分析・解釈、アセスメントの統合や個別性ある計画立案により重点を置き、授業と実習のつながりを意識した教育内容へと工夫していく。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>2018年度より2回生から実習を追加している。2019年度からはその経験を踏まえた高齢者の事例アセスメント、附属病院での老年期の患者の看護実習を指導していく。附属病院での実習では新体制となるため、実習指導者と学生フォローアップ体制について密に検討し、効果的な実習となるよう調整を図る。</p>

領域名	小児看護学領域
担当教員	泊祐子 山崎歩
担当科目	小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学援助方法、家族看護学、小児看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習（小児）、卒業演習
現状の説明	<p>「小児看護学概論」は、学生に子どもへの興味を引き出すため小児と法律および生活習慣の獲得の 2 項目に数年前より反転授業の要素を取り入れ実施している。子どもを自らの体験を通して実感するために院内保育室の見学を継続している。「小児看護学援助論」では、小児の解剖学的特徴を踏まえつつ視聴覚教材を用いながら子どもがイメージできる講義を実施した。「小児看護学援助方法」では、症状別看護をもとに疾患看護を展開し、学生相互に主体的に技術学習できる演習方法を初めて展開した。「家族看護学」では、家族アセスメントを深めるためにグループワークを用いて事例討議をした。「小児看護学実習」では、小児病棟と NIUC 病棟の 2 か所を使用しての実習の 2 年目となる。「看護実践と理論の統合」の事前演習では、各々の病棟の特徴に合わせた内容を厳正した。NICU の学生には小児の反応の特徴を実感してもらうために外来実習での経験を引き出し意識づけるように試みた。またに事後演習では学びの特徴を共有した。「病院での実習後に小中学校・特別支援学校での実習を行い、小児期に特有の健康障害がある子どもへの健康管理の実際について学び、学校における看護の意義を確認できた。「広域統合看護学実習（小児）」では、高度医療施設、急性期医療施設、障害児医療施設の 3 施設で実習を行い、小児と家族への支援とチーム医療の実際とともに看護マネジメントの視点から全体を見られる学びとした。実習後は、実習施設指導者を招いて実習施設ごとに発表会を実施した。「卒業演習」では、7 人の学生が小児看護学での関心からテーマを絞り、テーマに応じた文献選択、分析、論文執筆、発表の研究プロセスを踏み各自が文献研究に取り組んだ。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>「広域統合看護学実習」では、看護マネジメントやチーム医療に視野を広げられるように、師長業務やチームリーダーへのシャドーイングを実施した。その結果、学生は連携やチーム内での情報共有の方法等の学びに言及できた。「小児看護学実習」では小児病棟と NICU 病棟の学びの共有により視野を広げられた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「小児看護学援助方法」において実施した学生相互に学ぶ技術演習では、事後の提出レポートで個々学生の学びはみられたものの、今後、3 年後期の臨地実習の際の技術実施、到達状況も併せ演習内容、技術項目を評価していく必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>学生との双方向授業などアクティブラーニングを取り入れて授業展開を行っているので、その効果等を評価する必要がある。</p>

領域名	母性看護学・助産学領域
担当教員	佐々木綾子 竹明美 近澤幸
担当科目	セクシュアリティと看護、リプロダクションと看護、母性看護学概論、母性看護学援助論、母性看護学援助方法、母性看護学実習、助産学概論、助産診断・技術学 I、助産診断・技術学 II、助産管理、助産学実習、看護実践と理論の統合、卒業演習、広域統合看護学実習
現状の説明	<p>講義科目では、新たに 10 月から講義室 3 に設置されたパソコンシステムを活用し双方向授業を行った。最新の国家試験出題傾向を分析し、教育に活用した。</p> <p>演習科目では、実践的演習をめざし、オリジナルのアセスメントツール、実践的模擬事例、教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした。また、助産診断・技術学 II では、臨床指導者の協力による演習、シミュレーション教育を行った。</p> <p>実習では、実習施設との連携、教育設備の充実、教材整備・教材開発、医学部・附属病院看護部との連携により、基本的な看護実践能力の育成を行った。</p> <p>周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み、施設と地域の切れ目ない支援の視点を強化するため、広域統合看護学実習では出張助産所および新たに子育て総合支援センターでの実習を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>前年度の学生の授業評価をふまえ、講義・演習内容の改善を行うことができた。学生による授業評価では、概ね良い評価が得られた。予習課題、授業、復習課題による教育は、学生の専門知識・技術の習得に効果があったと考える。また、パソコンシステムによる双方向授業では、スライド資料や映像の見やすさ、小テスト機能による理解度の把握、チャットによるタイムリーな感想の把握など効果がみられた。次年度も積極的に活用していく。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>再試験者がみられた科目があった。次年度も、小テストや練習問題、予習課題、反転授業、復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。アクティブラーニングによる教育をさらに推進する。</p> <p>助産学実習において 9 月までに 6 名全員が分娩介助実習を終了することができた。実習受け入れ施設は 2019 年度と同様の施設であるが、引き続き新規実習施設の開拓が課題である。また周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み、施設と地域の切れ目ない支援の視点について強化できたが次年度も継続していく。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>視覚支援教材などの積極的活用、学生の習得状況を丁寧に確認し、看護実践力を育成する。各学生が、確実な知識・技術習得に加え、生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する。</p> <p>助産師基礎教育に関する国内外の状況をふまえ、大学教育における助産学教育のあり方について検討する。</p>

領域名	精神看護学領域
担当教員	荒木孝治 元村直靖 瓜崎貴雄 山内彩香
担当科目	人間関係論、精神看護学概論、精神看護学援助論、精神看護学援助方法、精神看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習、卒業演習、心理学、大阪を学ぶ、健康科学概論、医療倫理学、医療カウンセリング、リスクマネジメント
現状の説明	<p>(荒木、元村、瓜崎、山内)：「概論」では精神看護の基本概念と精神医療の歴史と法制度、リエゾン精神看護などを、「援助論」では統合失調症や気分障害といった精神疾患とその看護に関する基本的知識を、「援助方法」では統合失調症やうつ病などの事例を用い、セルフケア理論に基づいて看護過程を展開して、精神疾患患者への看護の方法を教授した。卒業演習では、計9名を担当し、学生の関心に沿って文献研究を指導した。精神看護学実習では附属病院精神神経科病棟または単科精神科病院である新阿武山病院にて、看護過程を展開し、基礎的実践能力を養った。広域統合看護学実習では、新阿武山病院のデイケア・作業療法室・訪問看護室と、大阪精神医療センター（閉鎖病棟、児童思春期病棟のいずれか）で看護管理や包括医療の視座を盛り込んで実習を展開した。「心理学」では、主に正常な人間の心理の理解を深めるとともに、認知心理学、人間性心理学、臨床心理学など多彩な心理学の領域を教授した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>(荒木、瓜崎、山内)：講義では視聴覚教材を活用したことで、学生は精神疾患や看護の実際をよりイメージできた。毎回感想文を提出させ、次の講義でフィードバックしたことで、学習意欲を高めることができた。演習ではグループワークにおける成果物を全体にフィードバックすることで、学生は多様な視点を共有できた。実習では事例を深く検討できるように、個別面談を行い、既習の精神看護学関連科目の学習内容と照らしつつ指導した結果、学生は患者に関心を向け続け、患者の生活歴や強みを踏まえた看護の具体策を見出すことができた。(元村)：内容を十分検討した結果、量的にも十分となった。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>(荒木、瓜崎、山内)：演習では引き続きグループワークでの学びが深まるように課題設定や運営方法を検討する必要がある。広域統合看護学実習では特に、学生の学習課題を日々の実習計画に反映できるように指導を工夫する必要がある。</p> <p>(元村)：講義資料の提示の仕方について検討する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>(荒木、元村、瓜崎、山内)：精神障がい者の地域生活を支えることについて、学生は実習の経験を通し、その課題の重要性に気づいていたが、更に具体的な援助方法を考えることができるように授業内容や方法を工夫していく必要がある。</p>

領域名	在宅看護学領域
担当教員	真継和子 佐野かおり 大橋尚弘
担当科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論、在宅看護学援助方法、在宅看護学実習、看護実践と理論の統合、広域統合看護学実習（在宅）、卒業演習、家族看護学、医療カウンセリング
現状の説明	<p>「在宅看護学概論」は在宅看護の特徴と支援を必要とする人びとと社会資源の理解を目的に視聴覚教材を用い展開するとともに、訪問看護師による講義を行った。「在宅看護学援助論」では、既習学習を確認しながら応用へと結びつけ、生活支援、在宅人工呼吸療法、呼吸理学療法に関する演習内容を増やし、事例を活用しながら在宅という場の特徴を踏まえた基本的な実践力の育成をめざした。</p> <p>「在宅看護学援助方法」では、講義及びグループワーク、事例（3事例）、ロールプレイングを用いて実践的な展開を試み、さらにアセスメント力を深めるため個別指導を強化した。また、在宅人工呼吸器、在宅酸素療法などの体験学習を取り入れた。「在宅看護学実習」では、アセスメント力、体験の振り返りからの思考力、実践力の強化、社会資源の理解をめざした実習展開とした。また、基本的な看護技術が未熟な学生や、不安や緊張などから支援を必要とする学生には訪問先まで同行し、目標到達にむけた支援体制をとった。「看護実践と理論の統合」では、実習前のロールプレイングによる技術確認と事例を用いた社会資源の理解を深めた。実習後は、3つのテーマに沿ったワールドディスカッション方式によるグループワークを実施し、学生間の学びの共有を図った。</p> <p>「広域統合看護学実習（在宅）」は8名が選択し、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、病院など学生の関心テーマに沿った場所での実習を行った。また、うち2名は高知県本山町での地域医療実習に参加し、医学生や薬学生とともに多職種協働について理解を深めた。「卒業演習」は学生の関心に沿って面接調査研究、事例研究、文献研究を行い論文としてまとめた。学内発表は母性看護学領域との合同開催を実施した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>訪問看護師（卒業生）による講義は学生の関心と学習への意欲を感化した。個別指導によるアセスメントの強化は確実に学生の実践力に結びついており、実習に活かされている。社会資源の理解もすすんでいる。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>3年次実習までの講義・演習だけでは在宅看護のイメージができてにくい。教授内容の精選、評価視点の明示による学生との共通理解が必要である。支援を必要とする学生への対応など実習での指導体制の強化が必要である。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>他領域との学習内容の重なりを整理し、教授内容の精選を図る。レポート等の評価基準を明示、効果的なアクティブラーニングの活用により学生の積極的な学習参加を促していく。長期的には、在宅看護への関心が高められるよう早期体験学習を含む講義、演習、実習の展開方法を検討していく。</p>

領域名	公衆衛生看護学領域
担当教員	吉田久美子 土手友太郎 草野恵美子 仲下祐美子 山埜ふみ恵 福岡美佐子（非常勤）
担当科目	必修：保健福祉医療概論、統計学、公衆衛生学・疫学、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看護学実習Ⅰ、卒業演習 選択科目：くらしと社会・環境、公衆衛生看護学活動方法、公衆衛生看護学管理論、ヘルスプロモーション論、公衆衛生看護学演習、公衆衛生看護学実習Ⅱ
現状の説明	<p>「公衆衛生看護学概論」では公衆衛生看護活動をイメージできるよう視聴覚教材の使用や保健センターの保健師を招き講義を展開した。毎回レスポンスペーパーを用い学生の疑問に速やかに回答した。「公衆衛生看護学活動論」では個人・集団・地域を対象とした活動に必要な知識・技術を、演習を取り入れて展開した。</p> <p>「公衆衛生看護学活動方法」では、集団を対象とした健康教育の計画立案、実施、評価を行い、実践能力の向上を目指した。「公衆衛生看護学管理論」では公衆衛生看護活動における PDCA サイクルの理解を深めるため、高槻市の地域診断演習を行った。「ヘルスプロモーション論」ではグループにて保健計画立案の演習を行い、ヘルスプロモーションの理解を深めた。「公衆衛生看護学演習」では、家庭訪問と健康相談のロールプレイで実践力を確認し、実習地の地域診断を行うことで「公衆衛生看護学実習Ⅱ」に向けた自己及びグループの課題を明確にした。「公衆衛生看護学実習Ⅱ」の履修者は 27 名で、6 グループで実習を行った。実習地は守口保健所と門真市、枚方市、大阪市淀川区、兵庫県宍粟市、赤穂市、神河町だった。学生は、保健事業の参加や家庭訪問、健康教育等の実践を展開する中、地域の健康課題と保健師の支援について学んだ。「公衆衛生看護学実習Ⅰ」は学生 85 名が履修した。検疫所や健康安全基盤研究所にて感染症を含めた健康危機管理対策、事業所では労働者の健康支援を学んだ。「卒業演習」は 10 名の学生が選択した。学生は、研究テーマを見つけ論文の作成と発表を行った。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>地域診断は、地域特性を把握する事前課題と実習中の地区踏査や住民へのインタビュー、保健事業への参加や関係機関との連絡会議等へ出席することで健康課題の抽出と保健活動計画の立案までできた。6 カ所の実習指導者は良い評価であった。また、学生は、実習中に体験できる保健事業に積極的に参加することで、様々な年代と健康レベルの方々を対象とする看護活動の展開や健康づくりに理解を深めることができた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>実習指導者と到達目標の共有をはかり、実習内容を厳選する。健康面に配慮を必要とする学生がいるため、事前に学生の健康状況を確認し、安全に実習ができるよう工夫し、実習指導を行う。</p>
将来に向けた発展方策・課題	保健師養成に係る選択科目について科目間を連動させた授業展開が必要。実習前に健康面に配慮のいる学生の把握と対応できる教員配置等の体制づくりを行う。

領域名	看護実践発展領域
担当教員	鈴木久美 池西悦子 津田泰宏 府川晃子 土井智生
担当科目	健康科学概論、病気の診断、病気の治療、がん看護学総論、看護研究法、看護教育、チーム医療論、看護と生体診断法、先端医療に伴う看護技術、緩和ケアと代替・補完療法、看護実践発展実習、広域統合看護学実習、卒業演習
現状の説明	<p>「健康科学概論」はライフスタイル、生き方の選択、健康リスク、社会と環境の4つの視点から、前半に講義、後半にグループ学習の形で授業を行った。「病気の診断・治療Ⅰ、Ⅱ」の講義は、臨床医学の全範囲をほぼ網羅しつつも、中間と最終日に「まとめ」を入れることで広範囲であるが要点を絞れるように工夫した。</p> <p>「がん看護学総論」は、sli.do（アプリ）を活用し、授業料終了後に毎回確認テストを行うなど学生の反応を確認しながら授業を展開する工夫を行った。</p> <p>「看護研究法」は、研究倫理、文献検索、研究計画書等の講義と演習を取り入れて行った。「看護教育」は、カリキュラムの変遷と課題、専門職のキャリア開発・生涯学習等の授業と実践経験の省察演習を展開した。「チーム医療論」、「看護と生体診断法」、「緩和ケアと代替・補完療法」は、講義及びグループワーク、事例を用いた演習で展開し、グループ発表は学生主体の運営で行った。「先端医療に伴う看護技術」では事例をもとに、病態生理の理解や看護の視点でのアセスメントに連動した看護技術演習を取り入れた。「看護実践発展実習」は51名の学生が選択し、重症度やケア度の高い患者を受け持ち、判断力や実践力を強化する実習を行った。</p> <p>「広域統合看護学実習」と「卒業演習」は、12名の学生を受け入れ、学生の関心領域で実習や卒業演習のテーマを決めて取り組み、成果発表会を開催した。</p>
点検評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>概ねグループ学習を用いた授業は学生の主体的な学びを推進できたと考える。事例を活用した授業では学生が役割をもってグループ学習を活性化し、課題発見と解決に向けた学習の促進に繋がっていた。「看護実践発展実習」では、教育センター開催の自己学習プログラムに殆どの学生が参加し、看護技術を練習する積極的な姿勢がみられ、自己課題を改めて意識し、患者・家族や多職種との関わりの中で視野を広げ、看護実践力を高められていた。「広域統合看護学実習」及び「卒業演習」は、学生の関心を尊重し、学生自らが目標を立て、主体的に取り組んでいた。</p> <p>2. 改善すべき事項</p> <p>「病気の診断」、「病気の治療」では、今年度もオムニバス形式のため統一した授業プリントの簡略化はできなかった。範囲が広いため、知識の整理目的で試験前に要点を容易に把握できるような授業を一コマ配置した。昨年度よりはアクティブラーニングを取り入れる方向にしたが、今後も更に工夫を加えていきたい。「がん看護学総論」は、範囲が広く1回の授業内容が密であったため、次年度は内容を精選させて、要点を絞った内容に工夫する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>講義科目は、オムニバスでの展開が多いため、担当教員との連携を密にし、学生が学習目標を達成できるようにすることが望まれる。今後もよりアクティブラーニングを積極的に取り入れた効果的な授業展開となるように努めていく。</p>

6. 大学院教育活動

1) 授業科目一覧

(1)博士前期課程教育研究コース (注) ※：選択科目 ※※：選択必修科目 (隔)：隔年開講

区分	科目 (○数字は単位数)	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健① ※医療科学①	1～2 前(隔) 1～2 前(隔)	以下の①～④を満たし3 4 単位以上
共通専門科目A	看護倫理② 看護教育学② 看護学研究方法論② ※看護現任教育論② 看護理論② ※*看護教育課程論② ※*看護管理学② ※看護哲学②	1 後 1 前 1 前 1～2 前 (隔) 1 前 1 後 1 後 1 後	①共通専門科目A「看護倫理」「看護教育学」「看護学研究方法論」「看護理論」の4科目8単位 ②共通専門科目A「看護学教育課程論」または「看護管理学」のいずれか1科目2単位 ③自領域専門科目から必修科目及び選択科目4科目8単位以上、全領域科目から3科目6単位以上
共通専門科目B	※フィジカルアセスメント論② ※臨床薬理学② ※病態生理学②	1 前 1 後 1 前	④「特別研究」1科目8単位
療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論② ※看護技術開発学特論Ⅰ② ※看護技術開発学特論Ⅱ② ※看護技術開発学演習Ⅰ② ※看護技術開発学演習Ⅱ② ※移植・再生医療看護学特論Ⅰ② ※移植・再生医療看護学特論Ⅱ② ※移植・再生医療看護学演習② ※がん看護学特論Ⅰ② ※がん看護学特論Ⅱ② ※がん看護学援助論Ⅰ② ※がん看護学援助論Ⅱ② ※がん看護学演習Ⅰ② ※がん看護学演習Ⅱ② ※慢性看護学特論Ⅰ② ※慢性看護学特論Ⅱ② ※慢性看護学援助論Ⅰ② ※慢性看護学援助論Ⅱ② ※慢性看護学演習Ⅰ② ※慢性看護学演習Ⅱ② ※精神看護学特論Ⅰ② ※精神看護学特論Ⅱ② ※精神看護アセスメント論② ※精神看護援助論Ⅰ② ※精神看護援助論Ⅱ② ※精神看護学演習Ⅰ② ※精神看護学演習Ⅱ② ※老年看護学特論Ⅰ② ※老年看護学特論Ⅱ② ※老年看護学演習②	1 前 1 前 1 前 1 通年 1 後～2 前 1 前 1 後 1 後～2 前 1 前 1 後 1 前 1 後 1 前～1 後 1 後～2 前 1 前 1 前 1 前 1 後 1 後 2 前 1 前 1 後 1 前 1 後 1 前 1 後 2 前 1 前 1 後 1 後～2 前	

区分	科目 (○数字は単位数)	配当年次	単位取得要件
地域 家族 支援 看護学	家族看護学特論②	1前	
	※周産期看護論②	1前	
	※※母性看護学特論②	1前	
	※ウィメンズヘルス看護論②	1前	
	※※周産期看護援助論Ⅰ②	1前	
	※※周産期看護援助論Ⅱ②	1後	
	※周産期看護演習Ⅰ②	1後～2前	
	※周産期看護演習Ⅱ②	1後～2前	
	※※小児看護学特論②	1前	
	※小児と病気②	1後	
	※発達障害看護論②	1～2前 (隔)	
	※※小児看護アセスメント論②	1後	
	※※小児看護学演習②	1後～2前	
	※※地域看護学特論②	1前 1後	
	※※地域ケアシステム特論②	1～2前 (隔)	
	※地域母子保健論②	1後～2前	
	※※地域看護学演習②	1前 1後	
※在宅看護学特論Ⅰ②	1後～2前		
※在宅看護学特論Ⅱ②			
※在宅看護学演習②			
特別研究	特別研究⑧	1～2 通年	

(2)博士前期課程高度実践コース

(注) ※：選択科目 ※※：選択必修科目 (隔)：隔年開講

区分	科目 (○数字は単位数)	配当年次	単位取得要件
共通科目	※国際保健① ※医療科学①	1～2(隔) 1～2(隔)	以下の①～④の全て、⑤～⑧のいずれか、および⑨を満たし42単位以上
共通専門科目A	看護倫理② ※看護教育学② 看護学研究方法論② ※※看護現任教育論② 看護理論② ※看護教育課程論② ※※看護管理学② ※看護哲学②	1後 1前 1前 1～2(隔) 1前 1後 1後 1後	
共通専門科目B	フィジカルアセスメント論② 臨床薬理学② 病態生理学②	1前 1後 1前	④①～③を含む14単位以上 ⑤療養生活支援看護学領域選択者のうち慢性看護専門看護師を希望する者は、「慢性看護学特論Ⅰ」「慢性看護学特論Ⅱ」「慢性看護アセスメント論」「慢性看護援助論Ⅰ」「慢性看護援助論Ⅱ」「慢性看護学演習Ⅰ」「慢性看護学演習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅰ」「慢性看護学実習Ⅱ」「慢性看護学実習Ⅲ」の10科目24単位
療養生活支援看護学	慢性看護学特論Ⅰ② 慢性看護学特論Ⅱ② 慢性看護アセスメント論② 慢性看護援助論Ⅰ② 慢性看護援助論Ⅱ② 慢性看護学演習Ⅰ② 慢性看護学演習Ⅱ② 慢性看護学実習Ⅰ② 慢性看護学実習Ⅱ④ 慢性看護学実習Ⅲ④ 精神看護学特論Ⅰ② 精神看護学特論Ⅱ② 精神看護アセスメント論② 精神看護援助論Ⅰ② 精神看護援助論Ⅱ② 精神看護学演習Ⅰ② 精神看護学演習Ⅱ② 精神看護学実習Ⅰ② 精神看護学実習Ⅱ⑥ 精神看護学実習Ⅲ② がん病態治療論② がん看護学特論Ⅰ②	1前 1前 1後 1前 1後 1後 2前 1後 2通年 2通年 1前 1後 1前 1前 1後 1後 2前 1後 2前 2通年 1後 1前	⑥療養生活支援看護学領域選択者のうち精神看護専門看護師を希望する者は、「精神看護学特論Ⅰ」「精神看護学特論Ⅱ」「精神看護アセスメント論」「精神看護援助論Ⅰ」「精神看護援助論Ⅱ」「精神看護学演習Ⅰ」「精神看護学演習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅰ」「精神看護学実習Ⅱ」「精神看護学実習Ⅲ」の10科目24単位 ⑦療養生活支援看護学領域選択者のうちがん看護専門看護師を希望する者は、「がん看護学特論Ⅰ」「がん看護学特論Ⅱ」「がん病態治療論」「がん看護学援助論Ⅰ」「がん看護学援助論Ⅱ」「がん看護学演習Ⅰ」「がん看護学演習Ⅱ」「がん看護学実習Ⅰ」「がん看護学実習Ⅱ」「がん看護学実習Ⅲ」「がん看護学実習Ⅳ」の11科目24単位 ⑧地域家族支援看護学領域選択者のうち母性看護専門看護師を希望する者は、「家族看護学特論」「周産期看護論」「母性看護学特論」「ウィメンズヘルス看護論」「周産期看護援助論Ⅰ」

	がん看護学特論Ⅱ② がん看護学援助論Ⅰ② がん看護学援助論Ⅱ② がん看護学演習Ⅰ② がん看護学演習Ⅱ② がん看護学実習Ⅰ② がん看護学実習Ⅱ② がん看護学実習Ⅲ③ がん看護学実習Ⅳ③	1 後 1 前 1 後 1 前～1 後 1 後～2 前 1 後 1 後 2 通年 2 通年	「周産期看護援助論Ⅱ」「周産期看護演習Ⅰ」 「周産期看護演習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅰ」「周 産期看護実習Ⅱ」「周産期看護実習Ⅲ」の11科 目 26 単位 ⑨地域家族支援看護学領域選択者のうち小児看護 専門看護師を希望する者は、「家族看護学特 論」「小児看護学特論」「小児と病気」「周産期 看護論」「発達障害看護論」「小児看護アッセ メント論」「地域母子保健論」「小児看護学演習」 「小児看護学実習Ⅰ」「小児看護学実習Ⅱ」「小 児看護学実習Ⅲ」の11科目 26 単位 ⑩「課題研究」1科目 4 単位
--	---	---	--

領域	科目 (○数字は単位数)	配当年次	単位取得要件
地域家族看護学	家族看護学特論②	1 前	
	周産期看護論②	1 前	
	母性看護学特論②	1 前	
	ウィメンズヘルス看護論②	1 前	
	周産期看護援助論Ⅰ②	1 前	
	周産期看護援助論Ⅱ②	1 後	
	周産期看護演習Ⅰ②	1 後～2 前	
	周産期看護演習Ⅱ②	1 後～2 前	
	周産期看護実習Ⅰ②	1 後	
	周産期看護実習Ⅱ④	2 前	
	周産期看護実習Ⅲ④	2 通年	
	小児看護学特論②	1 前	
	小児と病気②	1 後	
	発達障害看護論②	1～2(隔)	
	小児看護学アセスメント論②	1 後	
	小児看護学演習②	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅰ②	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅱ⑥	1 後～2 前	
	小児看護学実習Ⅲ②	2 通年	
	地域母子保健論②	1～2(隔)	
特別研究	課題研究④	1 後～2 後	

(3)博士後期課程

(※：選択科目 ※*：選択必修科目 (隔)：隔年開講)

区分	科目 (○数字は単位数)	配当年次	単位取得要件	
基盤科目	看護科学研究論② ※看護学研究法応用論 (保健統計) ① ※看護学研究法応用論 (実験法) ① 看護学教育開発論② ※看護学教育演習① 英語論文演習① ※異文化看護論①	1 前 1 後 1～2 後 (隔) 1 前 1～2 後 2 前 1～2 前 (隔)	以下①～④をすべて満たし、合計17単位以上 ① 基盤科目「看護科学研究論」「看護学教育開発論」「英語論文演習」の3科目5単位 ② 基盤科目「看護学研究法応用論 (保健統計)」「看護学研究法応用論 (実験法)」「看護学教育演習」「異文化看護論」の中から1科目1単位以上	
専門科目	療養生活支援看護学	※療養生活支援看護学特論② ※療養生活支援看護学演習①	1 後 2 通	③ 専門科目「療養生活支援看護学特論」「療養生活支援看護学演習」または「地域家族支援看護学特論」「地域家族支援看護学演習」の2科目3単位
	地域家族支援看護学	※地域家族支援看護学特論② ※地域家族支援看護学演習①	1 後 2 通	
特別研究	特別研究⑧	1～3 通	④ 「特別研究」1科目8単位	

2) 博士課程修了者学位論文タイトル一覧

(1) 博士後期課程

氏名	専攻分野	学位論文タイトル
横田 香世	慢性看護学	糖尿病患者の足病変予防を促す「セルフフットケア教育プログラム」の効果の検証
肥後 雅子	移植・再生医療看護学	表情分析ソフトウェアを用いた無反応性覚醒症候群（Unresponsive Wakefulness Syndrome, UWS）患者の聴覚刺激に対する表情変化の定量的解析
山中 政子	がん看護学	通院中の成人患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの開発に関する研究
中北 裕子	小児看護学	医療的ケアが必要な児をもつ母親が家族の暮らしを維持するための生活調整過程

(2) 博士前期課程

氏名	コース 専攻分野	学位論文タイトル
堀部 光宏	教育研究コース 移植・再生医療看護学	生体肝移植後の高齢レシピエントの自己管理行動の現状と自己管理行動に影響する要因
椎野 育恵	教育研究コース がん看護学	初発乳がん患者が自分の子どもに病気を伝えるプロセス
下之内 暢子	高度実践コース 慢性看護学	有職糖尿病患者への医療チームによる「初回フットケア指導」の有効性の検討
水島 道代	高度実践コース 小児看護学	1型糖尿病患児の療養管理の自立に向けて親が行う初期指導
山本 優子	高度実践コース 慢性看護学	呼吸困難を持つ間質性肺炎合併の膠原病外来患者に対する個別的な平地歩行指導の有効性の検討
船越 泉美	教育研究コース 母性看護学	第1子の出産に立ち会った育児中の父親の経験

(学位記番号順)

V. 研究活動

1. 研究実績

1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

平成 30 年度 看護学部 競争的研究資金等の採択状況

研究活動		新規採択件数	継続件数	合計金額(円)	
科学研究費助成事業	基盤研究 (B)	代表	0	0	
		分担	0	4	650,000
	基盤研究 (C)	代表	3	10	11,475,254
		分担	1	8	902,648
	挑戦的萌芽研究	代表	0	1	400,000
		分担	0	0	0
	若手研究 (B)・若手研究	代表	3	3	5,100,000
	研究活動スタート支援	代表	0	1	300,000
	厚生労働科学研究費補助金	代表	0	0	0
		分担	0	0	0
省庁・独立行政法人等の競争的資金 (科研費を除く)	代表	0	0	0	
	分担	0	0	0	
財団等による研究助成		0	0	0	
企業等による共同研究、研究助成		0	0	0	
総合計				18,827,902	

平成 30 年度科学研究費助成事業交付一覧

(研究代表者)

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付額(円)
基盤研究(C)	池西 悦子	臨床看護師の批判的リフレクシヨンスキルを強化する ICT 教育プログラムの開発と評価	588,972
基盤研究(C)	鈴木 久美	再発乳がん患者のがんとともに生きる力を支える心理社会的看護介入プログラムの開発	900,000
基盤研究(C)	道重 文子	口腔ケアに関する看護技術教育プログラムの開発	500,000
基盤研究(C)	川北 敬美	交代制勤務が困難な短時間勤務者の活用プログラムの開発	500,000
基盤研究(C)	二宮 早苗	骨盤底筋群に作用する姿勢の探索—指導しやすい新骨盤筋トレーニングの確立に向けて	1,986,282
基盤研究(C)	津田 泰宏	デジタルコンテンツを利用した新たな C 型肝炎患者の掘り起こしの試み	200,000
基盤研究(C)	土肥 美子	看護系大学に所属する若手教員の能力形成・向上に資する教育支援の検討	1,000,000
基盤研究(C)	カルデナス 暁東	SLE 女性患者の BF の獲得を促進するアピアランスケアプログラムの構築	800,000
基盤研究(C)	久保田 正和	fNIRS を用いた認知症看護ケアの検証と適切な認知リハビリテーションの探索	1,000,000
基盤研究(C)	荒木 孝治	精神科病院における統合失調症患者のターミナルケアの推進に向けた方略の開発	500,000
基盤研究(C)	小林 道太郎	倫理的看護実践を可能にする組織の条件に関する質的・理論的研究	700,000
基盤研究(C)	泊 祐子	学生の思考力強化を図る小児看護学実習の課題構造の明確化と教育方略の開発	1,000,000
基盤研究(C)	佐々木 綾子	産婦の安全と夫も含めた満足な分娩のための 3 次元分娩アニメーションソフト開発と評価	1,800,000
挑戦的萌芽研究	赤澤 千春	高齢で繊維化している下肢リンパ浮腫を改善するために効果的な圧迫療法の開発	400,000
若手研究(B)	府川 晃子	分子標的薬を内服する高齢肺癌患者のアドヒアランスを高める看護プログラムの開発	500,000
若手研究(B)	上山 ゆりか	介護老人保健施設での看取り援助の質向上を目指す教育プログラム開発	900,000
若手研究(B)	佐野 かおり	高齢人工股関節術後患者の転倒予防支援プログラムの開発	500,000

若手研究	瓜崎 貴雄	三次救急の場における看護師の自殺未遂患者に対する態度形成の影響要因の探索と検証	1,000,000
若手研究	大橋 尚弘	腎移植ドナー、レシピエントの潜在的支援ニーズを抽出するスクリーニングツールの開発	1,000,000
若手研究	山埜 ふみ恵	都市部の男性高齢者における介護予防活動を活用した地域のつながり強化に関する研究	1,200,000
研究活動スタート支援	山崎 歩	小児期発症1型糖尿病患者の性差を踏まえた思春期・青年期支援プログラムの開発	300,000

(研究分担者)

研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
基盤研究(B)	草野 恵美子	地域と個の「強み」を活かす公衆衛生看護技術の統合と教授法の開発	100,000
基盤研究(B)	小林 道太郎	医療現象学の新たな構築	300,000
基盤研究(B)	鈴木 久美	AYA 世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護者育成プログラムの開発	200,000
基盤研究(B)	佐野 かおり	医療・看護情報を共有化する『THA ケアネットポータル』の構築と質評価	50,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	地区組織のコミュニティ・エンパワメントモデルの適用とハンドブックの作成	50,000
基盤研究(C)	泊 祐子	在宅重症心身障害児の社会化を図る親教育支援プログラムの開発	70,000
基盤研究(C)	真継 和子	在宅重症心身障害児の社会化を図る親教育支援プログラムの開発	30,000
基盤研究(C)	泊 祐子	家族も共有できる在宅重症心身障害児における体調アセスメントツールの開発および評価	150,000
基盤研究(C)	土肥 美子	教育指導者育成に向けたバウンダリーレスな臨床学習環境デザイン支援プログラムの開発	40,000
基盤研究(C)	鈴木 久美	成人外来がん患者へのがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの開発	100,000
基盤研究(C)	二宮 早苗	リアルタイム MR を用いたバイオフィードバックによる骨盤底筋トレーニングの効果検証	162,648
基盤研究(C)	鈴木 久美	喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感を高める看護実践モデルの開発	100,000
基盤研究(C)	赤澤 千春	ストレス対処能力の低い新人看護師に対するストレス対処能力向上のための支援の開発	200,000

平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
該当なし。			

平成 30 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究分担者	研究課題名	助成金額(円)
該当なし。			

平成 30 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
該当なし。			

平成 30 年度企業等による共同研究、研究助成一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
(株)ワコール 国立大学法人筑波大学	二宮 早苗	女性の腹圧性尿失禁に対する骨盤底サポート下着の効果検証	242,000

2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

佐々木綾子	<p>横尾京子, 常盤洋子, 岡永真由美, 井村真澄, <u>佐々木綾子</u>他 (2019). 助産師基礎教育新テキスト 第6巻, 第5章親子の絆とアタッチメントの形成, 横尾京子(編), 100-120, 日本看護協会出版会, 東京.</p> <p>定方美恵子, 関島香代子, <u>佐々木綾子</u>他 (2019). ナーシンググラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他(編), 2章1~4, 6~11, 13~16節, メディカ出版, 大阪.</p>
鈴木久美	<p><u>鈴木久美</u> (2018). 性・生殖機能障害のある成人への援助, 林直子, 佐藤まゆみ編, 成人看護学, 265-284, 放送大学教育振興会, 東京.</p> <p><u>鈴木久美</u> (2019). なぜ消化器疾患について学ぶのか, 津田泰宏, 鈴木久美編, 看護学テキスト NiCE 病態・治療論 [4] 消化器疾患, 3, 南江堂, 東京.</p> <p>林直子, <u>鈴木久美</u>, 酒井郁子他編 (2019). 看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護学概論 社会に生き世代につなぐ成人の健康を支える改訂第3版, 62-66, 67-77, 91-99, 124-129, 144-149, 238-248, 南江堂, 東京.</p> <p><u>鈴木久美</u>, 簗持知恵子, 佐藤直美編 (2019). 看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護学 病気とともに生きる人を支える 改訂第3版, 2-40, 42-48, 49-51, 53-54, 72-73, 76-79, 84-87, 87-89, 南江堂, 東京.</p>
津田泰宏	<p><u>津田泰宏</u> (2019). 序章 なぜ消化器疾患について学ぶのか, 津田泰宏, 鈴木久美編, 看護学テキスト NiCE 病態・治療論 [4] 消化器疾患, 2, 南江堂, 東京.</p> <p><u>津田泰宏</u> (2019). 第I章 消化器の機能と障害, 津田泰宏, 鈴木久美編, 看護学テキスト NiCE 病態・治療論 [4] 消化器疾患, 5-42, 南江堂, 東京.</p> <p><u>津田泰宏</u> (2019). 第II章 消化器疾患の診断・治療, 津田泰宏, 鈴木久美編, 看護学テキスト NiCE 病態・治療論 [4] 消化器疾患, 43-103, 113-124, 南江堂, 東京.</p> <p><u>津田泰宏</u> (2019). 第III章 消化器疾患 各論, 津田泰宏, 鈴木久美編, 看護学テキスト NiCE 病態・治療論 [4] 消化器疾患, 125-267, 308-313, 南江堂, 東京.</p>
府川晃子	<p><u>府川晃子</u>, 鈴木久美他 (2019). 看護学テキスト NiCE 成人看護学慢性期看護 (改定第3版), 鈴木久美他(編), 第III章 2-A「セルフマネジメントの方法」, 第V章 6「全身性エリテマトーデス」血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助 全身性エリテマトーデス, 南江堂, in press.</p> <p><u>府川晃子</u>, 鈴木久美他 (2019). 看護学テキスト NiCE がん看護, 鈴木久美他(編), 第III章 B「治療期のがん患者の特徴と援助のポイント」, 南江堂, in press.</p>
竹明美	<p>平田修司, <u>竹明美</u> (2019). 8. 母子感染症, 助産師基礎教育新テキスト2019年度版 第7巻, 遠藤俊子(編), 118-128, 日本看護協会出版会, 東京.</p>

	定方美恵子, 関島香代子, <u>竹明美</u> 他 (2019). 2章5, 12節, 4章1節3項, ナーシング・グラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他(編), 77-81, 104-106, 181-182, メディカ出版, 大阪.
近澤幸	佐々木綾子, <u>近澤幸</u> (2019). 2章17節帝王切開時のケア, 荒木奈緒, 他(編), ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術, 122-128, メディカ出版, 大阪.

研究活動/【論文】

<p>赤澤千春</p>	<p>Yoshikawa, Y., Uchida, J., <u>Akazawa, C.</u>, et al (2018). Associations between physical and psychosocial factors and health-related quality of life in women gave birth after a kidney transplant, International Journal of Women's Health, 2018: 10, 299-307.</p> <p>Komazawa, N., Ohashi, T., Take, A., <u>Akazawa, C.</u> (7人中7番目)(2018). Interprofessional simulation for rapid response system should developed with step by step process to multiple learning purposes, American Journal of Emergency Medicine, 36,2121-2122.</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚広, 竹明美, 赤澤千春 (7人中7番目), 他3名 (2018). 多職種連携とシミュレーション教育法の意義～医看薬融合教育へ向けて～, 大阪医科大学雑誌, 77巻, 3号, 46-51.</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚広, 竹明美, 赤澤千春 (7人中7番目), 他3名 (2018). 多職種連携で行う院内急変対応教育の試行経験, 新しい医学教育の流れ, 18(2), 83-86.</p> <p>今井理香, <u>赤澤千春</u>, 寺口佐與子 (2018). 造血幹細胞移植を受けた患者の退院後の療養生活支援に関する文献検討, 日本移植・再生医療看護学会誌, 13(1), 12-19.</p> <p>萩原邦子, 今西誠子, 習田明裕, <u>赤澤千春</u>, 他2名 (2018). 臓器移植看護が直面する倫理的場面とその対応, 日本臨床腎移植学会雑誌, 6 (1), 1～5.</p> <p>森本喜代美, <u>赤澤千春</u> (2018). 訪問看護師による在宅高齢者への続発性リンパ浮腫ケアの実際, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第9巻, 115-122.</p> <p><u>赤澤千春</u>, 寺口佐與子, 荒川千登世, 福田里砂 (2018). リンパ浮腫看護外来の活動報告, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第9巻, 47-51.</p> <p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, 竹明美, 赤澤千春 (7人中7番目), 他3名 (2018). 医学医療問題に関する Problem-based learning and discussion(PBLD)を用いた多職種連携教育の試み, 新しい医学教育の流れ, 18(3), 147-151.</p>
<p>荒木孝治</p>	<p>瓜崎貴雄, 小松尚司, 大谷和世, <u>荒木孝治</u> (6人中6番目), 他2名 (2018). 民間精神科病院における統合失調症患者の生活習慣病への看護を活性化するための方策, 精神科看護, 45 (11), 60-67.</p>
<p>池西悦子</p>	<p><u>池西悦子</u>, 飛田伊都子 (2018). 医療安全に関する院内教育の実態, 日本看護研究学会雑誌, 41(5), 995-1003.</p> <p><u>池西悦子</u>, 真継和子, 山下哲平, 田村由美 (2019). 看護学生と臨床看護師の学習スタイルと批判的思考態度の特徴および関連性, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 27-36.</p> <p>萩尾直美, <u>池西悦子</u> (2018). 非正規雇用看護師の学習ニーズの実態と個人要因との関係, 日本看護学会論文集看護管理, 48, 337-340.</p> <p>井上弥生, <u>池西悦子</u> (2018). PNSにおける先輩看護師の思考の特徴;新人看護</p>

	<p>師と行う移乗場面のリフレクションから，日本看護学会論文集看護管理，48，301-304.</p> <p>久下景子，<u>池西悦子</u>（2018）．チーム医療における看護職の専門性発揮の検討；気管切開管理における実践内容と役割期待の関係から，日本看護学会論文集看護管理，48，117-120.</p> <p>竹原三千代，<u>池西悦子</u>（2018）．臨床看護師における診療の補助業務の実態と看護管理上の問題，日本看護学会論文集看護管理，48，15-18.</p>
佐々木綾子	<p><u>佐々木綾子</u>，竹明美（2018）．回旋異常分娩の診断と対応に関する文献検討，日本母子看護学会誌，12（2），65-74.</p> <p>近澤幸，<u>佐々木綾子</u>（2018）．新生児および乳児の入浴時の事故に関する文献検討，日本母子看護学会誌，12（2），83-90.</p> <p>但馬まり子，川添香，中西敬子，<u>佐々木綾子</u>（2019）．初産婦の産後3日目から2週間健診までの生活リズム移行期における睡眠状況と疲労感の実態，母性衛生，59（4），646-654.</p> <p>竹明美，近澤幸，<u>佐々木綾子</u>（2019）．分娩介助技術試験をサポートするツールの試行-Microsoft PowerPointのアニメーション機能を活用した模擬産婦サポートツール，大阪医科大学看護研究雑誌，8，89-95.</p>
鈴木久美	<p>Amano, K, <u>Suzuki, K.</u> (2019). The process of life adjustment in patients at onset of glioma who are receiving continuous oral anticancer drug: A qualitative descriptive study, International Journal of Nursing Sciences, in press.</p> <p><u>鈴木久美</u>，府川晃子，山内栄子他（2019）．診断・治療期の再発乳がん患者への看護実践における課題—がん看護の専門看護師および認定看護師の視点から—，大阪医科大学看護研究雑誌，9，37-46.</p> <p>椎野育恵，<u>鈴木久美</u>（2019）．がん患者が病気に関連した事柄を子どもに伝えることに関する文献レビュー，日本がん看護学会誌，33，21-28.</p>
田中克子	<p>カルデナス暁東，<u>田中克子</u>（2019）．日本国内の外来通院の全身性エリテマトーデス成人期患者の生活における困難と自己管理の現状に関する文献検討，大阪医科大学看護研究雑誌，第9巻，65-72.</p>
津田泰宏	<p>Enomoto M, Nishiguchi S, <u>Tsuda Y.</u>, et al. (2017). Sequential therapy involving an early switch from entecavir to pegylated interferon-α in Japanese patients with chronic hepatitis B. Hepatol Res. 2018 Jan 4. doi: 10.1111/hepr.13050.</p>
土手友太郎	<p><u>土手友太郎</u>（2018）．Audience Response System(ARS)の学部教育等への活用の試み，大阪医科大学雑誌，77，1-4.</p>
泊祐子	<p><u>泊祐子</u>（2018）．健康問題の多様化に伴う養護教諭の役割拡大，教育と医学，10.68-78.</p> <p>土井恵子，<u>泊祐子</u>（2018）．文献研究による看護師の捉える重症児を見る視点，大阪医科大学研究雑誌，9，96-101.</p>

	Yuko Nakakita, <u>Yuko Tomari</u> (2018). Lifestyle Adjustment Process to Maintain Family Life for Mothers with Children Who Need Home Medical Care, <i>Health</i> , 10, 1679-1696.
真継和子	池西悦子, <u>真継和子</u> , 山下哲平, 田村由美 (2019). 看護学生と臨床看護師の学習スタイルと批判的思考態度の特徴および関係性, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i> , 9, 27-36.
道重文子	恩幣宏美, 柿沼明日香, <u>道重文子</u> (7人中7番目), 他4名 (2019). 口腔セルフケアの行動変容への介入に関する文献検討, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i> , 9, 52-64. 原明子, 土肥美子, <u>道重文子</u> (2019) (6人中6番目), 他3名 (2019). 看護学士課程4年次における看護実践能力評価の取り組みと課題—大阪医科大学看護学部基礎看護学領域の広域統合看護学実習後にOSCEを活用して—, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i> , 9, 109-114.
瓜崎貴雄	<u>瓜崎貴雄</u> , 小松尚司, 大谷和世, 高瀬智佳子, 矢田部信行, 荒木孝治 (2018). 民間精神科病院における統合失調症患者の生活習慣病への看護を活性化するための方策, <i>精神科看護</i> , 45 (11), 60-67.
カルデナス 暁東	<u>カルデナス暁東</u> , 田中克子 (2019). 日本国内の外来通院の全身性エリテマトーデス成人期患者の生活における困難と自己管理の現状に関する文献検討, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i> , 第9巻, 65-72.
草野恵美子	<u>草野恵美子</u> , 中山貴美子, 鳩野洋子, 合田加代子 (2019). 高齢者による子育て支援に関する研究についての文献検討, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i> , 9, 79-88.
寺口佐與子	赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> , 荒川千登世, 福田里砂 (2018). リンパ浮腫看護外来の活動報告, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i> , 第9巻, 47-51. 今井里香, 赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> (2018). 造血幹細胞移植を受けた患者の退院後の療養生活支援に関する文献検討, <i>日本移植再生委医療看護学会誌</i> , 13巻1号, 12-19.
土肥美子	原明子, <u>土肥美子</u> 他 (6人中2番目) (2019). 看護学士課程4年次における看護実践能力評価の取り組みと課題 - 大阪医科大学看護学部基礎看護学領域の広域統合看護学実習後にOSCEを活用して, <i>大阪医科大学看護研究雑誌</i> , 9, 109-114. 長野弥生, <u>土肥美子</u> 他 (6人中4番目) (2019). 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援の共通性と差異, <i>大阪府立大学看護学雑誌</i> , 25(1) (近刊) 駒澤伸泰, <u>土肥美子</u> 他 (7人中4番目) (2018). 多職種連携とシュミレーション教育法の意義 - 医看薬融合教育へ向けて, <i>大阪医科大学雑誌</i> , 77(3), 46-51. 大橋尚弘, 駒澤伸泰, <u>土肥美子</u> 他 (7人中4番目) (2018). 医学医療問題に対する Problem-based learning and discussion(PBLD)を用いた多職種連携教育の試み, <i>新しい医学教育の流れ</i> , 18(3), 147-151. 駒澤伸泰, <u>土肥美子</u> 他 (7人中4番目) (2018). 多職種連携で行う院内急変対応教

	<p>育の試行経験, 新しい医学教育の流れ, 18(2), 83-86.</p> <p>Komasawa N, <u>Doi Y</u> et.al(7人4番目)(2018). Interprofessional simulation for rapid response system should be developed with step by step process to multiple learning purposes, The American Journal of Emergency Medicine,36(11), 2121-2122.</p>
仲下祐美子	<p><u>仲下祐美子</u>, 河野益美 (2019). 学生の自己評価による地域診断の実践能力に関する検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 102-108.</p>
府川晃子	<p>鈴木久美, <u>府川晃子</u>, 山内栄子 (4人中2番目). 診断・治療期の再発乳がん患者への看護実践における課題ーがん看護の専門看護師及び認定看護師の視点からー. 大阪医科大学看護学研究雑誌, 第9巻 (掲載可)</p> <p>藤田佐和, 大川宣容, 森歩, <u>府川晃子</u> (6人中4番目) (2018). 在宅移行する終末期がん患者のエンパワーメントを支える看護ケア指針の開発, 高知女子大学看護学会誌, 43巻2号, 102-110.</p>
山崎歩	<p><u>山崎歩</u>, 中信利恵子 (2019). 成人期以降に1型糖尿病を発症した有職者患者の療養体験, 大阪医科大学看護学研究雑誌, 9, 123-131.</p> <p><u>山崎歩</u>, 齊藤志織 (2019). 小児看護学臨地実習で実施する個人目標共有カンファレンスがもたらす効果と課題, 日本小児看護学会誌, 28, in printing.</p>
川北敬美	<p><u>川北敬美</u> (2019). 看護師のワーク・ファミリーエンリッチメントに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 73-78.</p> <p>恩幣宏美, 柿沼明日香, 道重文子, <u>川北敬美</u> (7人中4番目) (2019). 口腔セルフケアの行動変容への介入に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 52-64.</p> <p>原明子, 土肥美子, <u>川北敬美</u> (2019). 看護学士課程4年次における看護実践能力評価の取り組みと課題ー大阪医科大学看護学部基礎看護学領域の広域統合看護学実習後にOSCEを活用してー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 109-114.</p>
佐野かおり	<p><u>佐野かおり</u>, 上杉裕子, 後藤公志 (2018). 股関節鏡視下術後3ヵ月における2事例のリハビリテーション実施状況, Hip joint, 44, s42-s46.</p> <p>Yamaguchi A, Goto K, <u>Sano K</u> et al (6人中5番目) (2019). Dose optimization of topical tranexamic acid for primary total hip arthroplasty: A prospective cohort study. Journal of Orthopaedic Science. 24, 275-279.</p>
竹明美	<p>駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>竹明美</u>他 (2018). 多職種連携で行う院内急変対応教育の試行経験, 新しい医学教育の流れ, 18(2), 83-86.</p> <p>佐々木綾子, <u>竹明美</u> (2018). 回旋異常分娩の診断と対応に関する文献検討, 日本母子看護学会誌, 12(2), 65-74.</p> <p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, <u>竹明美</u>他 (2018). 医学医療問題に対する Problem-based learning and discussion(PBLD)を用いた多職種連携教育の試み, 新しい医学教育の流れ, 18(3), 147-151.</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>竹明美</u>他 (2018). 多職種連携とシミュレーション教育法</p>

	<p>の意義 医看薬融合教育へ向けて, 大阪医科大学雑誌, 77(3), 140-145.</p> <p>竹明美, 近澤幸, 佐々木綾子 (2019). 分娩介助技術試験をサポートするツールの試作, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 89-95.</p> <p>Komasawa N, Ohashi T, <u>Take A</u>, et.al (2018). Interprofessional simulation for rapid response system should be developed with step by step process to multiple learning purposes, Am J Emerg Med. 36(11),2121-2122.</p>
二宮早苗	<p>内藤紀代子, 二宮早苗, 岡山久代他 (2018). 磁気共鳴 (MR) 画像を用いた骨盤底筋体操指導用動画の利用の試み. 看護理工学会誌, 5 (2), 127-135.</p> <p>Okayama H, <u>Ninomiya S</u>, Naito K, et.al. (2018). Effects of wearing supportive underwear versus pelvic floor muscle training or no treatment in women with symptoms of stress urinary incontinence: an assessor-blinded randomized control trial. International Urogynecology Journal (in press). DOI: 10.1007/s00192-018-03855-z</p> <p>原明子, 土肥美子, 川北敬美, <u>二宮早苗</u> (6人中4番目), 他2名 (2019). 看護学士課程4年次における看護実践能力評価の取り組みと課題—大阪医科大学看護学部基礎看護学領域の広域統合看護学実習後に OSCE を活用して—. 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 109-114.</p>
樋上容子	<p><u>Higami Y</u>, Yamakawa M, Kang Y, et al. (2019). Prevalence of incontinence among cognitively impaired older residents in long-term care facilities in East Asia: a cross-sectional study. Geriatrics & Gerontology International, in press.</p> <p><u>Higami Y</u>, Yamakawa M, Shigenobu K, et al. (2019). High frequency of getting out of bed in patients with Alzheimer's disease monitored by non-wearable actigraphy. Geriatrics & Gerontology International, 19(2), 130-134.</p> <p>Konttila J, Siira H, Kyngäs H, <u>Higami Y</u> (14人中12番目). (2019). Healthcare professionals' competence in digitalization: a systematic review. Journal of Clinical Nursing, 28(5-6): 745-761.</p>
大橋尚弘	<p>駒澤伸泰, 大橋尚弘, 竹明美 他 (2018). 多職種連携とシミュレーション教育法の意義～医看薬融合教育へ向けて～, 大阪医科大学雑誌, 77(3), 46-51.</p> <p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, 竹明美 他 (2018). 医学医療問題に対する Problem-based learning and discussion(PBLD)を用いた多職種連携教育の試み, 新しい医学教育の流れ, 18(3), 147-151.</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚弘, 竹明美 他 (2018). 多職種連携で行う院内急変対応教育の試行経験, 新しい医学教育の流れ, 18(2), 83-86.</p> <p>Komasawa N, Ohashi T, Take A et.al(2018). Interprofessional simulation for rapid response system should be developed with step by step process to multiple learning purposes., The American Journal of Emergency Medicine,36(11), 2121-2122.</p>

近澤幸	<p>近澤幸, 佐々木綾子 (2019). 新生児および乳児の入浴時の事故に関する文献検討, 日本母子看護学会誌, 12(2), 83-90.</p> <p>佐々木綾子, 竹明美, 近澤幸 (2019). 回旋異常分娩の診断と対応に関する文献検討, 日本母子看護学会誌, 12(2), 65-74.</p> <p>竹明美, 近澤幸, 佐々木綾子 (2019). 分娩介助技術試験をサポートするツールの試作, 大阪医科大学看護研究雑誌, 8, 2019 (印刷中)</p>
原明子	<p>原明子, 土肥美子, 川北敬美他 (2019). 看護学士課程 4 年次における看護実践能力評価の取り組みと課題—大阪医科大学看護学部基礎看護学領域の広域統合看護学実習後に OSCE を活用して—. 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 109-114.</p>
山内彩香	<p>山内彩香 (2019). 中堅看護師が捉える他者からの承認が中堅看護師の認識と実践に及ぼす影響, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 13-26.</p>

研究活動/【学会発表】

<p>赤澤千春</p>	<p><u>Akazawa, C.</u>, Teraguchi, S., Arakawa, C., et al (2018). The influence of weight loss on secondary lower limb lymphedema, 12th Biennia Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery, Cairns.</p> <p>Katsuyama, A., <u>Akazawa, C.</u>, Fukuda, R.(2018). Actual condition and consciousness survey of terminal care at ICU, 12th Biennia Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery, Cairns.</p> <p>Nakamura, S., Kubota, M., <u>Akazawa, C.</u>, et al(2018). Review of literature on toileting assistance in elderly facilities, 2019EFONS, (Singapore)</p> <p>Yoshikawa, Y., Uchida, J., <u>Akazawa, C.</u>, et al (2018).Perspective on Pregnancy Counseling for Kidney Transplant Recipients, TRANSPLANTATION 102 S70,</p> <p>駒澤伸泰, 大橋尚広, 竹明美, <u>赤澤千春</u> (7人中7番目), 他3名 (2018). Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携の試み, 医学教育 49(Suppl.), 214, (高槻)</p> <p>今井理香, <u>赤澤千春</u>, 近藤忠一(2018). 55歳以上で造血幹細胞移植を受けたA氏の退院後の療養生活, 第14回日本移植・再生医療看護学会学術集会, 47, (相模原)</p> <p>吉川有葵, 内田潤次, <u>赤澤千春</u>, 他1名 (2018). 腎移植後に出産した女性レシピエントの子育てにおける苦悩, 移植 53(総会臨時), 462, (東京)</p> <p>箕浦洋子, 西菌貞子, 江川隆子, <u>赤澤千春</u> (7人中5番目), 他3名 (2018). 看護基礎能力の評価指標開発に向けて—看護管理者が育成したい看護師像とは—, 第22回日本看護管理学会学術集会, (神戸)</p> <p>中嶋文子, <u>赤澤千春</u>, 森本喜代美, 東真理, 他1名(2017). 新人看護師のSOCを高める教育プログラムの評価, 日本看護研究学会第43回学術集会, (東海)</p>
<p>荒木孝治</p>	<p><u>荒木孝治</u>, 瓜崎貴雄, 山内彩香, 小松尚司 (2018). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの現状に関する看護師の思い, 日本看護科学学会第38回学術集会, (愛媛)</p> <p>瓜崎貴雄, <u>荒木孝治</u>, 山内彩香, 小松尚司 (2018). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの環境と看護師の態度との関連, 日本看護科学学会第38回学術集会, (愛媛)</p>
<p>池西悦子</p>	<p>古川亜希子, <u>池西悦子</u> (2018). 医療安全管理者を担う看護師のプロフェッションフッドの構造, 日本看護学会第49回学術集会 (看護管理), (仙台)</p> <p>梅原美香, <u>池西悦子</u> (2018). 看護学生が臨地実習で活用した医療安全の既習内容と助言, 日本看護学会第49回学術集会 (看護教育), (広島)</p>
<p>佐々木綾子</p>	<p>近澤幸, 竹明美, <u>佐々木綾子</u> (2018). 新生児および乳児の家庭での事故に関する文献, 第20回日本母性看護学会学術集会, 111, (埼玉)</p> <p>近澤幸, <u>佐々木綾子</u> (2018). 新生児および乳児の家庭での事故に関する文献, 第20回日本母性看護学会学術集会, 82, (埼玉)</p> <p>船越泉美, <u>佐々木綾子</u> (2019). 第1子の出産に立ち会った育児中の父親の思い,</p>

	<p>第4回近畿周産期精神保健研究会, 19. (和歌山)</p> <p>近澤幸, <u>佐々木綾子</u> (2019). 家庭で行われる新生児期および乳児期の入浴についての初産婦の看護職へのニーズに関する調査研究, 第4回近畿周産期精神保健研究会, 19. (和歌山)</p> <p>Sachic Chikazawa, <u>Ayako Sasaki</u>.(2018). Study on danger in neonatal and infant bathing at home, the 22nd EAFONS, (Singapore)</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 竹明美 (2018). 助産師による3Dアニメーションソフトを用いた分娩の進み方の個別的な説明が産婦の分娩体験に及ぼす効果, 第33日本助産学会学術集会, 413, (福岡)</p> <p>竹明美, <u>佐々木綾子</u> (2018). 分娩介助技術演習における産婦役をサポートするツールの試作, 第33日本助産学会学術集会, 598, (福岡)</p>
鈴木久美	<p>Yamauchi, E., <u>Suzuki, K.</u>, Ebisutani, A. (2018). Head and Neck Cancer Survivors' Process of Realizing the Meaningfulness of Their Coping Experience after Total Laryngectomy, International Conference on Cancer Nursing 2018, 34, (Auckland)</p> <p>Shiino, I., <u>Suzuki, K.</u> (2018). Process of How Patients with Newly Diagnosed Breast Cancer Tell Their Children about Their Illness, International Conference on Cancer Nursing 2018, 35, (Auckland)</p> <p><u>Suzuki, K.</u>, Fukawa A., Yamauchi, E., Hayashi, N. (2018). Aspects of Nursing Practice with Recurrence Breast Cancer Patients in the Diagnostic and Therapeutic Stages in Japan, International Conference on Cancer Nursing 2018, 38, (Auckland)</p> <p>Shikata, A., <u>Suzuki, K.</u>, Yamanaka, M. (2018). Experience of Young Patients with Breast Cancer Undergoing Postoperative Endocrine Therapy, International Conference on Cancer Nursing 2018, 39, (Auckland)</p> <p>鈴木久美, 府川晃子, 山内栄子他 (2019). 診断・治療期の再発乳がん患者への看護実践における課題—がん看護の専門看護師および認定看護師の視点から—, 第33回日本がん看護学会学術集会, 185, (福岡)</p> <p>林直子, 中山直子, 森明子, <u>鈴木久美</u> (11人中4番目), 他7名 (2019). 小児がんサバイバーの長期フォローアップと移行支援に関する文献レビュー, 第33回日本がん看護学会学術集会, 194, (福岡)</p> <p>南口陽子, <u>鈴木久美</u>, 府川晃子 (2019). 積極的治療の手立てがないがん患者の療養の場についての意思決定: 概念分析, 第33回日本がん看護学会学術集会, 198, (福岡)</p> <p>高橋奈津子, 林直子, 中山直子, <u>鈴木久美</u> (8人中5番目), 他4名 (2019). 女性乳がん患者の妊孕性温存の意思決定支援における看護師の困難, 第33回日本がん看護学会学術集会, 199, (福岡)</p>
田中克子	<p>カルデナス暁東, <u>田中克子</u> (2019). 全身性エリテマトーデス成人期患者の生活における困難と自己管理の現状に関する文献検討, 日本医学看護学教育学会誌, p42, (米子)</p>

津田泰宏	<p>Nakamura K, Nishikawa T, <u>Tsuda Y</u>, et al. (2018) : Investigation of outcomes of TACE(DEB-TACE) with microspheres at our department, APASL 2018, (Tokyo)</p> <p><u>津田泰宏</u>, 西川知宏, 中村憲, 他 5 名 (2018) . C 型肝炎患者における DAA 治療後のトランスアミナーゼ値異常と予後との関連, 日本肝臓学会総会, (大阪)</p> <p>西川知宏, 中村憲, <u>津田泰宏</u>, 他 8 名 (2018) . 肝臓に対する放射線治療の検討, 日本肝臓学会総会, (大阪)</p> <p>中村憲, 西川知宏, <u>津田泰宏</u>, 他 9 名 (2018) . DEB-TACE 複数回治療症例の効果と肝機能への影響の検討, 消化器病学会総会, (東京)</p> <p>佐々木彰紀, 鈴木優子, <u>津田泰宏</u>, 他 2 名 (2018) . 大阪医科大学ライフサポートクラブの活動紹介と将来の展望, 医学教育学会, (東京)</p> <p>森洋介, 中村憲, <u>津田泰宏</u>, 他 7 名 (2018) . 無治療での自然経過を観察しえた C 型慢性肝炎に発症した肝細胞癌の一例, 日本消化器病学会 第 109 回近畿支部例会, (大阪)</p> <p>佐々木駿, 中村憲, <u>津田泰宏</u>, 他 10 名 (2018) . 高齢の巨大肝細胞癌への DEB-TACE に EMBOSPHERE 併用し著効した一例, 日本消化器病学会 第 109 回近畿支部例会, (大阪)</p> <p><u>津田泰宏</u>, 岡本紀夫, 松井将太, 他 9 名 (2018) . C 型肝炎患者の DAA 治療後のトランスアミナーゼ値異常と肝発癌のリスク, 肝臓病学会東部会, (東京)</p> <p>中村憲, 岡本紀夫, <u>津田泰宏</u>, 他 11 名 (2018) . DEB-TACE 複数回治療症例の効果と肝機能への影響の検討, 肝臓病学会東部会, (東京)</p>
土手友太郎	<p>原明子, 土肥美子, <u>土手友太郎</u> (6 人中 6 番目), 他 3 名 (2018). A 大学看護学部 2 年生の採血演習におけるシミュレーション教育の取り組みと課題 第 14 回日本医学シミュレーション学会学術集会, 124, (高槻)</p>
泊祐子	<p>土井恵子, <u>泊祐子</u> (2018). 看護師が捉える重症児を見る視点に関する文献検討. 日本小児看護学会第 87 回学術集会, 216, (名古屋)</p> <p>田中育美, <u>泊祐子</u> (2018). 先天性食道閉鎖症根治術後の子どもをもつ母親が食事に関して抱える困難と対処, 日本小児看護学会第 28 回学術集会, 114, (名古屋)</p> <p>西田安祐美, <u>泊祐子</u>, 竹村淳子 (2018). 小児がんの子どもへの病気の説明に関する文献研究, 日本小児看護学会第 28 回学術集会, 154, (名古屋)</p> <p>岡田摩理, <u>泊祐子</u>, 遠渡絹代, 他 5 名 (2018). 小児専門訪問看護ステーションが感じる診療報酬上の課題と要望, 日本小児看護学会第 28 回学術集会, 232, (名古屋)</p> <p><u>泊祐子</u>, 遠渡絹代, 市川百香里, 他 6 名 (2018). 診療報酬を獲得できるエビデンスを積み重ねる III—重度障がい児と家族の生活世界を広げる支援プロジェクト—, 学会特別企画, 第 44 回日本看護研究学会学術集会, 356, (熊本)</p> <p>部谷知佐恵, <u>泊祐子</u>, 遠渡絹代, 他 6 名 (2018). 小児訪問看護ステーションの役割機能と運営上の工夫, 第 44 回日本看護研究学会学術集会, 502, (熊本)</p> <p>鈴木美佐, <u>泊祐子</u> (2018). 慢性疾患をもつ「子どもの病気認知」の概念分析,</p>

	<p>第 44 回日本看護研究学会学術集会, 498, (熊本)</p> <p><u>泊祐子</u>, 竹村淳子, 西菌貞子, 他 5 名 (2018). 小児看護学実習における学生が抱きやすい特有な問題状況の構造, 日本看護学教育学学会第 28 回学術集会, 115, (横浜)</p> <p>川島美保, 大西文子, <u>泊祐子</u>, (8 人中 5 番目), 他 5 名 (2018). 小児看護学実習における実践と理論を統合する指導方略, 日本看護学教育学学会第 28 回学術集会, 155, (横浜)</p> <p>岡田摩理, <u>泊祐子</u> (2018). 領域別看護学実習の経験による臨床判断の思考の発達, 日本看護学教育学学会第 28 回学術集会, 177, (横浜)</p> <p><u>泊祐子</u>, 上野理絵, 河原宣子, 他 8 名 (2018). “査読をうまく利用して、よい論文に仕上げよう II”, 理事会企画, 日本家族看護学会第 25 回学術集会, 60, (高知)</p> <p>真継和子, <u>泊祐子</u>, 山崎歩, 他 13 名 (2018). 『あるべき像』を外すと、こうまで変わる家族介入, 家族の役割期待を押しつけていませんか?ー, 交流セッション, 日本家族看護学会第 25 回学術集会, 72, (高知)</p> <p>市川百香里, <u>泊祐子</u>, 岡田摩理, 他 6 名 (2018). 小児を専門とする訪問看護ステーションに特徴的な家族支援, 日本家族看護学会第 25 回学術集会, 183, (高知)</p> <p>濱田裕子, <u>泊祐子</u>, 岡田摩理, 他 6 名 (2018). 小児を専門とする訪問看護ステーションに特徴的な家族支援, 日本家族看護学会第 25 回学術集会, 184, (高知)</p> <p>遠藤絹代, <u>泊祐子</u>, 竹村淳子, 他 5 名 (2018). 訪問看護ステーションの専門的な視点での医療福祉の連携の実際, 日本重症心身障害学会誌, 43 (2), 336. (東京)</p>
真継和子	<p><u>真継和子</u>, <u>泊祐子</u>, 山崎歩, 他 13 名 (2018). 『あるべき像』を外すと、ここまで変わる家族介入：家族の役割期待を押しつけていませんか？見方を変えると、介入が変わる！, 日本家族看護学会第 25 回学術集会, 72, (高知)</p> <p>福寫松代, <u>真継和子</u> (2018). 医療依存度の高い重症心身障害児の就学移行期に母親が行う体調管理のプロセス, 第 23 回日本在宅ケア学会学術集会, 84, (大阪)</p> <p>廣瀬倫子, <u>真継和子</u> (2018). 新卒看護師が訪問看護師として成長するプロセス, 第 23 回日本在宅ケア学会学術集会, 116, (大阪)</p> <p>阪田宏明, <u>真継和子</u> (2018). 在宅療養児を言養育する父親の実態と支援内容に関する文献検討, 日本看護研究学会雑誌, 41 (3), (熊本)</p> <p>佐野かおり, 上杉裕子, <u>真継和子</u>, 他 2 名 (2018). 高齢人工股関節術後患者における 2 事例の退院後に発生した転倒状況, 第 45 回日本股関節学会学術集会, 432, (東京)</p> <p>鈴木富雄, 島田史生, <u>泊祐子</u>, <u>真継和子</u>, 他 4 名 (2018). 高知県多職種連携地域医療実習の試み (第 2 報), 第 50 回日本医学教育学会大会, 179, (東京)</p>
道重文子	<p>Toshimi Kawakita, <u>Fumiko Michishige</u>, Akane Hatanaka, Miyuki Nakamae, Hiromi Onbe (2019). Requests and Problem for Continuing Nurse Education regarding Oral Health Care in hospitals by nurse manager, 22nd</p>

	<p>EAFONS 2019 , (Singapore)</p> <p>Toshimi Kawakita, Yoshiko Doi, <u>Fumiko Michishige</u> (2019). Comparing Tasks of Part-Time Nurses based on Bed Function —Fundamental research for construction practice programs of part-time nurses—, Journal of Nursing&Care, 8, 39. (Osaka)</p> <p>恩幣宏美, <u>道重文子</u>, 川北敬美, 他 2 名 (2018). 院内におけるオーラルマネジメントに関する講習会の特徴, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, (愛媛)</p> <p>畑中あかね, <u>道重文子</u>, 恩幣宏美, 他 2 名 (2018). 口腔ケアに関する看護継続教育における体験学習の実態, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, (松山)</p> <p>西千秋, <u>道重文子</u> (2018). 2 年目看護師に対する集合教育及び分散教育の内容と方法, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, (松山)</p> <p><u>道重文子</u>, 川北敬美, 畑中あかね (2018). 口腔ケアに関する看護継続教育と口腔ケアチームの有無との関連, 日本看護研究学会学術集会, 484, (熊本)</p> <p>西千秋, <u>道重文子</u> (2018). 2 年目看護師の臨床看護教育体制の現状分析, 日本看護研究学会学術集会, 485, (熊本)</p> <p>原明子, 土肥美子, 川北敬美, <u>道重文子</u> (9 人中 9 番目), 他 5 名 (2018). A 大学看護学部 2 年生の静脈血 採血演習におけるシミュレーション教育の取り組みと課題. 第 14 回日本医学シミュレーション学会, 124, (高槻)</p>
元村直靖	<p>原明子, 土肥美子, <u>元村直靖</u> (8 人中 7 番目), 他 5 名 (2018). A 大学看護学部 2 年生の静脈血 採血演習におけるシミュレーション教育の取り組みと課題. 第 14 回日本医学シミュレーション学会, 124, (高槻)</p>
瓜崎貴雄	<p><u>瓜崎貴雄</u>, 荒木孝治, 山内彩香, 小松尚司 (2018). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの環境と看護師の態度との関連: 日本看護科学学会第 38 回学術集会, (愛媛)</p> <p>荒木孝治, <u>瓜崎貴雄</u>, 山内彩香, 小松尚司 (2018). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの現状に関する看護師の思い: 日本看護科学学会第 38 回学術集会, (愛媛)</p>
カルデナス 暁東	<p><u>カルデナス暁東</u>, 田中克子 (2019). 全身性エリテマトーデス成人期患者の生活における困難と自己管理の現状に関する文献検討, 日本医学看護学教育学会 (米子)</p> <p>時野悦実, <u>カルデナス暁東</u> (2018). 術後疼痛管理の実勢と看護師の不安の要因, 第 6 回大阪府看護学会 (大阪)</p> <p>小川真由子, <u>カルデナス暁東</u> (2018). ペアリングナース勤務体制導入後の患者の清潔ケアに与える影響について, 第 6 回大阪府看護学会 (大阪)</p> <p>崔明淑, <u>カルデナス暁東</u> (2018). 救急外来看護師のトリアージに対する不安の軽減を試みてー J T A S 学習会を通してー, 第 6 回大阪府看護学会 (大阪)</p> <p>長尾優子, <u>カルデナス暁東</u> (2018). 産科・内科混合病棟における夜勤業務に関する意識調査, 第 6 回大阪府看護学会 (大阪)</p>
草野恵美子	<p><u>草野恵美子</u>, 山崎嘉久, 小枝達也, 佐藤睦子, 樺山舞, 松浦賢長 (2018). 乳幼児健診に従事する非常勤保健師の研修受講状況および研修ニーズの実態: 第 65 回日本小児保健協会学術集会, 232, (米子)</p>

山崎嘉久, 小枝 達也, 松浦 賢長, 草野 恵美子 (2018). 乳幼児健診に従事する医師に対して自治体が発行している研修等の状況: 第 65 回日本小児保健協会学術集会, 158, (米子)

山埜ふみ恵, 草野恵美子 (2018). 都市部の介護予防活動内におけるソーシャルサポート授受の実態と特徴: 第 23 回日本在宅ケア学会学術集会, 159, (大阪)

中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, 草野恵美子 (2018). 市町村保健師の地域組織活動に対する苦手意識と経験との関連: 日本地域看護学会第 21 回学術集会, 174, (岐阜)

岩本里織, 岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 蔭山正子, 塩見美抄, 草野恵美子 (2018), 行政制度の狭間にある人々を支援するフリー保健師のワザー1 例の分析を通してー: 日本地域看護学会第 21 回学術集会, 177, (岐阜)

岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 時政舞, 蔭山正子, 岩本里織, 塩見美抄, 草野恵美子, ラ ジョウ, 田中美帆, 榊原一恵, 聲高英代 (2018), 地域の強みをもつ公衆衛生看護技術を学ぶシナリオベースのシミュレーション研修プログラムの開発 (1): 日本地域看護学会第 21 回学術集会, 193, (岐阜)

時政舞, 岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 蔭山正子, 岩本里織, 塩見美抄, 草野恵美子, ラ ジョウ, 田中美帆, 榊原一恵, 聲高英代 (2018), 地域の強みをもつ公衆衛生看護技術を学ぶシナリオベースのシミュレーション研修プログラムの開発 (2): 日本地域看護学会第 21 回学術集会, 194, (岐阜)

岡本玲子, 蔭山正子, 時政舞, ラ ジョウ, 田中美帆, 小出恵子, 合田加代子, 岩本里織, 塩見美抄, 草野恵美子, 榊原一恵, 聲高英代 (2018), ワークショップ 3-2 地域を対象とした公衆衛生看護技術を習得するシミュレーション教育法の開発: 日本地域看護学会第 21 回学術集会, 70, (岐阜)

中山貴美子, 鳩野洋子, 金子仁子, 草野恵美子 (2018). 市町村保健師が抱える地域組織活動展開上の課題: 第 77 回日本公衆衛生学会学術集会, 335, (福島)

Kimiko Nakayama, Yoko Hatono, Masako Kaneko, Emiko Kusano (2018). Relationship between weak consciousness concerning Community Organization Activities and Personal Factors of Japanese Public Health Nurses: The 18th Science Council of Asia Conference, 1~6, (Tokyo).

小出恵子, 岡本玲子, 岩本里織, 合田加代子, 塩見美抄, 蔭山正子, 草野恵美子, 榊原一恵 (2019). スクラップアンドビルドに向けたビジョンづくりのための公衆衛生看護技術ー1 事例の分析よりー: 第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 114, (山口)

野海直子, 蔭山正子, 岩本里織, 草野恵美子, 小出恵子, 合田加代子, 榊原一恵, 塩見美抄, 岡本玲子 (2019). 精神障害ピアサポーターの当事者性を活かした保健所保健師の公衆衛生看護技術: 第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 123, (山口)

塩見美抄, 岡本玲子, 岩本里織, 蔭山正子, 合田加代子, 小出恵子, 草野恵美子, 榊原一恵 (2019). 住所不定者の結核治療を支える体制を構築した保健師の公衆衛生看護技術: 第 7 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 149, (山口)

久保田正和	<p>臼井玲華, 山田晃代, <u>久保田正和</u> (2018). 訪問看護を利用する高齢糖尿病療養者の現状～在宅で暮らしたいを叶えるために～: 第 61 回日本糖尿病学会学術集会シンポジウム 18 「地域での包括的管理の課題と展望—糖尿病におけるアートの探求」, (東京)</p> <p>寺崎文生, 梶本宜永, <u>久保田正和</u> (2018). 医工薬連環科学教育における講義用テキスト作成の試み: 第 50 回日本医学教育学会大会, (東京)</p> <p>Nakamura S, <u>Kubota M</u>, Akazawa C (2019). Review of Literature on Toileting Assistance in Elderly Facilities: 22nd EAFONS, (Singapore)</p> <p><u>久保田正和</u> (2019). 携帯型脳活動計測装置を用いた効果的な認知リハビリテーションの探索: 平成 30 年度研究支援センター共同研究プロジェクト報告会, (高槻)</p>
小林道太郎	<p>坂井志織, 細野知子, 菊池麻由美, 福井里美, <u>小林道太郎</u>, 榊原哲也 (2018) 患者/医療者/研究者の境界を外し病いと生きることを問い直す—現代の病い経験を捉える新たな視点の創造, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, 交流集会 20, (松山)</p> <p>Hosono T, Sakai S, <u>Kobayashi M</u>, Kikuchi M (2019). Coexistence of the perceptions of “being sick” and “thriving” in long-term diabetes patients, The 4th International Conference on Prevention and Management of Chronic Conditions: Innovations in Nursing Practice, Education and Research, (Bangkok)</p>
寺口佐與子	<p><u>Teraguchi S</u>, Akazawa, C.(2018).Correlation between weight change and lymphedema onset in obese patients receiving hormonal agents after breast surgery. 12th Biennia Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery. (Cairns).</p> <p>Akazawa C., <u>Teraguchi S</u>., Arakawa C., et al (2018). The influence of weight loss on secondary lower limb lymphedema, 12th Biennia Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery, (Cairns).</p>
土肥美子	<p><u>Yoshiko Doi</u>, Yasuko Hosoda (2019). Nursing Faculty Competencies self-Assessment Scale Development: Investigating The Face Validity And Content Validity of Scale Items Based on Focus Group Interviews, Journal of Nursing & Care, 8, 38. (Osaka)</p> <p>Toshimi Kawakita, <u>Yoshiko Doi</u>, et al(6 人中 2 番目) (2019). Comparing Tasks of Part-Time Nurses based on Bed Function - Fundamental research for construction practice programs of part-time nurses - , Journal of Nursing & Care, 8, 39. (Osaka)</p> <p>Yasuko Hosoda, <u>Yoshiko Doi</u>, et al (6 人中 4 番目)(2019). Effects of experiential learning and nursing competency of educational instructors on the clinical learning environment, 22nd EAFONS 2019. (Singapore)</p> <p>原明子, <u>土肥美子</u>他(6 人中 2 番目)(2018). A 大学看護学部 2 年生の採血演習におけるシミュレーション教育の取り組みと課題, 第 14 回日本医学シミュレーション</p>

	<p>ョン学会学術集会。(高槻)</p> <p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, <u>土肥美子</u>他(7人中4番目)(2018). Problem-based learning and discussion(PBLD)を用いた医学部・看護学部低学年生への多職種連携教育の試み, 第14回日本医学シミュレーション学会学術集会。(高槻)</p> <p>長野弥生,<u>土肥美子</u>他(6人中4番目)(2018). 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援に共通する構成要素, 第38回日本看護科学学会学術集会。(松山)</p> <p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, <u>土肥美子</u>他(7人4番目)(2018). Problem-based learning and discussionを用いた多職種連携の試み, 第50回日本医学教育学会大会。(東京)</p> <p><u>Yoshiko Doi.</u>, Yasuko Hosoda. (2018). Factors related to learning-support competencies of junior faculty at nursing universities. Nursing Education Research Conference 2018, Abstract Book,41. (Washington, DC)</p>
仲下祐美子	<p><u>仲下祐美子</u> (2018). 看護系大学生の地域診断に関する卒業時の実践能力到達度の文献検討—今後の保健師基礎教育への一考察—: 第27回日本健康教育学会学術大会, 89, (姫路)</p> <p><u>Nakashita Y</u> (2018). University Students' Practical Skill Levels Achieved through Basic Public Health Nursing to Develop Policy Implementation Measures: A Literature Review, The 5th CJK Nursing Conference, 136, (Tokyo)</p>
府川晃子	<p>府川晃子, 小山富美子 (2019). 肺がん高齢患者への看護支援を一緒に考えましょう!～分子標的薬内服自己管理支援プログラムの開発～: 第33回日本がん看護学会学術集会 交流集会 20 (福岡)</p> <p>小山富美子, <u>府川晃子</u> (2019). 肺がん高齢患者への看護支援を一緒に考えましょう!～抗がん治療における意思決定援助モデルの開発～: 第33回日本がん看護学会学術集会 交流集会 19 (福岡)</p> <p><u>Fukawa A</u> (2018). Development of Self-Management Support Program for Elderly Patients with Lung Cancer who are Receiving Molecularly Targeted Therapy. International Conference on Cancer Nursing 2018 (ニュージーランド, オークランド)</p> <p>Suzuki K, <u>Fukawa A</u>, Yamauchi E, Hayashi N, Shikata A (2018). Aspects Of Nursing Practice With Recurrence Breast Cancer Patients In The Diagnostic And Therapeutic Stages In Japan. International Conference on Cancer Nursing 2018 (ニュージーランド, オークランド)</p>
山崎歩	<p><u>Yamasaki A</u>(2018).Process of Becoming Capable of Self-Management during Puberty/Young Adulthood in Boys with Type 1 Diabetes Mellitus Beginning Prior to Elementary School. The 6th Asia Pacific Congress of Pediatric Nursing,74,(Bali)</p> <p><u>山崎歩</u> (2018). 青年期以降に1型糖尿病を発症した患者に対する糖尿病看護認定看護師の療養支援の方略, 第6回日本糖尿病療養指導学術集会, 100, (京都)</p> <p>濱田裕子, 泊祐子, 岡田摩理, <u>山崎歩</u> (9人中9番目)(2018). 重症児の家族を</p>

	<p>積極的に支援する訪問看護ステーションが行う特徴的な取り組み, 日本家族看護学会 第 25 回学術集会, 184, (高知)</p> <p>真継和子, 泊祐子, <u>山崎歩</u> 他 (16 人中 3 番目) (2018). 『あるべき像』をはずすと、こうまで変わる家族介入 家族の役割期を押しつけていませんか? 見方を変えると介入が変わる!, 交流集会, 日本家族看護学会第 25 回学術集会, 72, (高知)</p>
川北敬美	<p><u>Toshimi Kawakita</u>, Fumiko Michishige, Akane Hatanaka, Miyuki Nakamae, Hiromi Onbe (2019). Requests and Problem for Continuing Nurse Education regarding Oral Health Care in hospitals by nurse manager, 22nd EAFONS 2019, (Singapore)</p> <p><u>Toshimi Kawakita</u>, Yoshiko Doi, Hifumi Aoyama(2019). Comparing Tasks of Part-Time Nurses based on Bed Function –Fundamental research for construction practice programs of part-time nurses–, Journal of Nursing&Care, 8, 39. (Osaka)</p> <p>恩幣宏美, 道重文子, <u>川北敬美</u> (2018) .院内におけるオーラルマネジメントに関する講習会の特徴, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, (愛媛)</p> <p>畑中あかね, 道重文子, 恩幣宏美, <u>川北敬美</u> (5 人中 4 番目) (2018) .口腔ケアに関する看護継続教育における体験学習の実態, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, (松山)</p> <p>道重文子, <u>川北敬美</u>, 畑中あかね (2018) .口腔ケアに関する看護継続教育と口腔ケアチームの有無との関連, 日本看護研究学会雑誌, 41(3), 484, (熊本)</p>
佐野かおり	<p><u>佐野かおり</u>, 上杉裕子, 真継和子, (他 2 名) (2018). 高齢人工股関節術後患者における 2 事例の退院後に発生した転倒状況. 第 45 回日本股関節学会学術集会 432, (東京).</p> <p>Koji Goto, Yuki Furuya, <u>Kaori Sano</u> (他 2 名) (2018). Long-Term Results Of Total Hip Arthroplasty Using Charnley Elite-Plus Stem And The Effect Of Stem Geometry On Radiographic Distal Femoral Cortical Hypertrophy19th European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology, (Barcelona)</p> <p>鈴木富雄, 島田史生, <u>佐野かおり</u>, (8 名中 5 番目) (2018). 高知県多職種連携地域医療実習の試み (第 2 報), 第 50 回日本医学教育学会大会, 179, (東京)</p>
竹明美	<p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, <u>竹明美</u>, 他 (2018). Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携の試み, 第 47 回日本医学教育学会大会, 医学教育, 49, 214, (新潟)</p> <p>近澤幸, <u>竹明美</u>, 佐々木綾子 (2018). 新生児清拭用ベイスンの湯を適温に維持・管理するための用具の検証, 第 20 回日本母性看護学会学術集会, 111, (埼玉)</p> <p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, <u>竹明美</u>, 他 (2018). Problem-based learning and discussion (PBLD) を用いた医学部・看護学部低学年生への多職種連携教育の試み, 第 14 回日本医学シミュレーション学会学術集会, 51, (高槻)</p> <p>佐々木綾子, <u>竹明美</u> (2019). 助産師による 3D アニメーションソフトを用いた</p>

	<p>分娩の進み方の個別的な説明が産婦の分娩体験に及ぼす効果, 第 33 日本助産学会学術集会, 413, (福岡)</p> <p>竹明美, 佐々木綾子 (2019). 分娩介助技術演習における産婦役をサポートするツールの試作, 第 33 日本助産学会学術集会, 598, (福岡)</p>
二宮早苗	<p>二宮早苗, 杉野菜穂子, 森川茂廣, 他 (2018). 女性の腹圧性尿失禁の改善を目的とした膀胱頸部挙上作用を有する下着の評価者盲検無作為化比較試験. 第 25 回日本排尿機能学会, (名古屋)</p> <p>二宮早苗, 内藤紀代子, 岡山久代 (2018). 骨盤底サポート下着着用時に尿もれパッドを装着した場合の尿失禁改善効果への影響. 第 6 回看護理工学会, (東京)</p> <p>内藤紀代子, 二宮早苗, 森川茂廣, 他 (2018). 骨盤底筋体操時の骨盤底筋群の動きをイラスト動画にした指導用動画の有用性の検討. 第 6 回看護理工学会, (東京)</p> <p>Sanae Ninomiya, Kiyoko Naito, Yoshino Saito, et al. (2019). Relationship between the quality of life and lower urinary tract symptoms in Japanese women. 8th World Congress on Women's Mental Health, (Paris)</p> <p>Kiyoko Naito, Sanae Ninomiya, Yoshino Saito, et al. (2019). Successful pelvic floor muscle exercise using magnetic resonance imaging-based videos to manage urinary incontinence and related depression in a women. 8th World Congress on Women's Mental Health, (Paris)</p>
樋上容子	<p>Ohno A, Higami Y, Yayama S, et al. (2019). Caring for people with dementia with sleep disorders and nocturia in a dementia care unit: case reports. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, (Singapore)</p> <p>Kojiya E, Kabayama M, Huang Y, Higami Y (8 人中 6 番目). (2018). The association of blood pressure level with clinical events in old patients with home medical care. 27th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, (Beijing).</p> <p>樋上容子, 糀屋絵理子, 小玉伽那ら (2018). 在宅療養する認知症高齢者の行動心理症状の実態と関連要因の検討 - OHCARE 研究. 第 21 回加齢医学研究会 (豊中)</p> <p>秋山正子, 樺山 舞, 糀屋絵理子, 樋上容子 (8 人中 6 番目). (2018). 訪問診療受療中の患者の在宅死亡に関連する要因の検討 - 訪問診療記録と訪問看護記録からの多施設レジストリー前向きコホート研究 (OHCARE 研究). 第 29 回日本老年医学会近畿地方会. (大阪)</p>
上山ゆりか	<p>寺崎 文生, 梶本 宜永, 久保田 正和, 上山ゆりか (8 人中 4 番目) (2018) 医工薬連環科学教育における講義用テキスト作成の試み, 第 50 回日本医学教育学会大会 (東京)</p>
大橋尚弘	<p>大橋尚弘, 駒澤伸泰, 竹明美 他 (2018). Problem-based learning and discussion(PBLD)を用いた医学部・看護学部低学年生への多職種連携教育の試み - がん終末期の事例を用いて - :第 14 回日本医学シミュレーション学会, 一般演題 2(口演 5), (高槻)</p>

	大橋尚弘, 駒澤伸泰, 竹明美 他 (2018). Problem-based learning and discussion を用いた多職種連携の試み, 第 50 回日本医学教育学会大会, P-17-3, (東京)
柴田佳純	柴田佳純, 山上優紀, 大村優華, 辻本朋美, 他 (2018). 社会人経験をもつ看護師の職業継続を導く転職経験: 日本看護科学学会第 38 回学術集会, (愛媛) 安吉成瑠美, 大村優華, 山上優紀, 柴田佳純 (7 人中 6 番目) (2018). 卒後 1~3 年目の看護師と看護大学生の月経随伴症状と月経痛の対処法に関する調査: 日本看護科学学会第 38 回学術集会, (愛媛) 増田裕香, 山上優紀, 大村優華, 柴田佳純 (9 人中 6 番目) (2018), 社会活動に参加している高齢者の下部尿路機能の実態~頻尿・残尿感・尿もれ・尿量・残尿量に着目して~: 日本看護科学学会第 38 回学術集会, (愛媛) Masuda Y, Moriwaki F, Miyamae T, <u>Shibata K</u> , (9 of 12) (2019). Change in the Intravesical Urine Volume in Postoperative Patients with Indwelling Urinary Catheter: 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), January 17-18, (Singapore) Yasuyoshi N, Omura Y, Yamagami Y, <u>Shibata K</u> , (5 of 7) (2019). Association between mental health and ovulation state examined using an ovulation test kit: 22nd East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS), January 17-18, (Singapore)
近澤幸	近澤幸, 竹明美, 佐々木綾子 (2018). 新生児清拭用ベイスンの湯を適温に維持・管理するための用具の検証: 第 20 回日本母性看護学会学術集会, 111, (埼玉) 近澤幸, 佐々木綾子 (2018). 家庭で行われる新生児期および乳児期の沐浴・入浴についての初産婦・経産婦の困りごとに関する調査研究: 第 20 回日本母性看護学会学術集会, 82, (埼玉) <u>Sachi Chikazawa</u> , Ayako Sasaki(2019). A study on danger in neonatal and infant bathing at home: 22nd EAFONS 2019, (Singapore) 近澤幸, 佐々木綾子 (2019). 家庭で行われる新生児期および乳児期の入浴についての初産婦の看護職へのニーズに関する調査研究: 第 4 回近畿周産期精神保健研究会, 19, (和歌山)
原明子	原明子, 土肥美子, 川北敬美, 他 (2018). A 大学看護学部 2 年生の静脈血 採血演習におけるシミュレーション教育の取り組みと課題. 第 14 回日本医学シミュレーション学会, 124, (高槻)
山内彩香	荒木孝治, 瓜崎貴雄, 山内彩香, 小松尚司 (2018). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの現状に関する看護師の思い: 日本看護科学学会第 38 回学術集会, (愛媛) 瓜崎貴雄, 荒木孝治, 山内彩香, 小松尚司 (2018). 精神科病院における統合失調症患者に対するターミナルケアの環境と看護師の態度との関連: 日本看護科学学会第 38 回学術集会, (愛媛)
山埜ふみ恵	山埜ふみ恵, 草野恵美子 (2018). 都市部の介護予防活動内におけるソーシャルサポート授受の実態と特徴: 第 23 回日本在宅ケア学会学術集会, 159, (大阪)

研究活動/【その他】

池西悦子	<p>池西悦子 (2018). 学び直しのリフレクション リフレクションの基本を再確認しよう, <i>Nursing BUSINESS</i>、メディカ出版, 4, 8-11.</p> <p>池西悦子 (2018). 学び直しのリフレクション リフレクションで陥りやすい落とし穴と、大切なポイント, <i>Nursing BUSINESS</i>、メディカ出版. 4, 12-18.</p> <p>池西悦子, 山下哲平, 真継和子, 田村由美. 臨床看護師の批判的リフレクションスキルを強化する ICT (Information and Communication Technology:情報通信技術) 教育プログラムの開発と評価. 基盤(C), 2015-2018 年度, 4,940 千円</p>
泊祐子	<p>泊祐子 (2018). 発達段階・病状別にわかる！小児看護学実習ガイド, <i>プチナース</i>, 8, 23-40.</p>
真継和子	<p>真継和子 (2018). 公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団 2017 年度 (後期) 指定公募「市民への集い開催への助成」報告書, 1-54, http://www.zaitakuiryoyuumizaidan.com/main/result.php?year=2017&type=2#40311-54.</p>
草野恵美子	<p>平成 30 年度日本公衆衛生看護学会学術奨励賞 (優秀論文部門) : 小出恵子, 岡本玲子, 草野恵美子, 岩本里織, 福川京子</p>
土肥美子	<p>Yasuko Hosoda, <u>Yoshiko Doi</u>, et al (6 人中 4 番目)(2019). Effects of experiential learning and nursing competency of educational instructors on the clinical learning environment, 22nd EAFONS 2019. (Singapore)</p> <p>Awards will be given for the 1st, 2nd and 3rd place winners. The winners will be announced at the closing ceremony of the conference.</p>
府川晃子	<p>2018 General Poster Award, International Conference on Cancer Nursing 2018 (ニュージーランド, オークランド: 2018. 09)</p>
竹明美	<p>平成 30 年度大阪医科大学研究拠点育成奨励助成 : 研究課題名「シミュレーション環境を活用した多職種連携教育システムの構築～医看薬融合教育を中心に～」(代表: 駒澤伸泰)</p>
樋上容子	<p>樋上容子. (2018). 特集 国際学会で発表しようーその研究が世界をつなぐー. 英語での発表という挑戦を後押ししてくれたもの. <i>看護研究</i>. 51 (6). 537-541.</p>

VI. 社会活動

社会活動

赤澤千春	日本移植・再生医療看護学会 理事長 同 編集委員 日本看護研究学会 査読委員 日本教育看護学会 査読委員 Journal of Clinical Nursing 査読委員
荒木孝治	日本精神保健看護学会誌 専任査読委員 日本移植・再生医療看護学会誌 専任査読委員 日本看護研究学会 評議員 日本看護研究学会 編集委員 日本看護研究学会誌 専任査読委員 大阪精神医療センター 治験審査委員会 外部委員 大阪精神医療センター 臨床研究倫理審査委員会 外部委員 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画委員 PAS セルフケアセラピィ看護学会 役員 PAS セルフケアセラピィ看護学会 学会誌編集・研究促進委員会 委員長
池西悦子	日本看護学教育学会専任査読者 日本看護科学学会員 日本看護研究学会員 看護管理学会員 医療の質・安全学会員 医療安全実践教育研究会世話人 岐阜県立看護大学大学院, 非常勤講師, 看護管理論. 2018.8.18. 滋慶医療科学大学院大学, 非常勤講師, 看護キャリアマネジメント論. 2018.8.25. 兵庫県看護教員養成課程講師「キャリアマネジメント」2018.5.15, 17, 21. 兵庫県看護実習指導者講習会講師「リフレクション」2018.10.4. 兵庫県看護学校協議会中堅看護教員講習会講師「リフレクション」2018.8.7. 大阪府看護協会看護職員研修講師「キャリアマネジメント」2018.9.13. 京都府看護実習指導者講習会講師「リフレクション」2018.11.11. 京都私立病院協会中堅看護管理者講習会講師「リフレクション」2018.9.25. 京都私立病院協会看護部長会講師「リフレクション」2018.8.20. 広島県看護協会看護研修講師「リフレクション」2018.12.3. 愛知県実習指導者講習会講師「リフレクション」2019.1.17. ベルランド看護大学校実習指導者研修会講師「リフレクション」2018.12.13. 倉敷看護専門学校実習指導者講習会講師「リフレクション」2018.12.1.
佐々木綾子	【査読】 佐々木綾子, 大阪医科大学看護研究雑誌, 8, 2018 佐々木綾子, 大阪医科大学雑誌, 77 (3), 2018 【セミナー担当】

	<p>佐々木綾子：大阪府看護協会，2018年度研修 みんなで子育て応援講演会「ママたちが非常事態！？」非常事態のしくみ、非常事態を防ぐためのコツ」，ナーシングアート大阪，2018</p> <p>佐々木綾子：大阪府看護協会，2018年度研修，後輩教育を実施するための成人学習プロセスの基本事項，ナーシングアート大阪，2018.7.3</p> <p>佐々木綾子：高槻地区周産期地域連携の会研修会「ママたちが非常事態にしないために知っておきたいこと」，高槻保健センター，2018.8.30.</p> <p>佐々木綾子：大阪府助産師会 平成30年度産後ケアエキスパート助産師認定講習会「脳科学から見た産後の母親の特徴と支援のあり方」，大阪府助産師会館，2018.10.27.</p> <p>佐々木綾子：2018年度福井県講演会「児童虐待率連続日本一の大阪は明日の福井かもしれない～福井のママとパパたちを“非常事態”にしないため、周産期医療と地域の現場ができる切れ目ない支援～」，福井県国際会館，2019.1.10.</p> <p>佐々木綾子：平成30年度高槻市こんにちは赤ちゃん事業訪問員研修会「生後1～4ヶ月の赤ちゃんのケアについて」，高槻市率子育て総合支援センター，2019.2.19.</p> <p>佐々木綾子：福井愛育病院看護研究発表会講評，2017.12.15 【ワークショップ司会】</p> <p>佐々木綾子：「高槻における周産期メンタルヘルスの取り組み報告」，高槻市総合育児支援センター，2018.10.11.</p> <p>日本母性看護学会，会計理事</p> <p>高槻地区周産期地域連携の会での活動（副委員長、定例会出席、セミナー企画・運営・評価）</p> <p>日本看護研究学会第45回学術集会企画・運営委員</p>
鈴木久美	<p>日本がん看護学会代議員・理事</p> <p>日本看護科学学会代議員</p> <p>日本慢性看護学会評議員</p> <p>日本がん看護学会誌専任査読委員</p> <p>日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員</p> <p>愛知県立大学大学院非常勤講師</p> <p>岐阜県立看護大学大学院非常勤講師</p> <p>乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師</p> <p>認定看護師 実行委員会委員・認定委員会委員</p> <p>厚生労働省 保健師助産師看護師試験委員</p> <p>兵庫県立大学大学院看護学研究科博士論文審査副査</p> <p>公益財団法人大阪対がん協会 平成30年度がん研究助成奨励金選考委員</p> <p>医療法人協和会卒後2年目研修 看護研究 講師</p> <p>第38回日本看護科学学会学術集会 一般演題座長</p> <p>第33回日本がん看護学会学術集会 教育セミナー座長</p>

津田泰宏	<p>津田泰宏 (2018) : 本学における漢方教育の現状と看護学生の漢方薬に対する認識, 第 11 回看護学系漢方教育研究会, (京都)</p> <p>第 53 回 近畿肝癌懇話会 一般演題座長</p> <p>【各種委員】</p> <p>日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医</p> <p>日本消化器病学会専門医、近畿支部評議員</p> <p>日本肝臓学会認定専門医、西部会評議委員、指導医</p> <p>米国免疫学会会員</p> <p>米国肝臓学会会員</p> <p>大阪医科大学附属病院肝疾患支援センター センター長</p>
土手友太郎	<p>高槻市都市開発・高槻市ホテル等建築・高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員</p> <p>健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員</p> <p>厚生労働省医員 (関西空港検疫所・大阪検疫所)</p> <p>高槻市役所産業医</p>
泊祐子	<p>日本家族看護学会,理事,編集委員会委員長</p> <p>日本看護研究学会将来構想委員会看保連 WG 委員</p> <p>日本看護研究学会専任査読者</p> <p>日本看護科学学会代議員</p> <p>日本看護学教育学学会,評議員</p> <p>日本看護学教育学学会,専任査読員</p> <p>日本小児保健協会,専任査読委員</p> <p>日本小児看護学会評議員, 学術・研究推進委員会委員</p> <p>日本看護系大学協議会 看護学教育質向上委員会委員</p> <p>和歌山県立医科大学大学院看護学研究科非常勤講師「家族看護学特論」</p> <p>甲南女子大学大学院看護学研究科非常勤講師「家族看護学特論」</p> <p>日本看護研究学会第 44 回学術集会教育講演座長</p>
真継和子	<p>第 45 回日本看護研究学会学術集会 運営・企画委員</p> <p>日本看護研究学会近畿・北陸地方会 世話人</p> <p>日本看護研究学会近畿・北陸地方会看護研究継続セミナー コーディネーター</p> <p>日本家族看護学会編集委員会 編集委員</p> <p>日本看護学教育学学会 専任査読委員</p> <p>和歌山県立医科大学大学院看護学研究科 非常勤講師</p> <p>四条畷学園大学看護学部 非常勤講師</p> <p>京都私立病院協会中間管理職研修 看護倫理 講師</p> <p>大阪府訪問看護ステーション協会研修会 事例研究 講師</p> <p>大阪府看護協会実習指導者講習会 在宅看護論実習 (講義) 講師</p> <p>社会医療法人愛仁会高槻病院看護部 看護研究 講師</p>
道重文子	<p>日本私立看護系大学協議会理事</p> <p>日本口腔ケア学会評議員</p>

	<p>日本看護診断学会評議員 日本看護研究学会評議員 日本看護研究学会専任査読委員，編集委員 日本看護技術学会査読委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会継続セミナー委員 大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル，講師，「看護管理実践計画書作成」，2018 京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル，講師，「グループマネジメント」，2018</p>
元村直靖	<p>日本トラウマティックストレス学会会長 日本精神神経学会会員 日本保健医療行動科学会監事 日本神経心理学会評議員 日本高次脳機能障害評議員 日本認知療法学会会員 日本認知療法・認知行動療法会員 神戸 2019 年第 42 回日本高次脳機能障害学会 座長 多文化間メンタルヘルス研究会（京都） 「トラウマとそのケア」 講師</p>
吉田久美子	<p>日本看護医療学会評議委員 日本看護医療学会査読委員 滋賀県彦根市要保護児童対策協議会 副会長 滋賀県近江八幡市用保護児童対策協議会 会長 愛知県東海市妊産婦・子育て包括支援事業およびまちづくりアドバイザー 社団法人大阪府看護協会教育委員会 地域包括ケア部会委員 社団法人大阪府看護協会保健師職能委員 滋賀県彦根市健康推進課 保健師研修会 スーパーバイザー 「ハイリス久母子 事例検討会」4 回 平成 30 年度 大阪市保健師プリセプター研修会 講師 平成 30 年度 彦根市要保護児童対策協議会代表者会議 平成 30 年度 東海市妊産婦・子育て包括支援事業実施検討会議 3 回 平成 30 年度 東海市講演会 「地域での子育て、親育ちを考える」 平成 30 年度 東海市保健師研修会 講師「保健市活動の楽しさー地域づくり」 平成 30 年度 高槻市保健センター 保健師研修会 講師 「事例検討の方法」</p>
瓜崎貴雄	<p>日本精神科看護協会大阪府支部 看護研究発表会 評価（査読）委員 大阪府看護協会 救急看護認定看護師教育課程「救急患者と家族の心理・社会的アセスメント」 非常勤講師 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画委員 日本心理教育・家族教室ネットワーク第 22 回研究集会 実行委員 大阪精神医学研究所新阿武山病院 実習指導者研修 講師</p>

<p>カルデナス 暁東</p>	<p>市立柏原病院看護研究講師 留日中国人生命科学協会理事 広島大学大学院，非常勤講師，「在日中国人母親が日本人の夫および家族に期待する支援」，2018.12.6. 日本看護研究学会第 45 回学術集会企画・運営委員</p>
<p>草野恵美子</p>	<p>日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」査読委員 日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員 日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」査読委員 日本地域看護学会第 22 回学術集会査読委員 厚生労働省主催：平成 30 年度母子保健指導者養成研修会，講師，「子育て世代包括支援センター」における妊産婦等の継続的な状況の把握と支援プラン策定についての研修（講義②子育て世代包括支援センター展開のために～事業展開～）（2018 年 10 月 9 日） 高槻市平成 30 年度第 1 回母子健診従事者スキルアップ研修，講師，「乳幼児健診における多職種連携を活かした寄り添う支援～乳幼児健診の意義と多職種連携によるカンファレンス～」（2018 年 11 月 14 日） 高槻市平成 30 年度第 2 回母子健診従事者スキルアップ研修，講師，「乳幼児健診における問診・保健指導について考える～寄り添う支援と多職種連携の視点～」（2018 年 12 月 25 日） 大阪市鶴見区保健福祉センター，研究指導協力 大阪市中央区保健福祉センター，研究指導協力 日本看護研究学会第 45 回学術集会企画・運営委員</p>
<p>久保田正和</p>	<p>久保田正和（2019）.「医工薬連環科学講義」現状報告：第 14 回関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学三大学医工薬連環科学教育研究機構シンポジウム，（高槻） 高槻市介護認定審査会委員 糖尿病スキルアップセミナー世話人 京都大学医学部人間健康科学科非常勤講師 はくほう会医療専門学校非常勤講師 平成 30 年度第 1 回高槻市地域包括ケア推進会議委員，2018 年 11 月 15 日（高槻） 平成 30 年度第 2 回高槻市地域包括ケア推進会議委員，2019 年 3 月 25 日（高槻） 日本看護研究学会第 45 回学術集会企画・運営委員 たかつきサステナビリティ事業に関する委員会委員 認知症専門職人材育成プロジェクト委員会委員</p>
<p>小林道太郎</p>	<p>第 4 回臨床実践の現象学会 大会長 小林道太郎（2018），現象学から実践へ，第 4 回臨床実践の現象学会 大会長講演，（高槻）</p>

	臨床実践の現象学会 事務局 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画委員 日本看護倫理学会 査読委員 小林道太郎 (2018), 精神科に通院する A さんへのインタビューより, 生き生き研究会第 1 回公開研究会, (高槻)
寺口佐與子	日本移植・再生医療看護学会 理事 同 査読委員、選挙管理委員 第 45 回日本看護研究学会学術集会 企画委員、事務局 京都橘大学看護学部 非常勤講師「学校保健」
土肥美子	藍野大学大学院看護学研究科看護教育論 非常勤講師 公益社団法人大阪府看護協会大阪府専任教員養成講習会看護教育評価論 講師
仲下祐美子	大阪府開発審査会委員 大阪市開発審査会委員 大阪市介護認定審査会委員 第 27 回日本健康教育学会学術大会実行委員 日本看護研究学会第 45 回学術集会企画・運営委員
府川晃子	2018 年度 神戸市看護大学 がん看護インテンシブコース講師「第 3 回 がん治療期の高齢患者へのケア」
山崎歩	北摂四医師会 糖尿病フォーラム世話人 日本糖尿病教育・看護学会誌 編集委員会専任査読者
川北敬美	京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル「グループマネジメント」 ／演習ファシリテーター
佐野かおり	日本運動器看護学会運動器看護実践の質向上委員 日本運動器看護学会 2018 年度地区研修会 講師 第 45 回日本看護研究学会 企画・運営委員 第 20 回日本運動器看護学会学術集会 企画委員 大阪医科大学在宅看護研究会開催
竹明美	第 45 回日本看護研究学会 企画・運営委員 (会場係) 第 14 回日本医学シミュレーション学会 一般演題コメンテーター
樋上容子	大阪府在宅療養期における多職種連携のあり方作業部会 委員(大阪府福祉部高齢介護室介護支援課) 池田市豊能町能勢町合議体介護認定審査会 審査員 大阪電気通信大学医療福祉工学部 非常勤講師
上山ゆりか	社会福祉法人成光苑 第 13 回研究発表会審査員 2019, 2,23 (大阪) 日本看護研究学会第 45 回学術集会 企画・運営委員
大橋尚弘	【委員】 ・大阪医科大学看護学部 学生生活支援センター委員 ・日本看護研究学会第 43 回学術集会 広報委員 ・日本・移植再生医療看護学会評議員選挙管理委員会 選挙管理委員

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本家族看護学会編集委員 事務局 【シンポジウム】 ・Komasawa N, Doi Y, Take A, Ohashi T Kaori (4 of 7) (2018). Application of Simulation-based Training to Japanese Interprofessional Education, (高槻) 【講演・講義】 ・大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野)講師, 2017年2月2日～14日(大阪) 【講演会】 ・平成29年度大阪医科大学研究拠点育成奨励助成 「シミュレーション環境を活用した多職種連携教育システムの構築～医看融合教育を中心に～」, 多職種連携教育とシミュレーション教育法第1～3回講演会運営, 2017年11月21日・2018年1月22日・3月16日(大阪)
近澤幸	研究成果報告. 家庭で行われる新生児期および乳児期の沐浴・入浴についての初産婦・経産婦の困りごと: 高槻地区周産期地域連携の会, 高槻保健センター, 2018.12.20
土井智生	文化看護学会第11回学術集会 企画委員
山埜ふみ恵	日本看護研究学会第45回学術集会企画・運営委員

VII. 地域・社会貢献

地域・社会貢献

赤澤千春	大阪医科大学三島南病院看護師研修（中堅）
佐々木綾子	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ものの会」運営
鈴木久美	乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人
田中克子	シンメディカル糖尿病セミナー 世話人（2018.11.17） 日本看護研究学会第 45 回学術集会企画・運営委員
津田泰宏	B 型肝炎教育資料開発（看護学生向け） 看護学系漢方教育研究会 世話人
泊祐子	岐阜県重症心身障がい児者看護人材育成研修会、「重症心身障がい児者の看護概論」講義（平成 26 年度より） 大阪医科大学看護学部家族看護研究会 在宅看護学と共催（平成 23 年より） 2018 年度 大阪医科大学家族看護研修会『今さら聞けない、家族への看護一 家族看護における家族の見方』12 月 22 日主催 2018 年度 大阪医科大学家族看護研修会 『明日からの実践のヒントを得る』 3 月 17 日主催
真継和子	在宅看護研究会 主催 大阪医科大学看護学部家族看護研究会 小児看護学領域と共催 倫理事例研究会（大阪医科大学大学院看護学研究科修士課程）アドバイザー 大学ー地域ー病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！ プロジェクト cocokara」健康支援活動 cocokara サロン主催 NPO 法人シーン 街かどデイハウス「元気いっぱいサロン」介護予防教室 講師 市民フォーラム『「看取り」での経験を語る会ー大切な人との時間を考えるーい ま、そして、これからー』主催（2017.6.17, 2017.9.9, 2018.11.18 開催）. 2018 年度 大阪医科大学家族看護研修会『今さら聞けない、家族への看護一 家族看護における家族の見方』2018.12.22 開催 2018 年度 大阪医科大学家族看護研修会『あすからの実践のヒントを得る』 2019.3.17 開催
道重文子	NPO 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク、ふれあい喫茶での健康相談 関西オーラルマネジメント研究会ハンズオンセミナーの開催, 2018.5.20 大阪医科大学ブランディング事業, Come Kamu サロンの運営
吉田久美子	大阪医科大学ブランディング事業, Come Kamu サロンの運営
カルデナス 暁東	シンメディカル糖尿病セミナー 世話人（2018.11.17） 高槻市認知症予防講座 講師（2018.7.27）（2018.12.25） 高槻市社会福祉事業団主催「高槻エイフボランティアネットワーク地区研究会」 講師（2019.3.11）
久保田正和	認知症を理解し地域で支える会会員 医工薬連環科学プロジェクト委員会委員

	<p>【査読】 久保田正和, 大阪医科大学看護研究雑誌, 9, 2018</p>
寺口佐與子	<p>リンパ浮腫 Net 世話役 リンパ浮腫 net 第10回症例検討会 主催 (2018.5.12) リンパ浮腫 net 第1回大阪地区会 主催 (2019.2.24)</p>
山崎歩	大阪くるみの会(小児1型糖尿病の会)運営委員
川北敬美	大阪医科大学研究ブランディング事業 カムカムサロン
佐野かおり	<p>大学ー地域ー病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！プロジェクト cocokara」三島南病院における健康支援活動 NPO 法人シーン 街かどデイハウス「元気いっぱいサロン」街かど介護予防教室実施 市民フォーラム『「看取り」での経験を語る会ー大切な人との時間を考えるーいま、そして、これからー』主催 (2017.6.17, 2017.9.9, 2018.11.18 開催).</p>
樋上容子	<p>ななーる訪問看護ステーション主催. 認知症ケア多職種勉強会. 「認知症ケアの実際ー生活リズムを整えるー」講演 2019年2月 ななーる訪問看護ステーション主催. 認知症ケア多職種勉強会. 「認知症ケアの実際ー事例から見える認知症のケアー」講演 2018年12月 社会福祉法人寺田萬寿会寺田万寿病院主催市民公開講座. 「認知症と上手に暮らすには」講演 2018年8月</p>
上山ゆりか	<p>認知症を理解し地域で支える会 実行委員 認知症の人と家族のための情報交流と相談会 役員 (大阪)</p>
大橋尚弘	<p>【市民講座】 ・第14回医学シミュレーション学会学術集市民公開講座, 災害・急変対応とシミュレーション教育, 2019年1月12日, (運営) ・公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2017年度(後期)指定公募「市民の集い開催への助成」, 「看取り」での経験を語る会大切な人との時間を考えるーいま、これから「在宅医療」知っていますか?家で最期まで療養したい人に」, 第1回(2018年6月17日)・第2回(9月9日)・第3回(11月18日)企画・運営, 大阪医科大学在宅看護学部在宅看護主催, (高槻) 【地域住民を対象とした活動】 ・大学ー地域ー病院協働型健康支援活動による人材育成プロジェクト「いきいき！プロジェクト cocokara」三島南病院における健康支援活動, 大阪医科大学在宅看護学部在宅看護主催, (実施) ・NPO 法人 SEAN 街かどデイハウス「生きがい工房 元気いっぱいサロン」街かど介護予防教室, 2018年4月19日, 5月17日, 9月20日, 2019年2月21日, (実施)</p>

VIII. その他

その他

赤澤千春	大阪医科大学附属病院 形成外科外来 リンパ浮腫看護外来従事
田中克子	中国山西医科大学看護職の日本における慢性疾患患者の継続看護研修プログラム 担当
道重文子	大阪医科大学雑誌編集委員
元村直靖	読売新聞 記事掲載 12月 カウンセラー心のケア
吉田久美子	平成 30 年度 日本看護協会長表彰受賞
瓜崎貴雄	FROMPAGE 主催国公立大学・私立大学合同進学ガイダンス 夢ナビライブ 2018 (大阪会場) 「人の気持ちをよりよく理解するためには？」 講師
カルデナス 暁東	大阪医科大学附属病院皮膚科外来 「メイクセラピー看護外来」従事 中国山西医科大学看護職の日本における慢性疾患患者の継続看護研修プログラム 担当
寺口佐與子	大阪医科大学附属病院 形成外科外来 リンパ浮腫看護外来従事
川北敬美	FROMPAGE 主催国公立大学・私立大学合同進学ガイダンス 夢ナビライブ 2018 (大阪会場) 「あなたに合った看護師ライフとは？」 講師
竹明美	平成 30 年度大阪医科大学研究拠点育成奨励助成 : 研究課題名「シミュレーション環境を活用した多職種連携教育システムの構築～医看薬融合教育を中心に～」の活動として多職種連携教育とシミュレーション教育法第 4～6 回講演会運営 (2018 年 9 月 21 日・11 月 13 日・2019 年 2 月 18 日開催 : 大阪医科大学 シミュレーション教育法講習会運営・チューター (2018 年 11 月 30 日、12 月 7 日、2019 年 1 月 24 日、2 月 7 日開催 : 大阪医科大学)
上山ゆりか	大阪医科大学三島南病院 兼業
大橋尚弘	在宅看護研究会の企画・運営 (2018 年 7 月 19 日, 9 月 20 日, 11 月 15 日, 2019 年 1 月 17 日)
近澤幸	平成 30 年度看護学部第 3 回 FD : 看護学部におけるアクティブ・ラーニングの推進 -教育実践例の共有と今後のあり方-, 2019.3.13

編集後記

本年度も「大阪医科大学看護学部年報 2018年度」を無事に発刊することができました。発刊におきまして皆様のご尽力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

大阪医科大学看護学部年報も8巻の発行となりました。大阪医科大学看護学部・看護学研究科として、1年間の大学と大学院運営の取り組みや教育・研究活動および地域や社会における様々な活動の内容をご紹介します。今後の活動や自己点検等に役立てていただけましたら幸いです。

最後に年報作成にご協力いただきました教員をはじめ関係者各位の皆様に深くお礼を申し上げます。

大阪医科大学看護学部 年報編集委員会

大阪医科大学
看護学部 2018 年度年報

発行日	令和元年 7 月 31 日
発 行	大阪医科大学看護学部 〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町 7-6
編 集	看護学部 年報編集委員会 吉田久美子 道重文子 カルデナス暁東 寺口佐與子 山本暁生
制 作	知人社

